

⑪第 216 号住居跡 A・B

【位置・検出状況】調査区北部に検出。調査率は 100%。掘り込みが浅く、覆土の堆積は希薄。はっきりとした切り合い関係は不明だが、ピットや炉の配置から住居跡 2 軒が重なっている可能性がある。西側に掘り込み遺構が存在するが、同様に切り合い関係は不明である。

【形状・規模】掘り込みがほとんど無く、壁の立ち上がりも無いため住居範囲は判然としない。ピットの配置から推定すると、A は 300～320cm ほどの円形、B は長軸 (370)cm × (350)cm ほどの楕円形になると思われる。

【構造】A・B 合計 14 基検出。内 10 基が柱穴と捉えられ、216 号住居跡 A・B ともに 4 本あるいは 5 本主柱穴と考えられる。

【炉】A は住居中央に検出。炉体土器を伴い、長軸 60cm × 短軸 (50)cm ほどの楕円形で、最深部でも 10cm 程度の浅い掘り込みである。B も住居中央に検

出。平面円～楕円形の土坑が 3 つ連なるように重複しており、南から北へと新しくなる。中央の土坑中層には焼土が厚く堆積しており、作業場を伴う地床炉としての利用が考えられる。

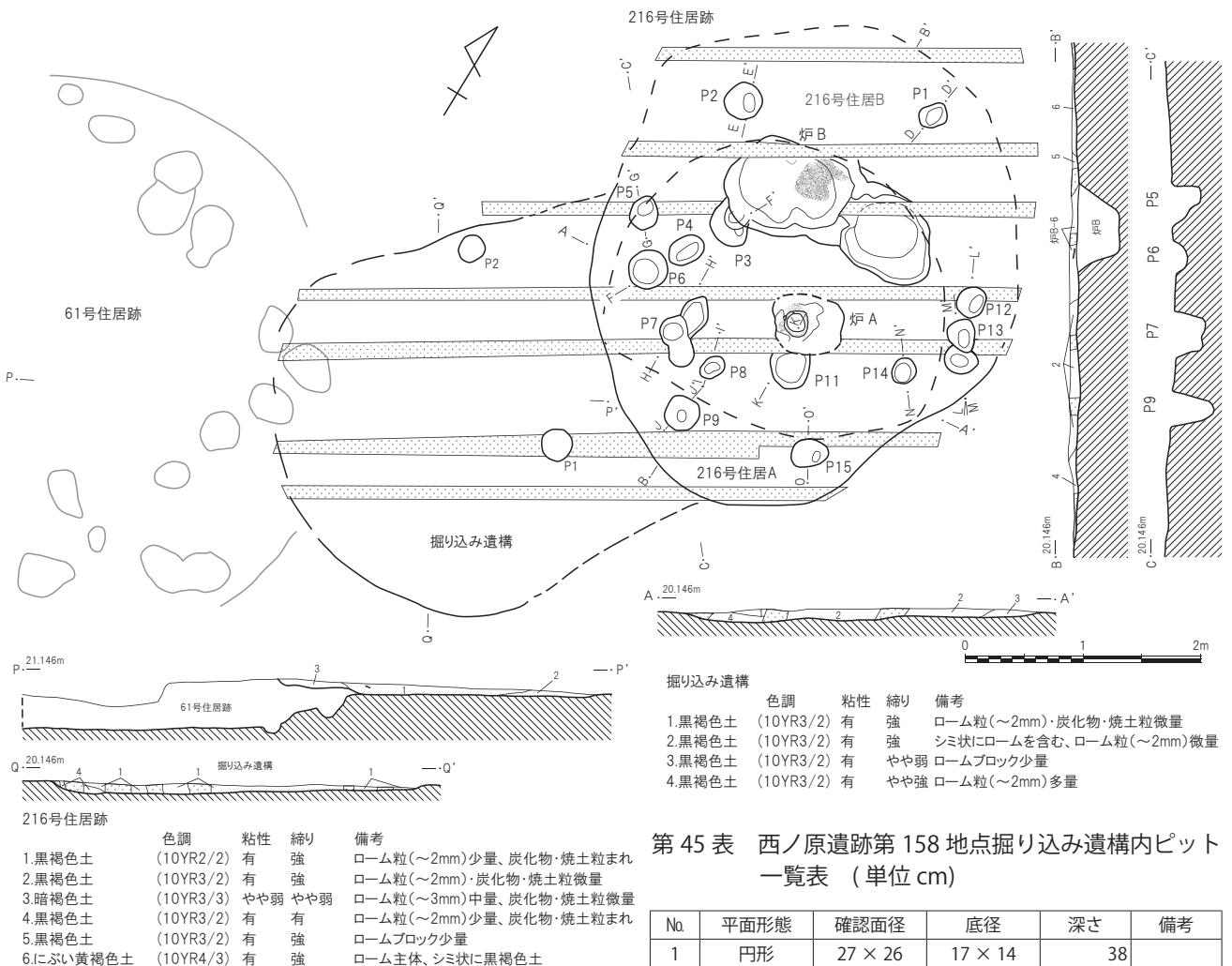
【遺物】No.5 はピット 7 の覆土に半分埋まった状態で出土。その上部には土の堆積を 5cm ほど挟み No.2 が出土している。炉 B からは、最上層に No.3 がまとまって出土し、同一個体破片も覆土から出土している。また、接合はしないが No.22 と同質の胎土を持つ破片が上層～下層から出土している。

【時期】216 号住居跡 A は炉体土器より勝坂Ⅲ式、216 号住居跡 B は加曾利 EⅢ式と考えられる。

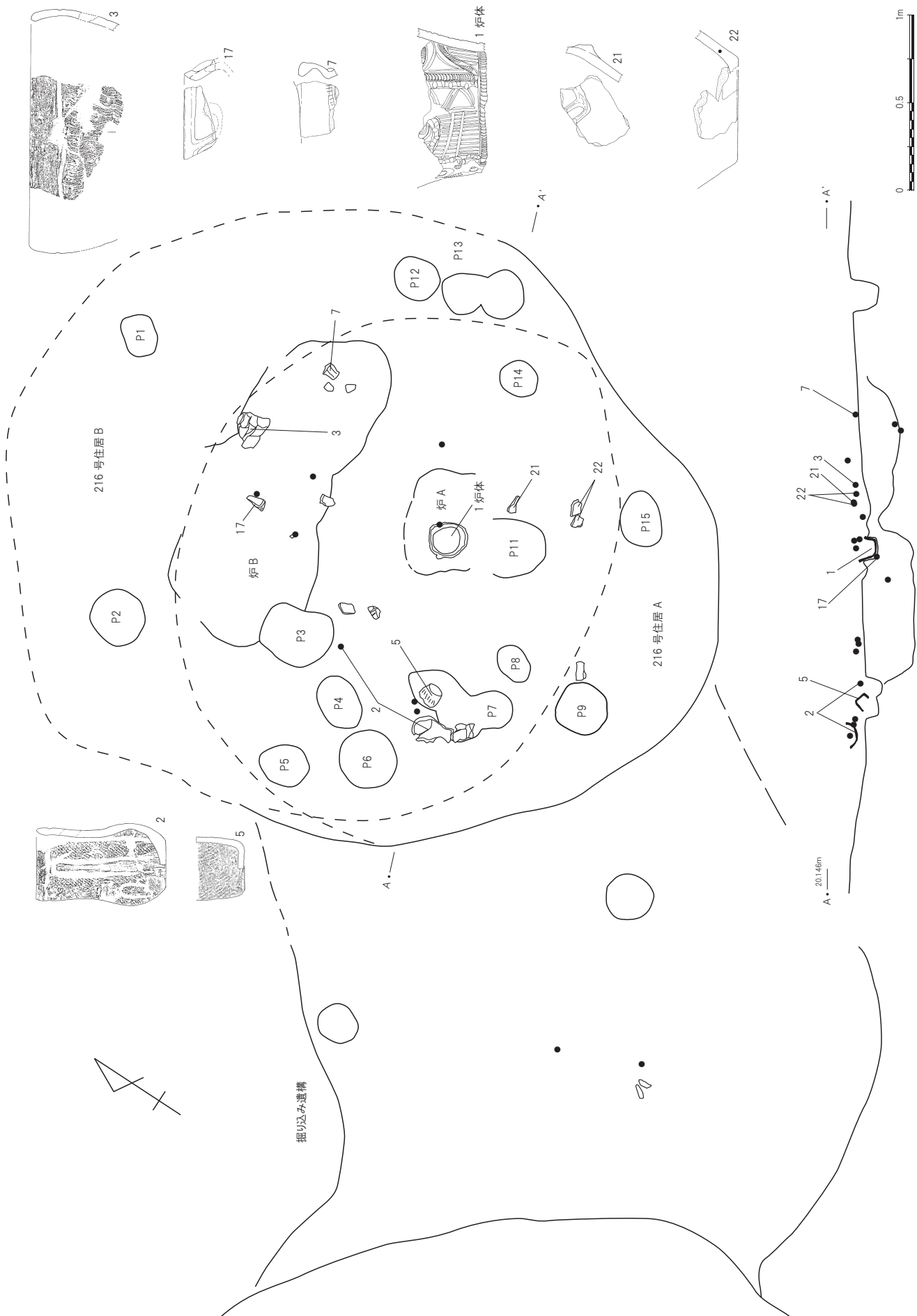
(2) 掘り込み遺構

【位置・検出状況・所見】調査区北部、61 号住居跡、216 号住居跡の間に位置する。非常に浅いが、人為的に掘り込んだ痕跡は確認できる。また独立した遺構ではなく、住居に付随する施設である可能性もある。

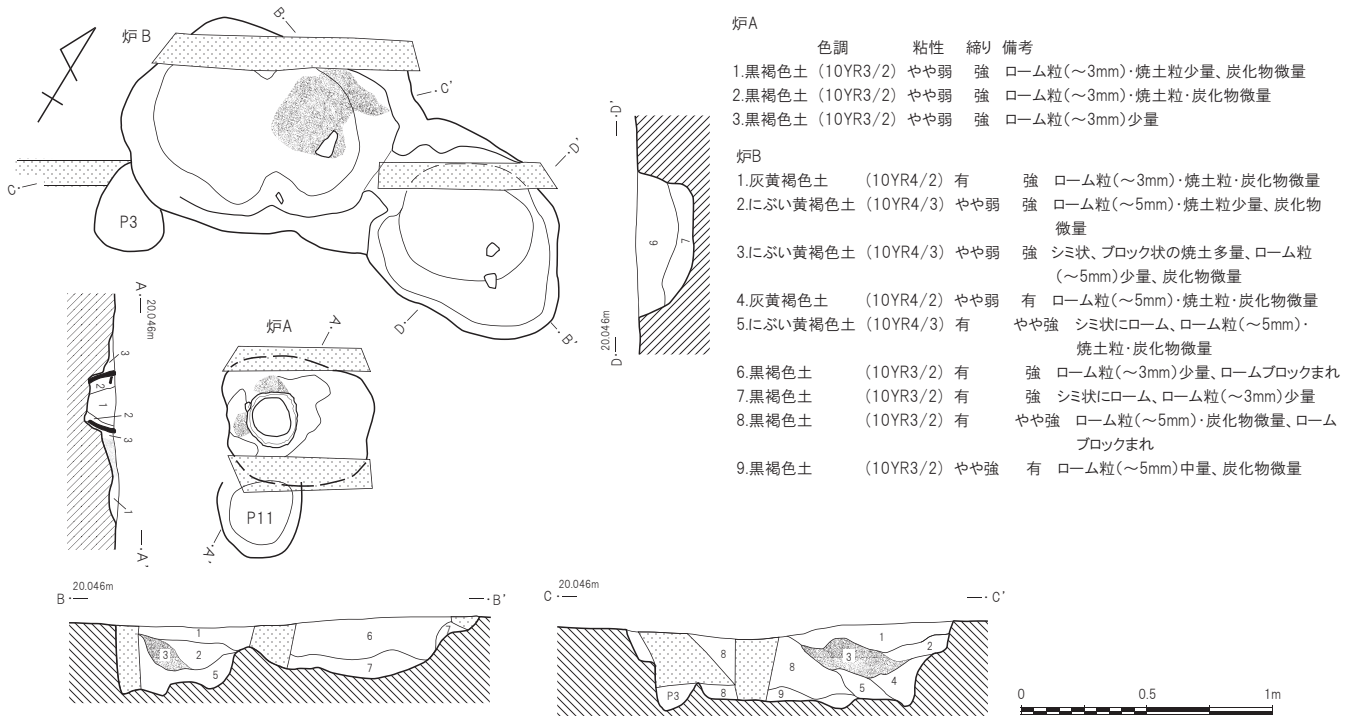
遺構内では遺物も少量だが出土している。



第 68 図 西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡 A・B(1/60)



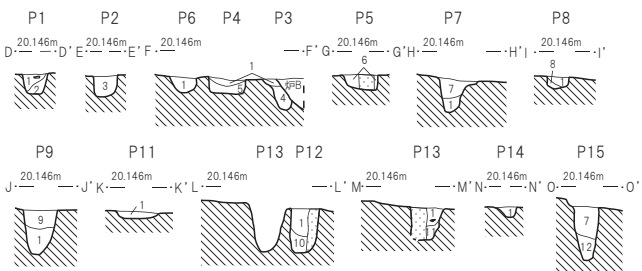
第69図 西ノ原遺跡第158地点216号住居跡A・B、掘り込み遺構遺物出土状況(1/30)



色調	粘性	締り	備考
1. 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱	強	ローム粒(～3mm)・焼土粒少量、炭化物微量
2. 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱	強	ローム粒(～3mm)・焼土粒・炭化物微量
3. 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱	強	ローム粒(～3mm)少量
炉B			
1. 灰黄褐色土 (10YR4/2)	有	強	ローム粒(～3mm)・焼土粒・炭化物微量
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	やや弱	強	ローム粒(～5mm)・焼土粒少量、炭化物微量
3. にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	やや弱	強	シミ状、ブロック状の焼土多量、ローム粒(～5mm)少量、炭化物微量
4. 灰黄褐色土 (10YR4/2)	やや弱	有	ローム粒(～5mm)・焼土粒・炭化物微量
5. にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	有	やや強	シミ状にローム、ローム粒(～5mm)・焼土粒・炭化物微量
6. 黒褐色土 (10YR3/2)	有	強	ローム粒(～3mm)少量、ロームブロックまれ
7. 黒褐色土 (10YR3/2)	有	強	シミ状にローム、ローム粒(～3mm)少量
8. 黒褐色土 (10YR3/2)	有	やや強	ローム粒(～5mm)・炭化物微量、ロームブロックまれ
9. 黒褐色土 (10YR3/2)	やや強	有	ローム粒(～5mm)中量、炭化物微量

P1～15

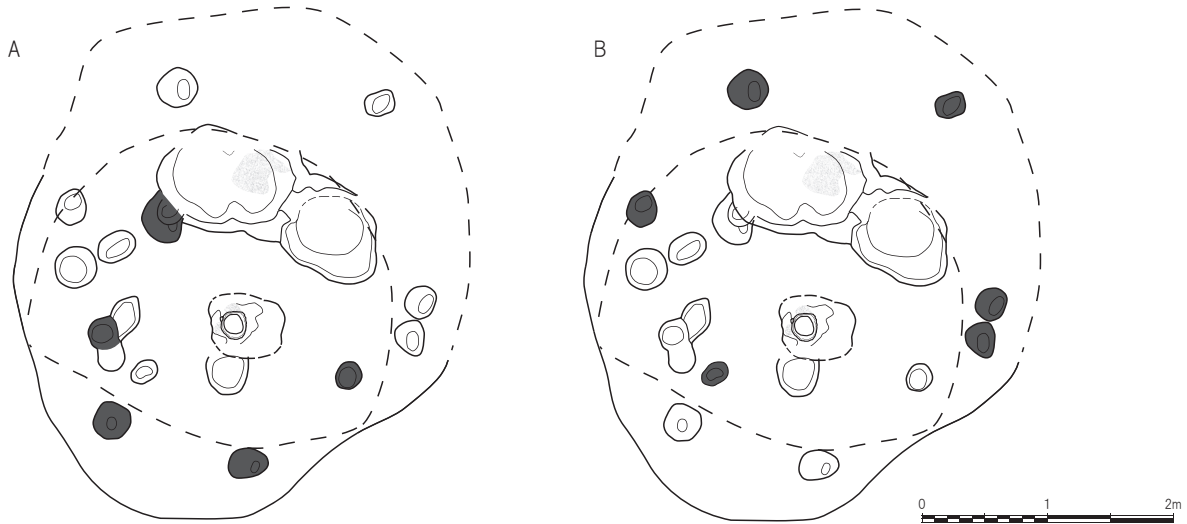
第46表 西ノ原遺跡第158地点216号住居内ピット一覧表 (単位 cm)



ピット	色調	粘性	締り	備考
1. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	強	ローム粒(～2mm)微量、炭化物まれ
2. 黒褐色土	(10YR3/2)	強	強	ロームブロック少量
3. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	強	ローム粒(～3mm)少量、ロームブロック微量
4. 黒褐色土	(10YR3/2)	強	やや弱	ローム粒(～3mm)微量、炭化物まれ
5. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	極強	ロームブロック多量
6. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	強	ローム粒(～5mm)微量
7. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	強	ローム粒(～2mm)少量、炭化物まれ
8. にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	有	有	ロームブロック少量
9. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	強	ローム粒(～3mm)少量
10. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	強	ローム粒(～2mm)・ロームブロック微量
11. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	強	ローム粒(～2mm)・ロームブロック微量
12. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	強	ロームブロック少量

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	24 × 18	17 × 11	17	
2	円形	31 × 30	16 × 9	20.1	
3	不明	(40) × 36	14 × 9	40.8	
4	楕円形	32 × 22	23 × 8	13.4	
5	円形	29 × 25	14 × 11	26	
6	円形	33 × 32	22 × 20	12.2	
7	不整形	50 × (23)	16 × 14	27	
8	楕円形	22 × 15	13 × 7	15.7	
9	円形	29 × 28	10 × 7	36.4	
10	欠				炉2に変更
11	円形	38 × 33	25 × 24	6.1	
12	円形	25 × 23	15 × 9	36.7	
13	だるま形	45 × 23	15 × 9	34.6	
14	円形	21 × 20	15 × 13	11.2	
15	楕円形	31 × 22	8 × 6	44.8	

216号住居跡A・B柱穴想定図



第70図 西ノ原遺跡第158地点216号住居跡炉(1/30)、216号住居内ピット(1/60)、A・B住居跡柱穴想定図(1/60)

(3) 竪穴遺構 (建物跡)

【位置・検出状況】 調査区北部にて 1/2 を検出。南部で 196 号住居跡と切り合い、本遺構が古い。

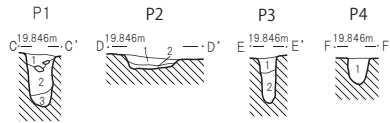
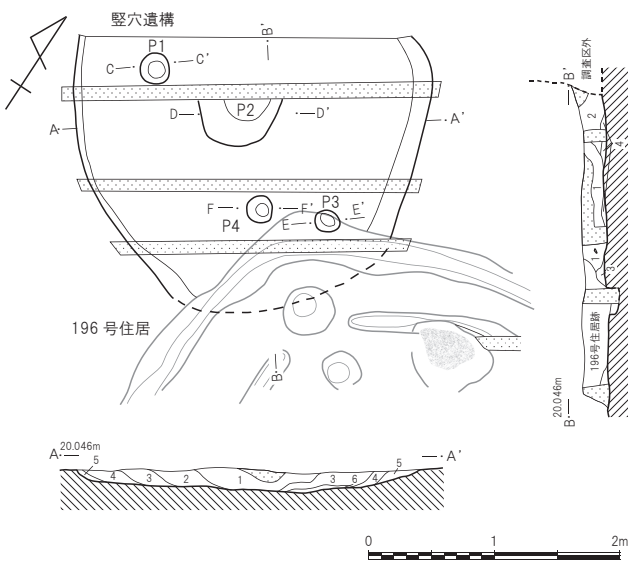
【形状・規模】 円～楕円形。検出部で南北 (180)cm×東西 280cm。深さは 201cm 程度。皿状を呈する。

【構造】 ピットは 4 基検出。細く小規模だが、2 本は柱穴と考えられる。

遺構中央に皿状の掘り込みが存在するが、焼土や被熱は確認できない。炉が未検出であり、柱穴も貧弱であることから、住居ないし建物とは考えられない。

【遺物】 出土量はさほど多くなく、主体は勝坂Ⅲ式であるが、阿玉台式や勝坂Ⅱ式もみられる。出土状況からは 2ヶ所に集中が見られるが、両者に土器型式的な違いは無く、廃棄の方向も共通する。西側の集中部からは、小型の深鉢胴下～底部が焼土ブロックを伴って出土した。土器は被熱が顕著で、焼土は土器内部にも入っており、中からこぼれたように周囲に広がっていた。土の詰まった状態で、ほとんど埋まりかけていた当遺構に破棄されたものと思われる。

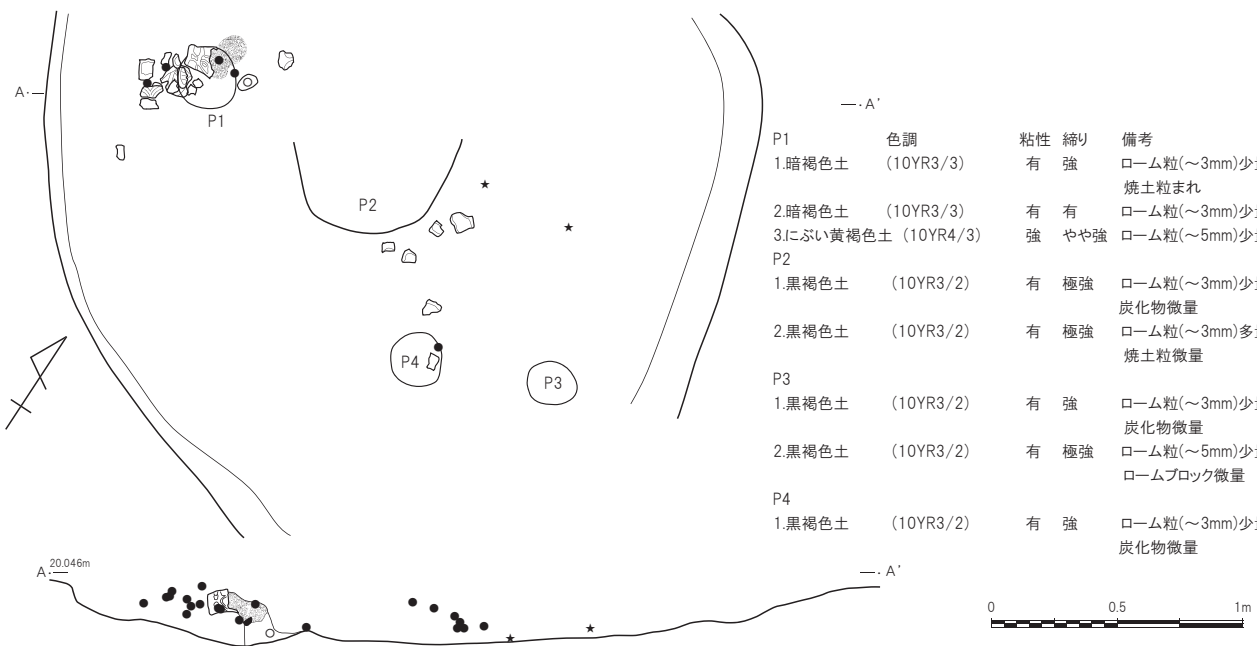
【時期】 勝坂Ⅲ式。



	色調	粘性	締り	備考
1. 黒褐色土	(10YR2/2)	有	強	ローム粒(～3mm)少量、焼土粒・炭化物微量
2. 黒褐色土	(10YR3/2)	有	極強	ローム粒(～3mm)少量、炭化物微量
3. 暗褐色土	(10YR3/3)	有	強	ローム粒(～3mm)少量、炭化物微量
4. 暗褐色土	(10YR3/3)	有	強	ローム粒(～5mm)少量、シミ状ににぶい黄褐色土
5. 暗褐色土	(10YR3/3)	有	有	ローム粒(～3mm)少量、キメ細かい
6. 暗褐色土	(10YR3/3)	有	極強	ロームブロック中量

第47表 西ノ原遺跡第158地点竪穴遺構内ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	25 × 24	15 × 13	45	
2	不明	66 × (36)	37 × (17)	15.1	
3	楕円形	20 × 17	13 × 8	35.7	
4	円形	21 × 20	10 × 10	21.1	



第71図 西ノ原遺跡第158地点竪穴遺構 (1/60)、遺物出土状況 (1/30)

(4) 土坑

土坑は調査区内で4基検出した。詳細については第72図及び第48表参照。

①土坑1

調査区北側、第196号住居跡の南側に位置する。出土遺物はない。

②土坑2

調査区中央やや南東部、第194号住居跡と第201号住居跡の間に位置する。大部分を攪乱によって破壊されているが、平面形態は楕円形を呈するものと考えられる。出土遺物はない。

第48表 西ノ原遺跡第158地点土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	65 × 40	11 × 8	50.1	
2	不明	112 × 84	94 × 72	11.9	
3	楕円形	212 × 128	182 × 81	53.4	
4	楕円形	108 × 90	94 × 77	25.8	

③土坑3

調査区中央部よりやや南、第194号住居跡の西側に位置する。出土遺物はない。

④土坑4

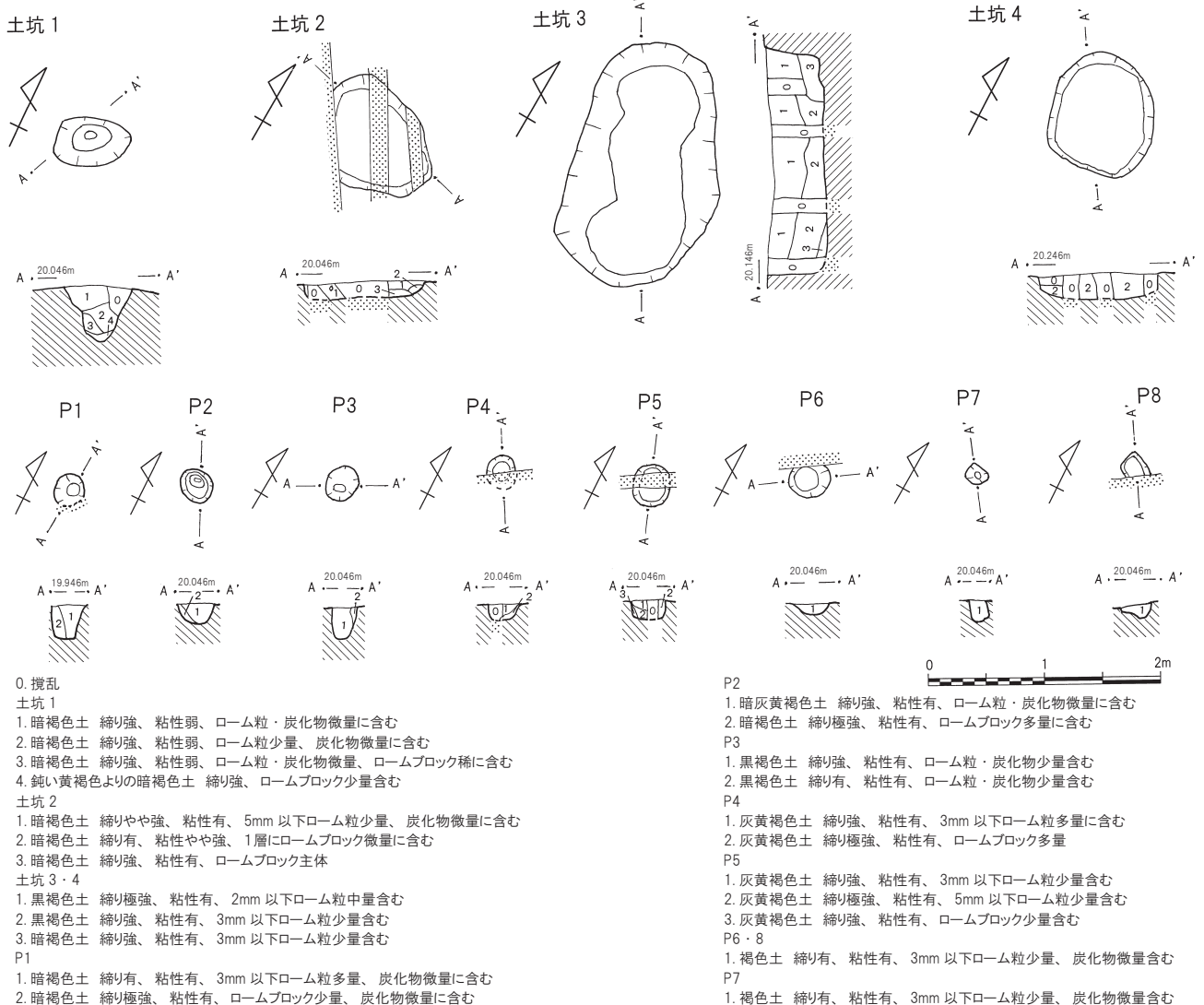
調査区西側に位置する。出土遺物はない。

(5) ピット

住居跡に伴わないピットは8基検出した。調査区東側に集中する傾向にある。いずれも出土遺物はなく、時期を特定できない。規模等詳細については第49表に掲載した。

第49表 西ノ原遺跡第158地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	(円形)	27 × (27)	12 × 12	30.8	
2	円形	30 × 25	7 × 3	27.4	
3	円形	32 × 27	12 × 7	27.6	
4	(円形)	25 × (15)	15 × (10)	15.6	
5	円形	36 × 31	(28) × 22	15.8	
6	不明	36 × (27)	21 × 21	8.8	
7	円形	20 × 18	7 × 6	23.9	
8	不明	23 × (21)	(17) × 16	10	



第72図 西ノ原遺跡第158地点土坑・ピット (1/60)



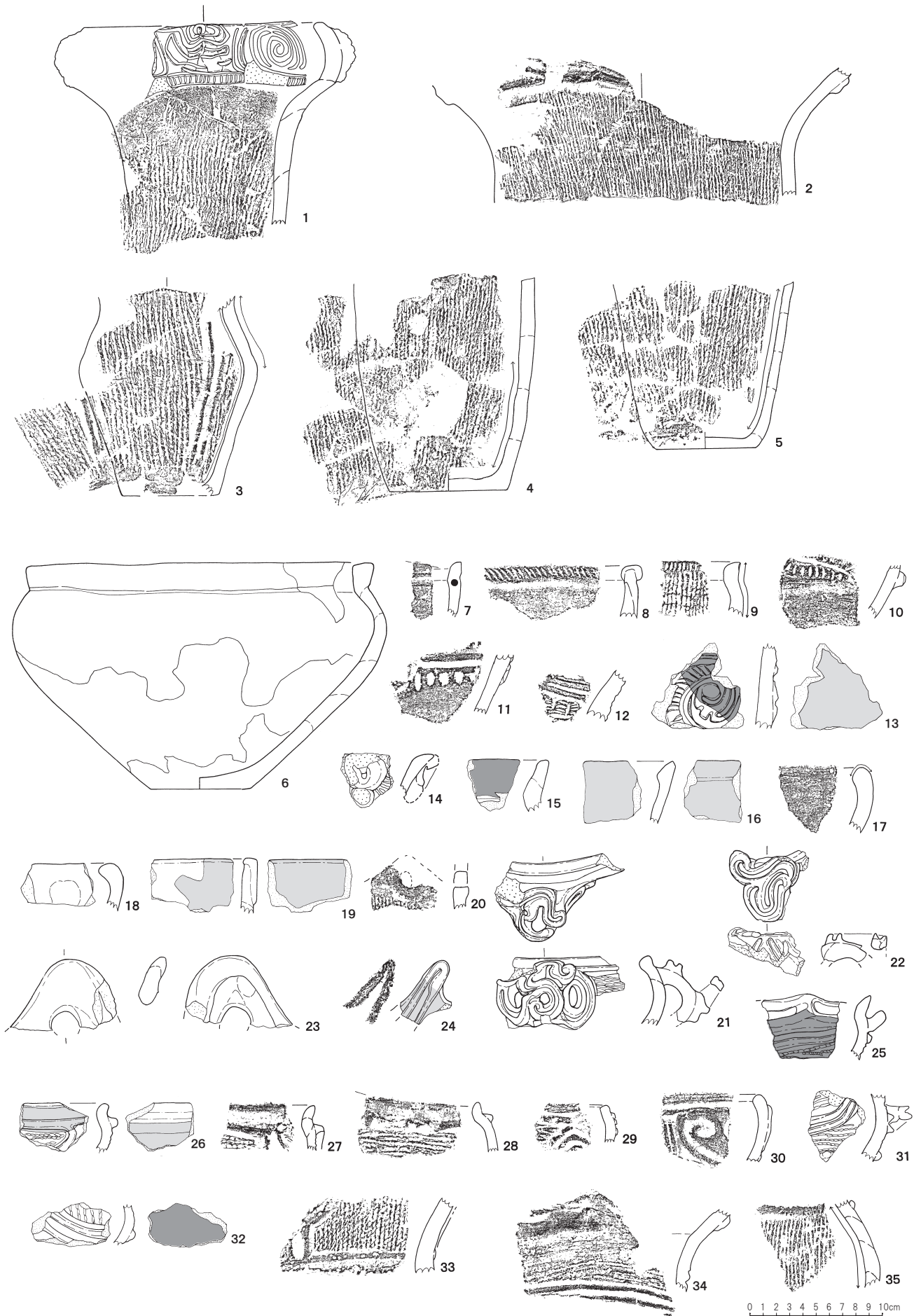
第73図 西ノ原遺跡第158地点61号住居跡出土遺物①(1/4)



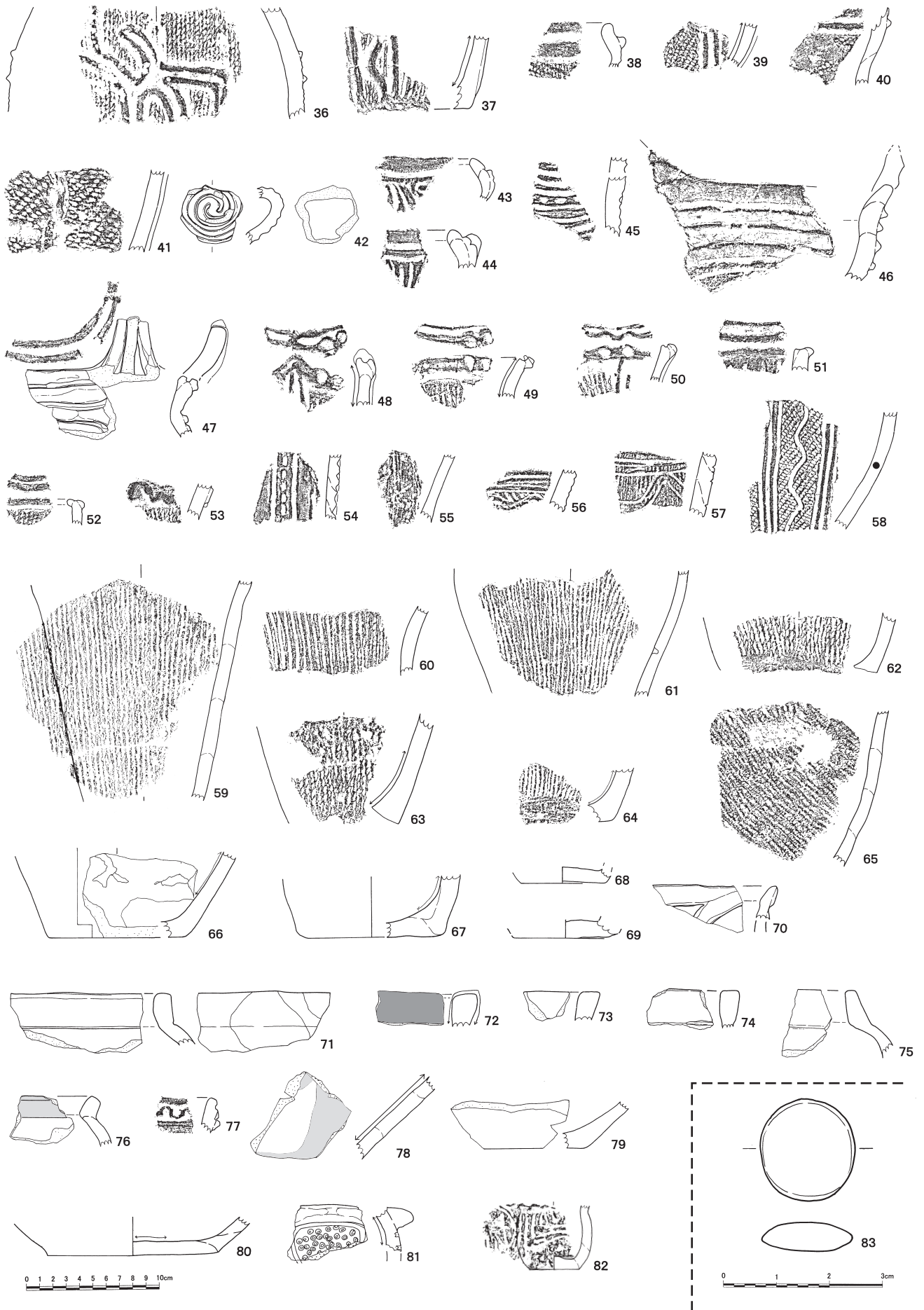
第 74 図 西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土遺物② (1/4)



第75図 西ノ原遺跡第158地点61号住居跡出土遺物③(1/4)

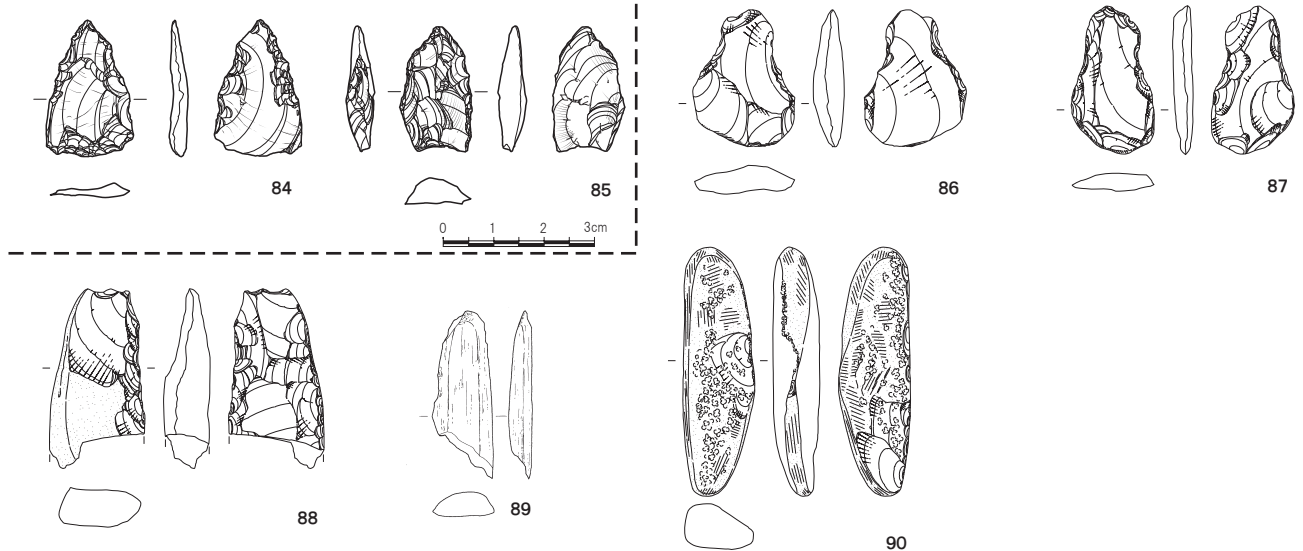


第 76 図 西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡出土遺物① (1/4)

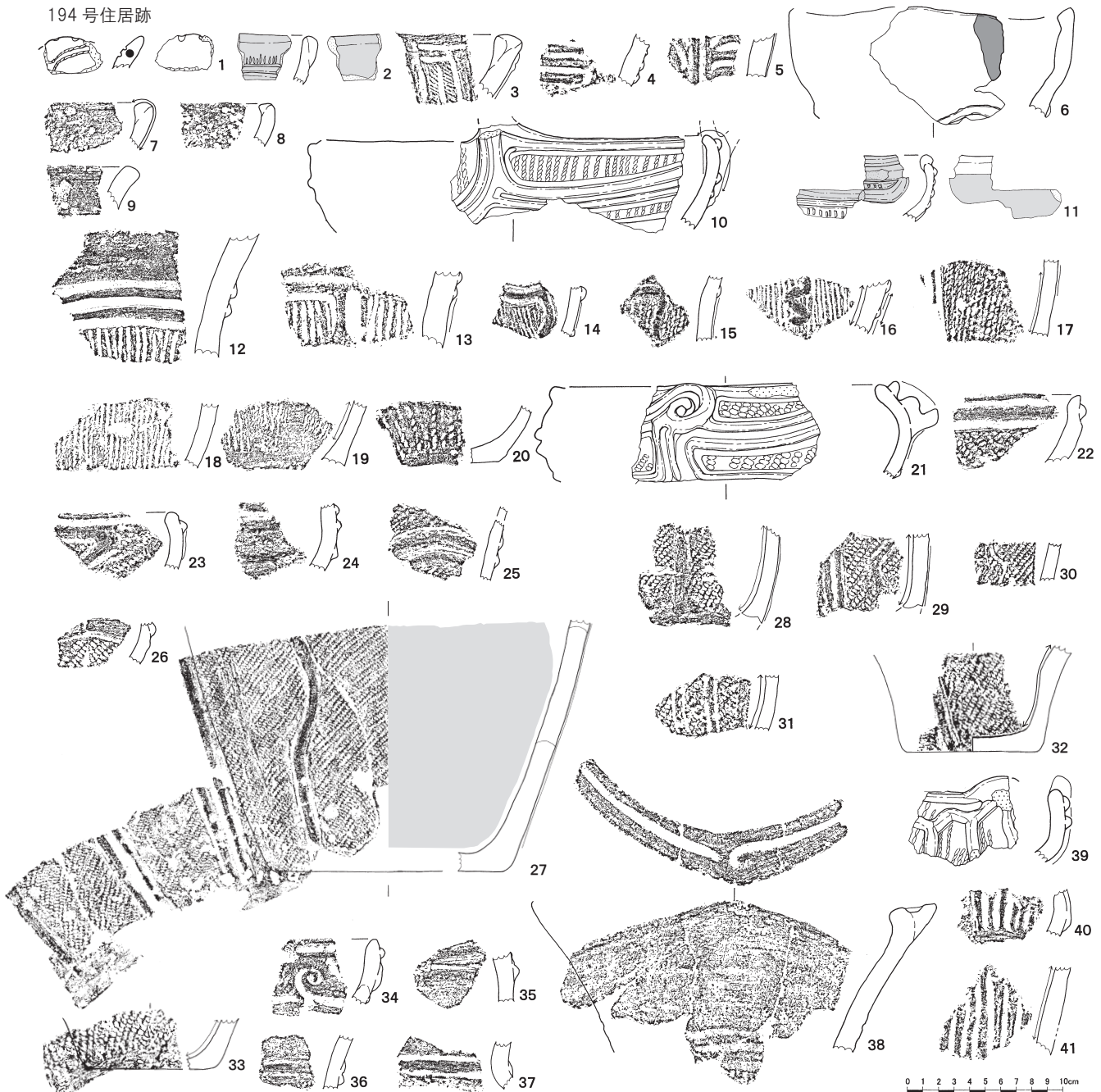


第77図 西ノ原遺跡第158地点62号住居跡出土遺物② (1/4・1/1)

62号住居跡

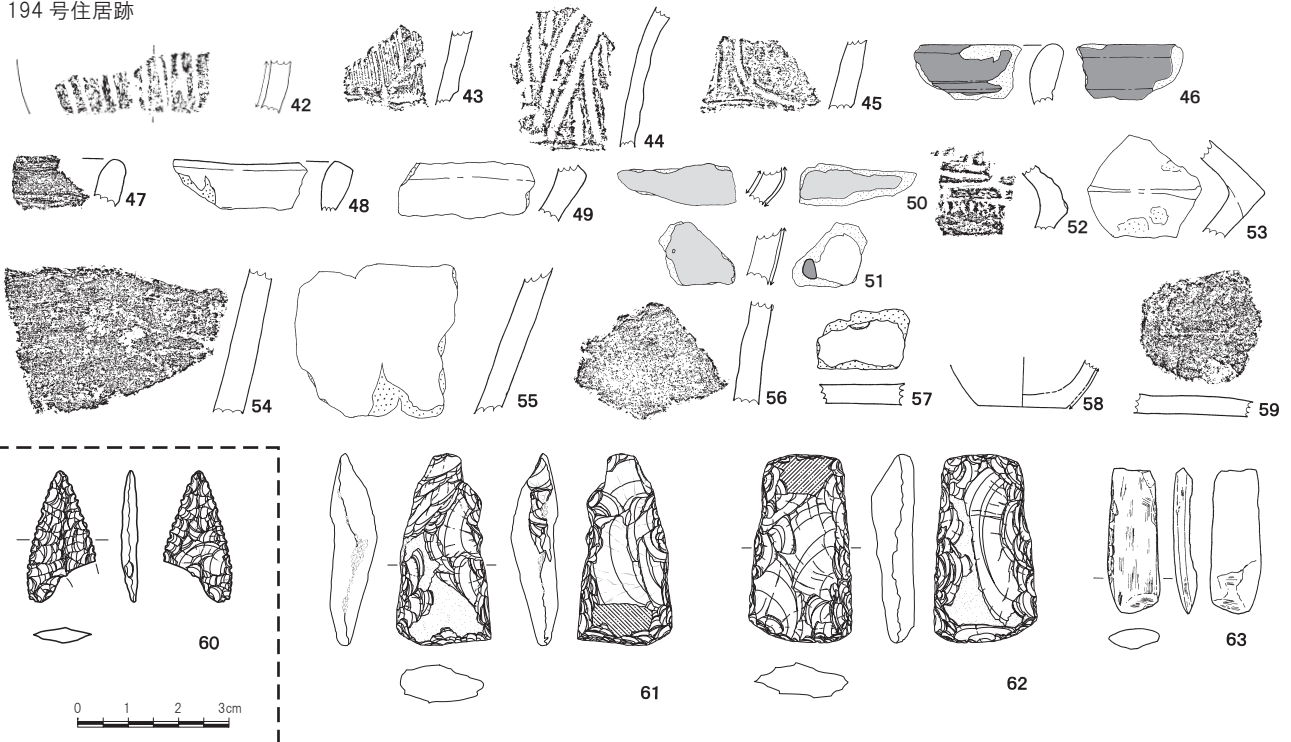


194号住居跡

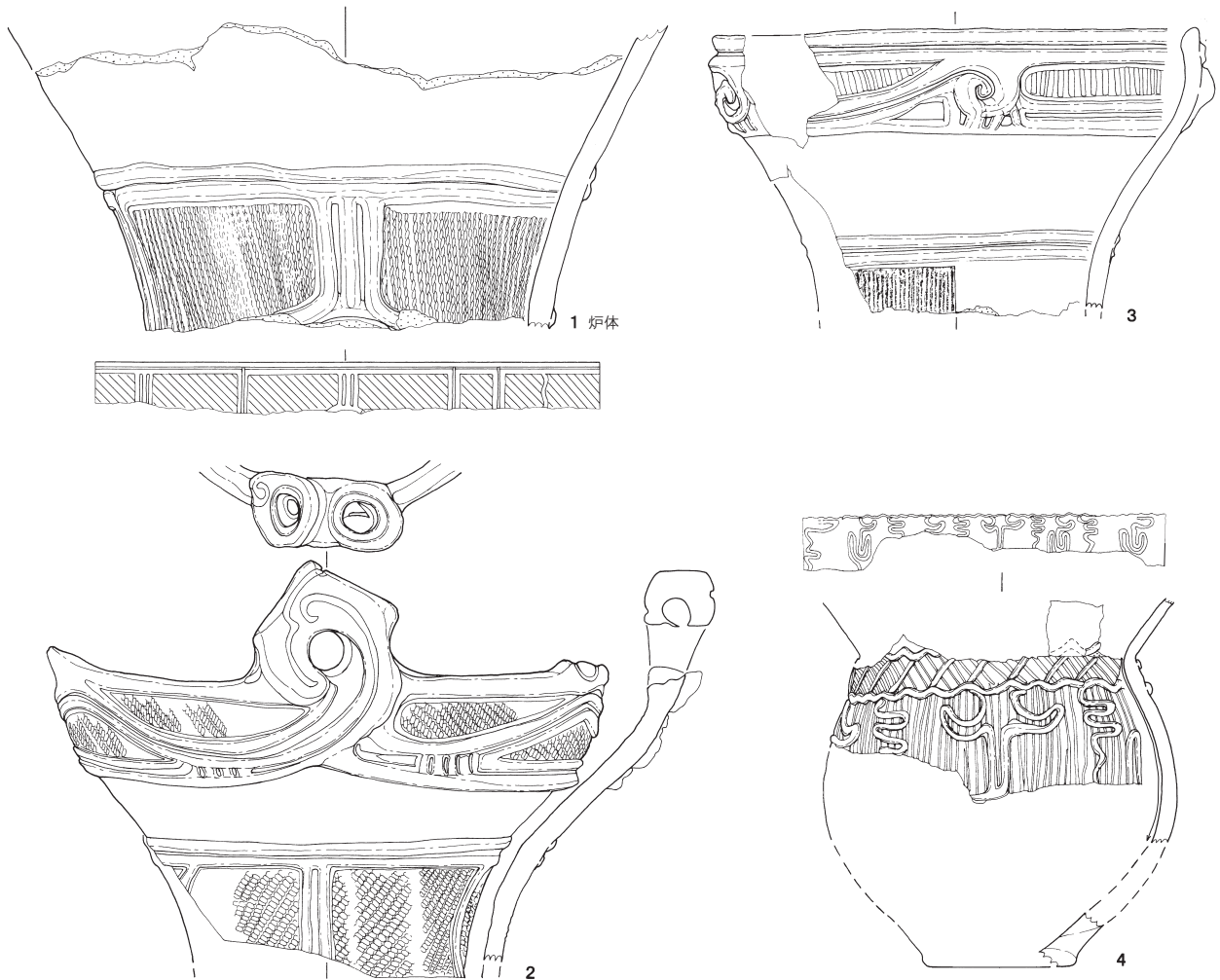


第78図 西ノ原遺跡第158地点62③・194①号住居跡出土遺物(1/4・2/3)

194号住居跡



196号住居跡

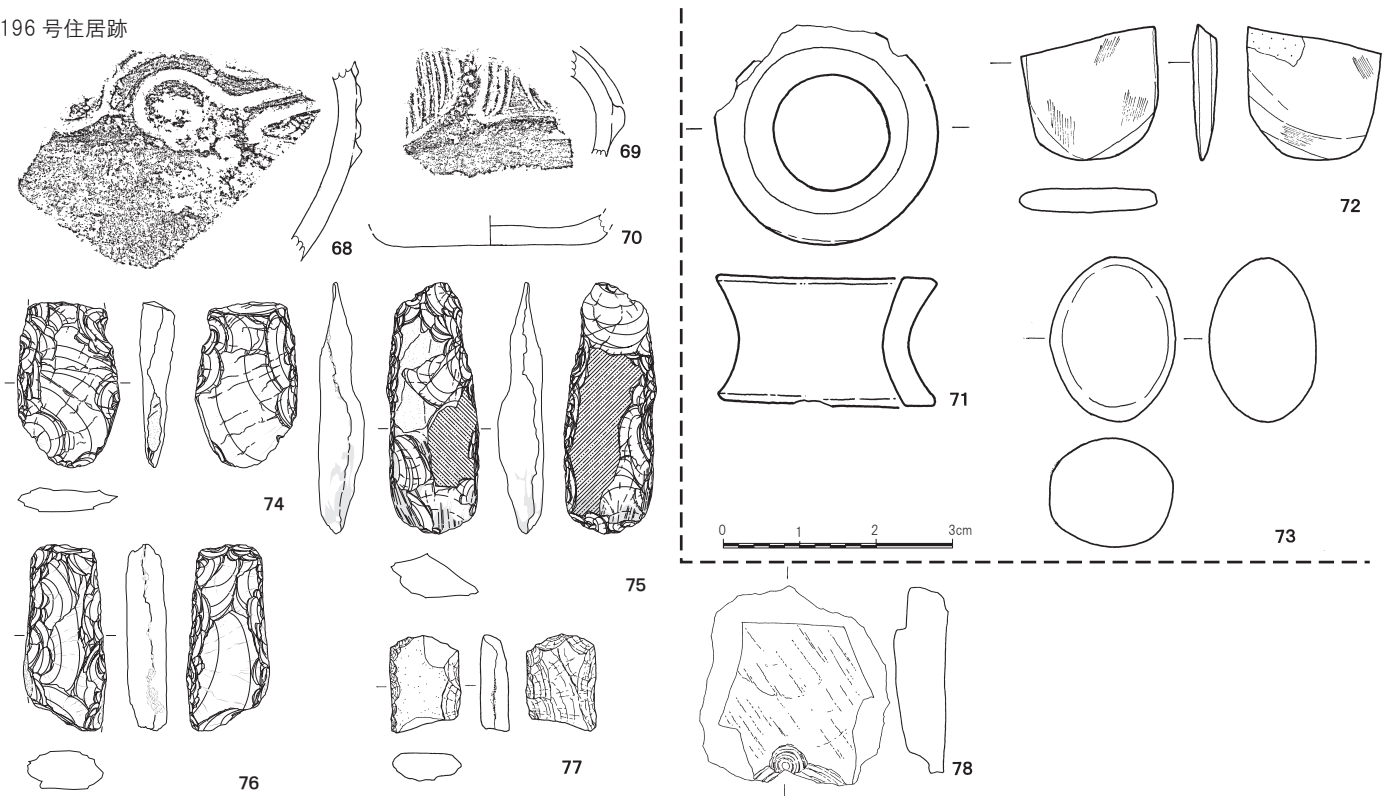


第79図 西ノ原遺跡第158地点194②・196①号住居跡出土遺物(1/4・2/3)

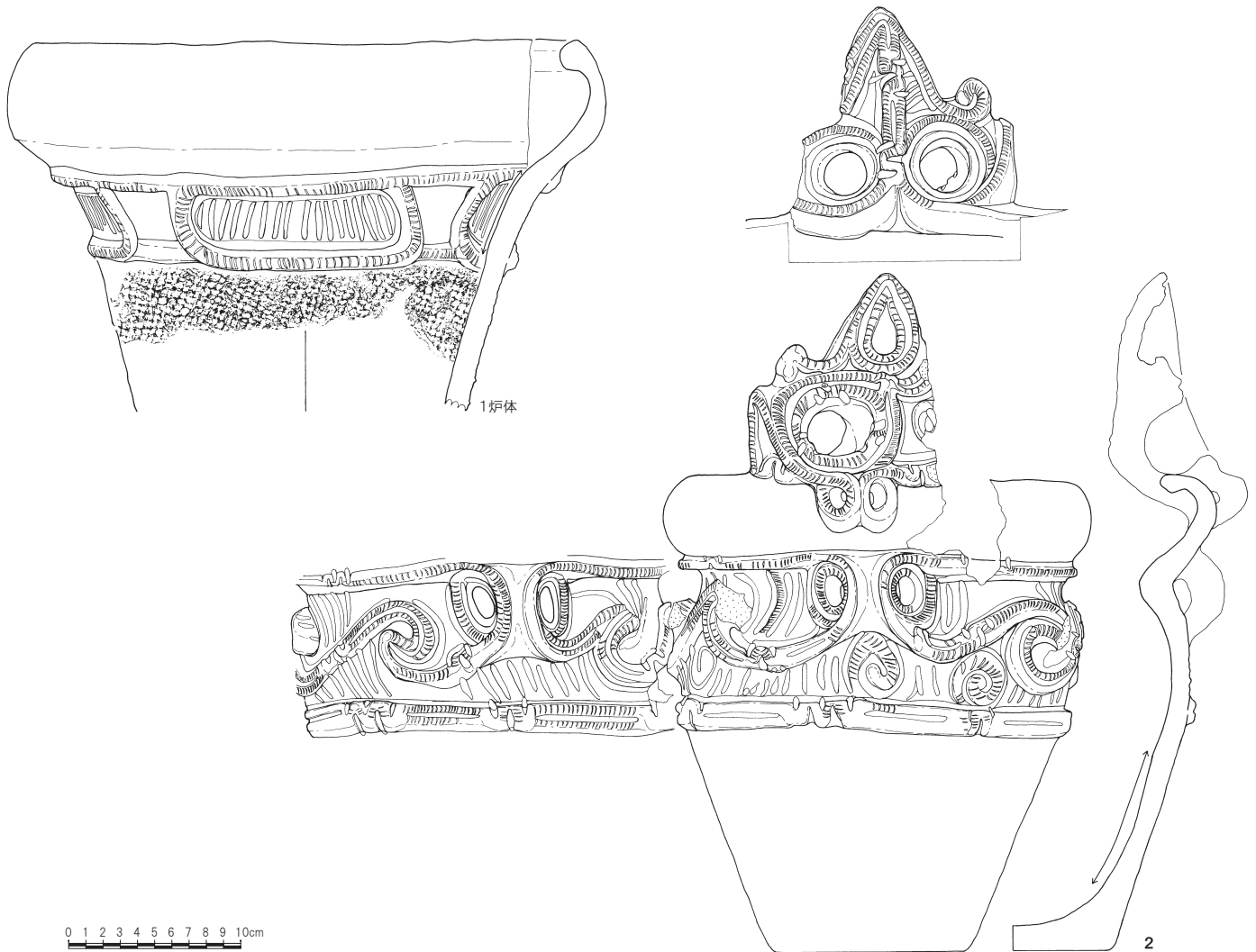


第 80 図 西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡出土遺物② (1/4)

196号住居跡



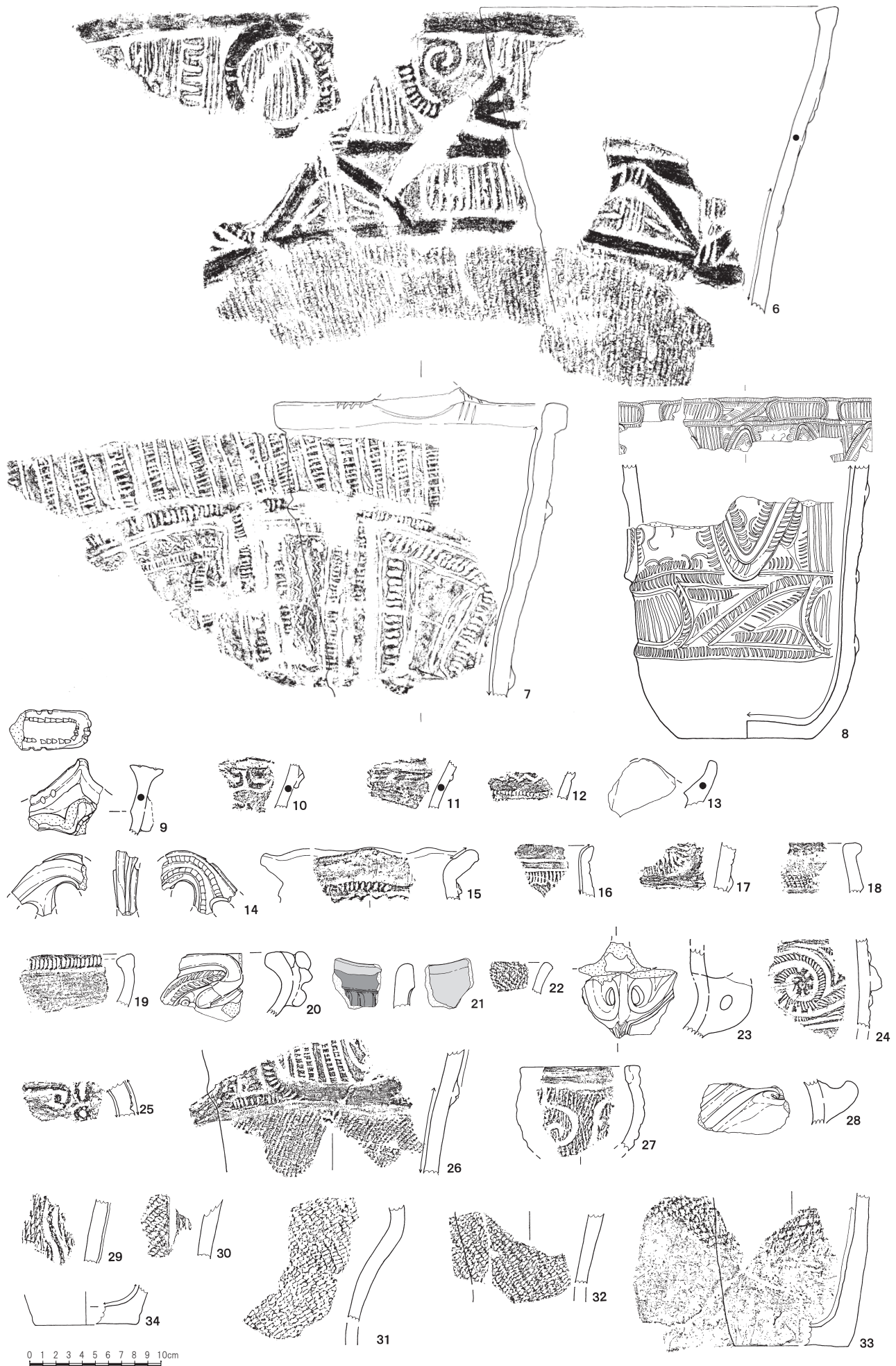
197号住居跡



第81図 西ノ原遺跡第158地点 196③・197①号住居跡出土遺物 (1/4・1/1)

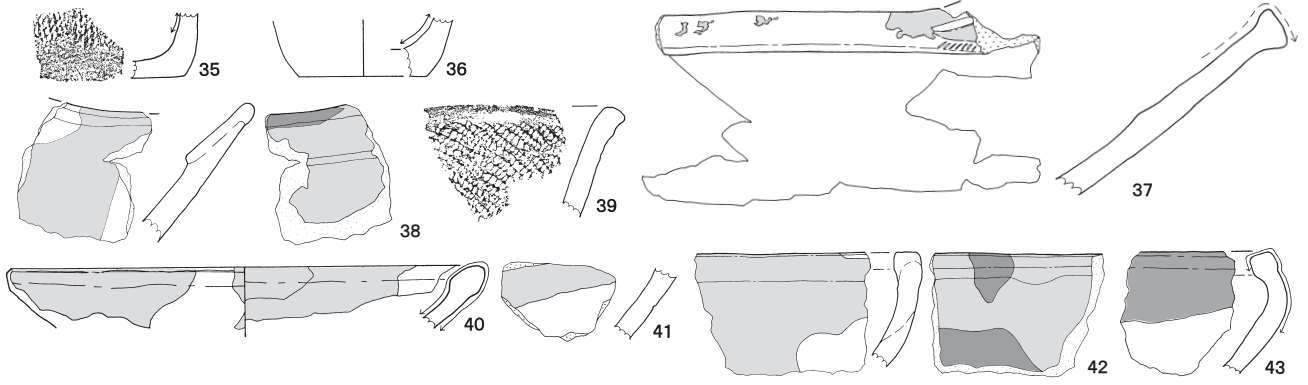


第 82 図 西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡出土遺物② (1/4)

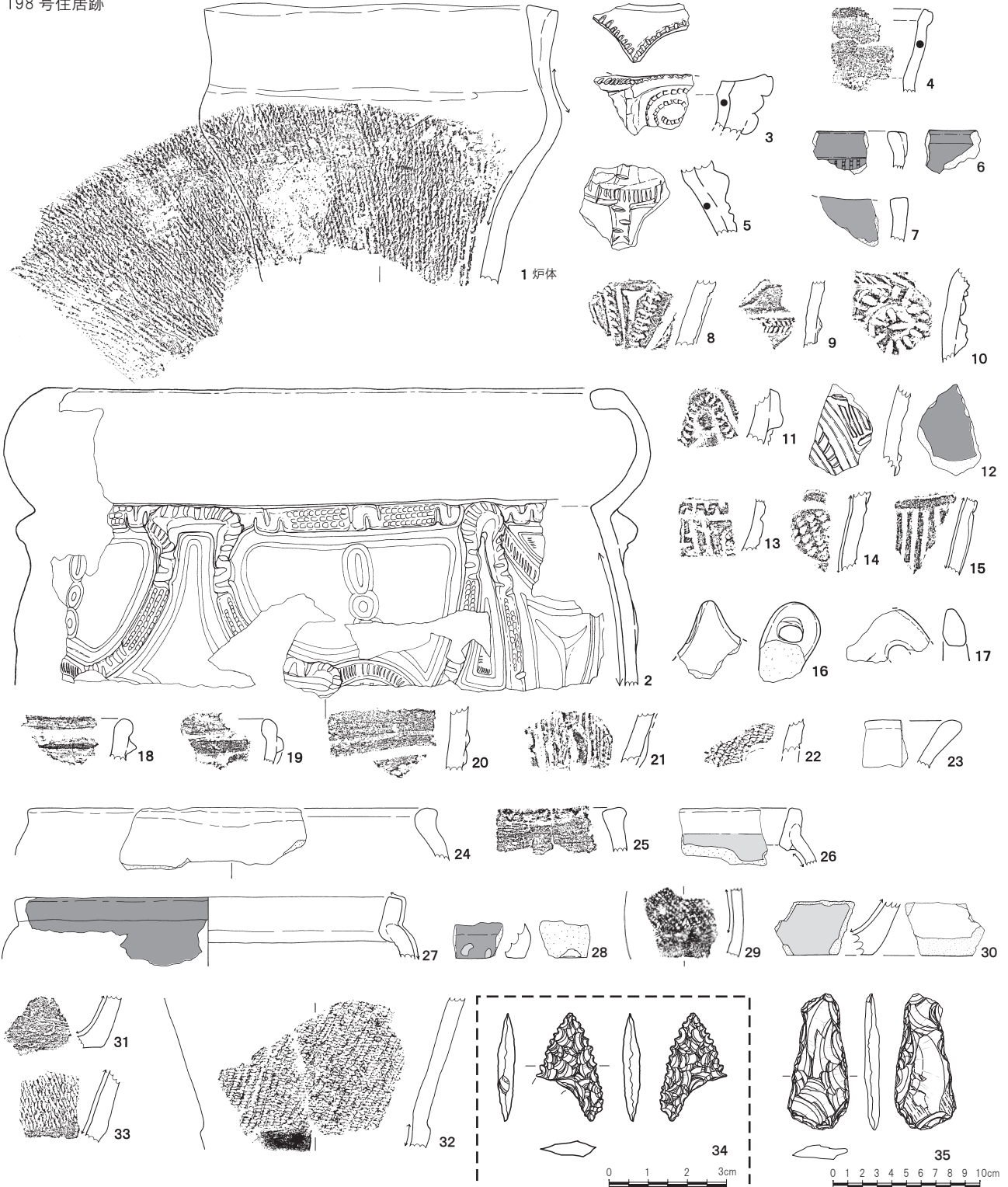


第83図 西ノ原遺跡第158地点197号住居跡出土遺物③(1/4)

197号住居跡

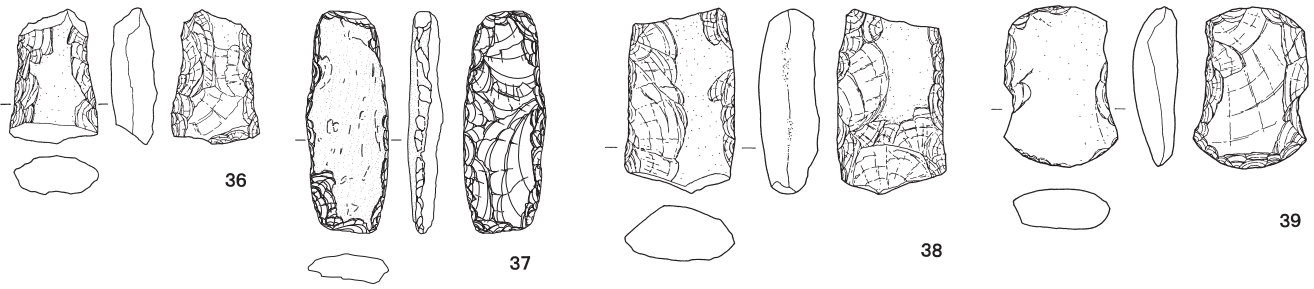


198号住居跡

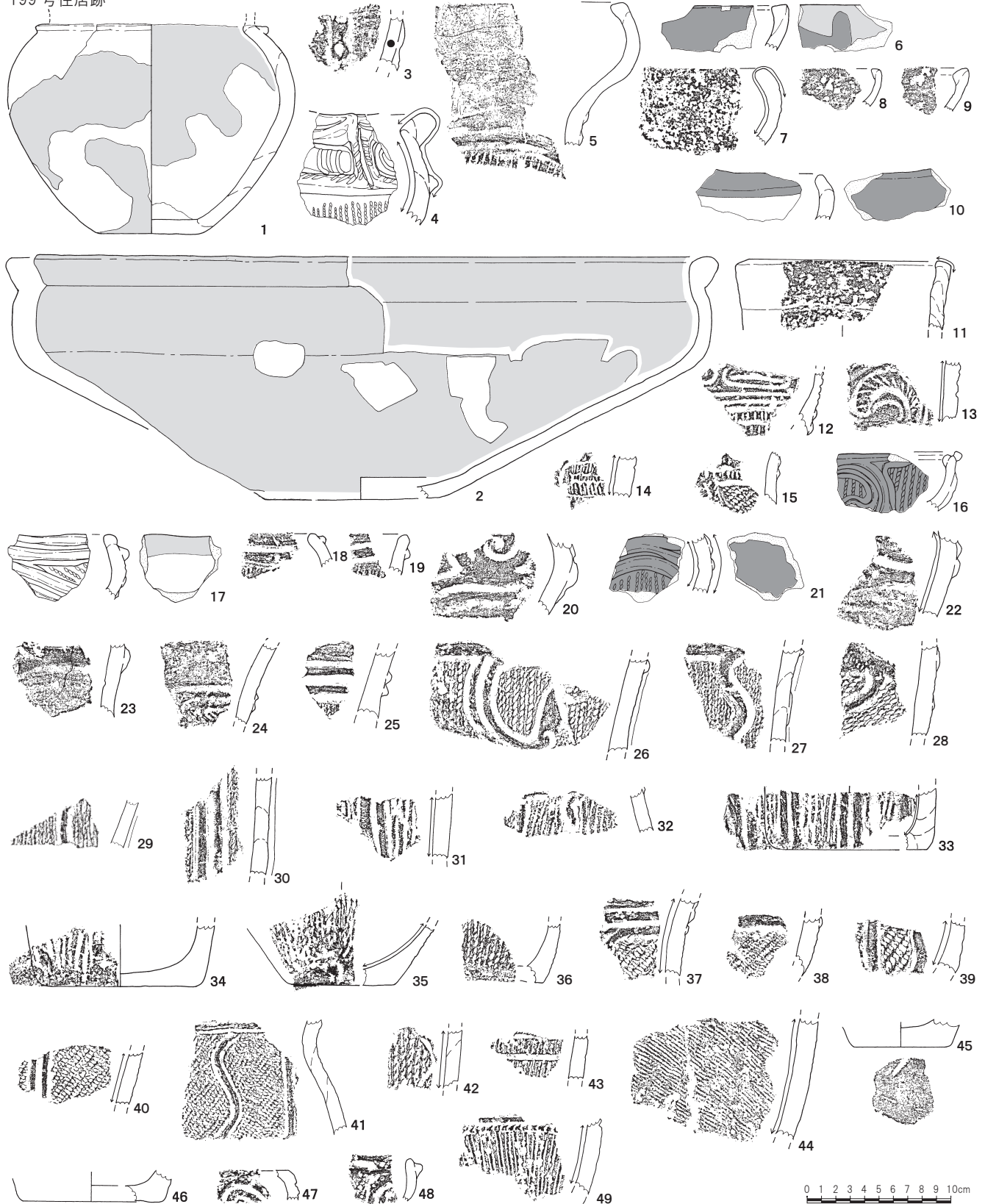


第84図 西ノ原遺跡第158地点197④・198①号住居跡出土遺物(1/4・2/3)

198号住居跡

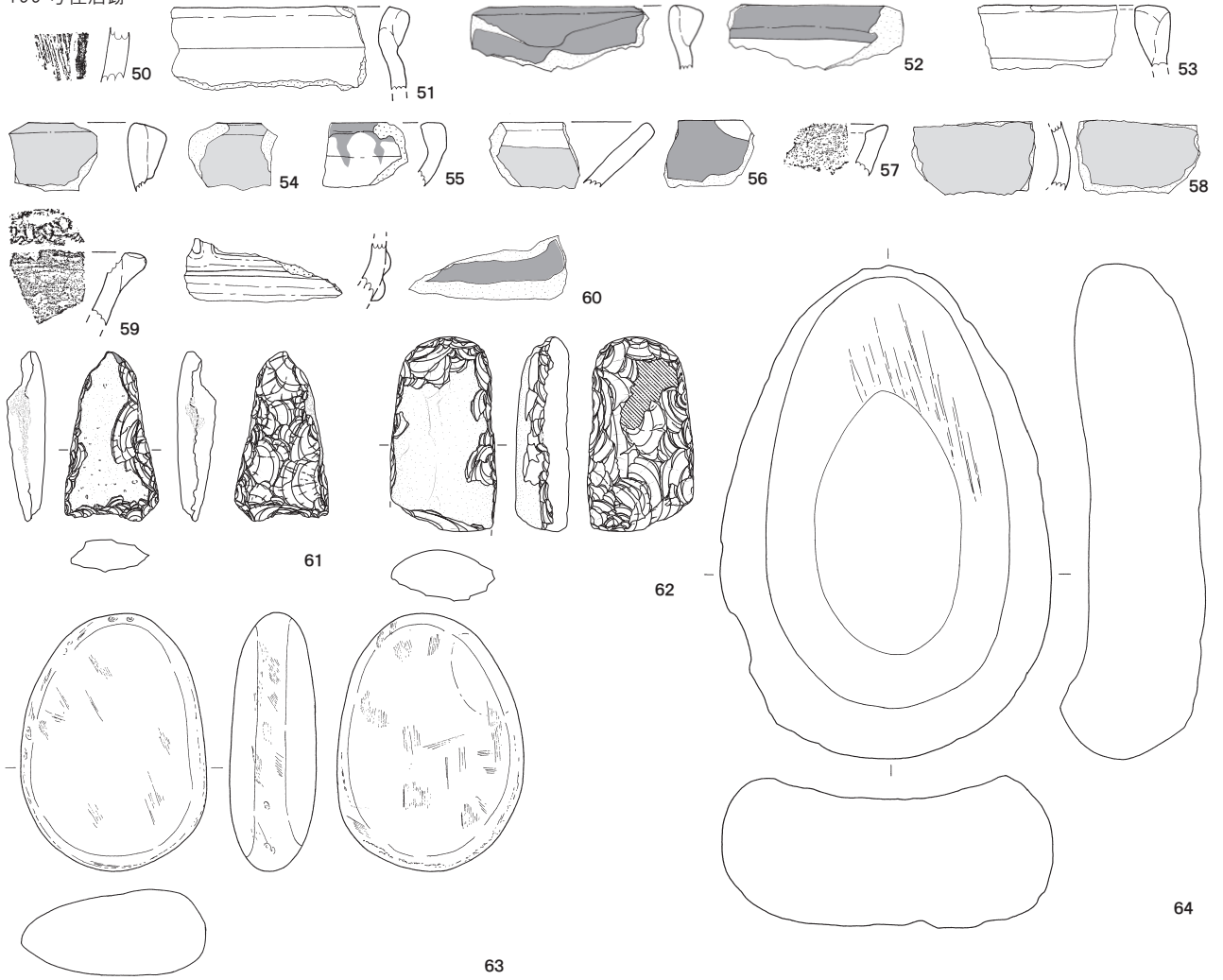


199号住居跡

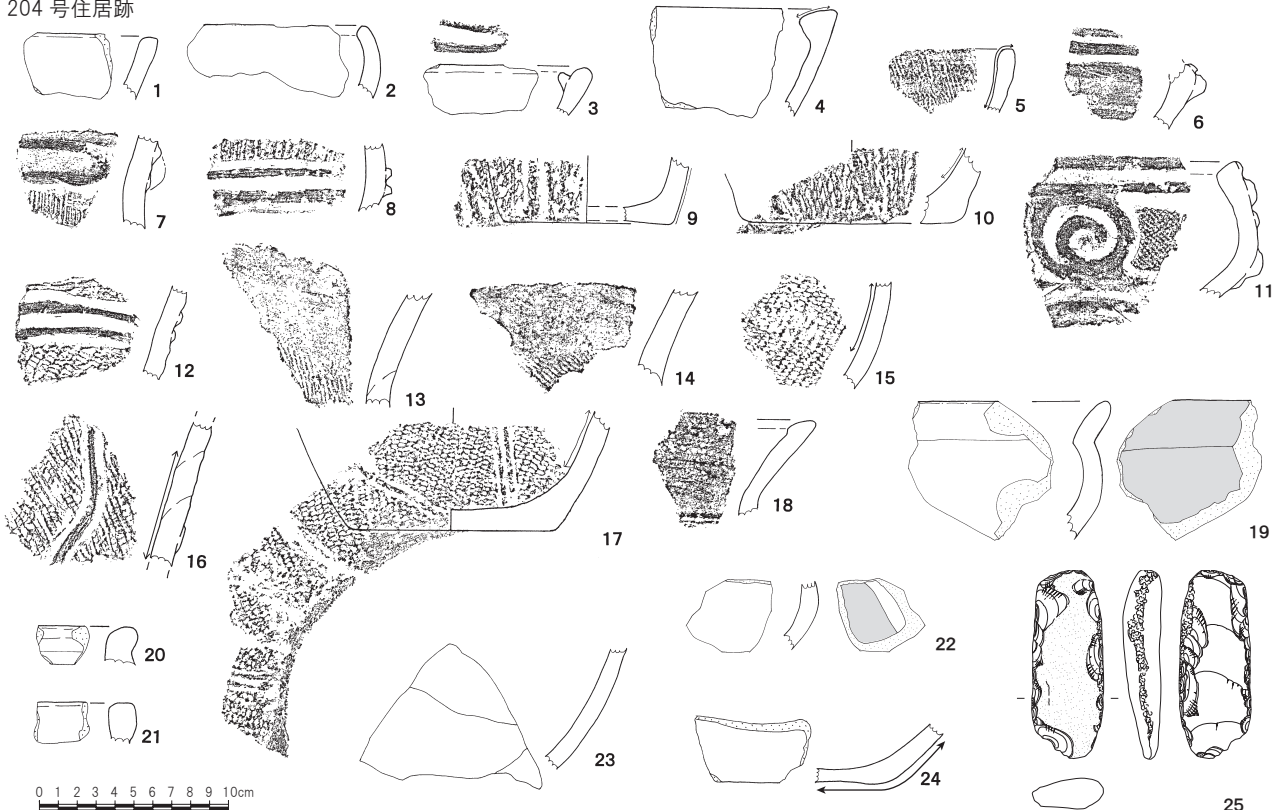


第85図 西ノ原遺跡第158地点 198②・199①号住居跡出土遺物(1/4)

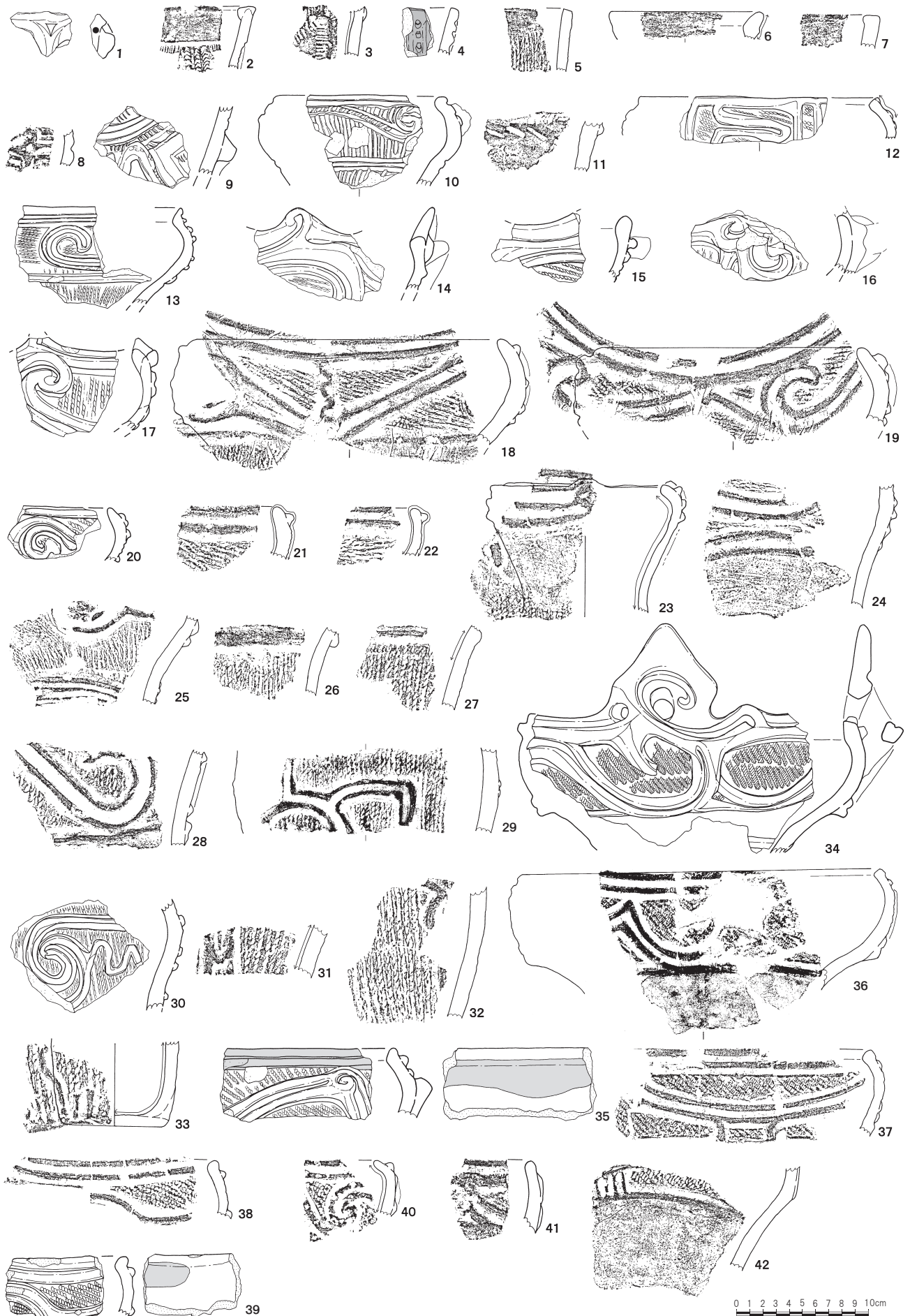
199号住居跡



204号住居跡



第86図 西ノ原遺跡第158地点199②・204号住居跡出土遺物(1/4)

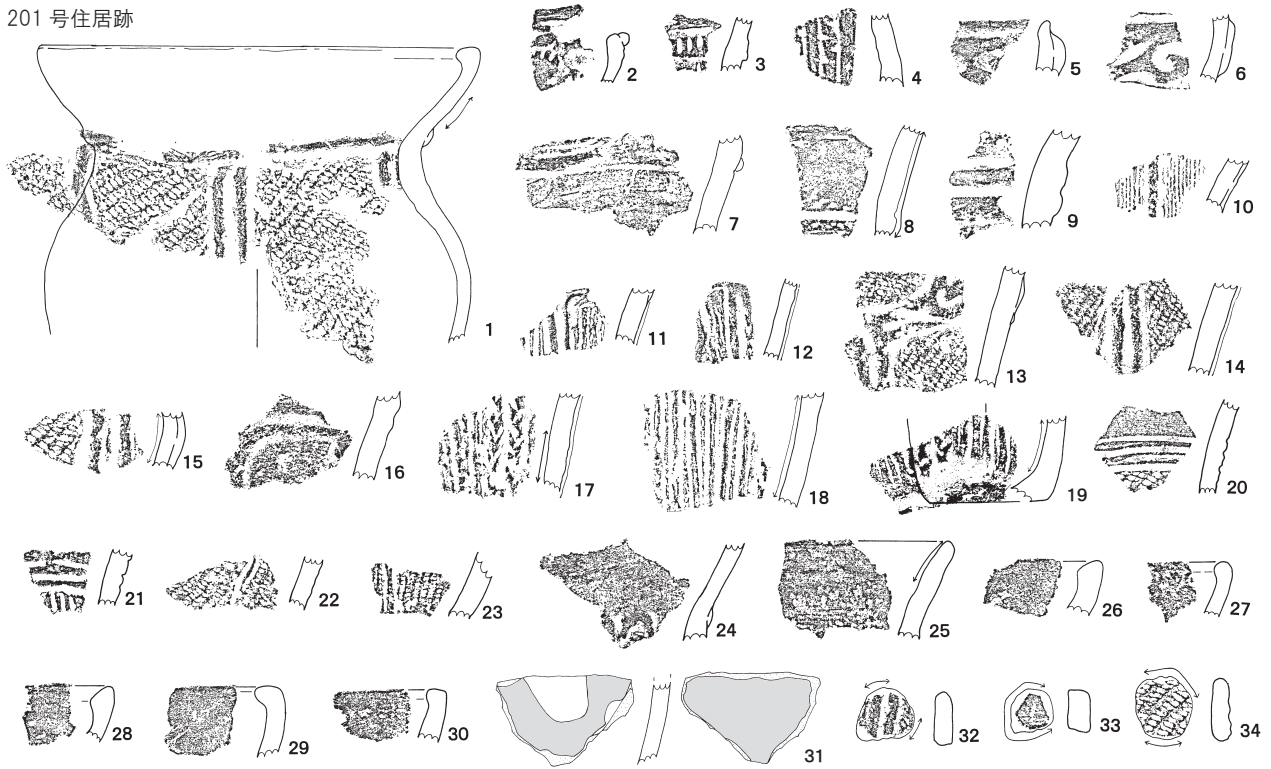


第 87 図 西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡出土遺物① (1/4)

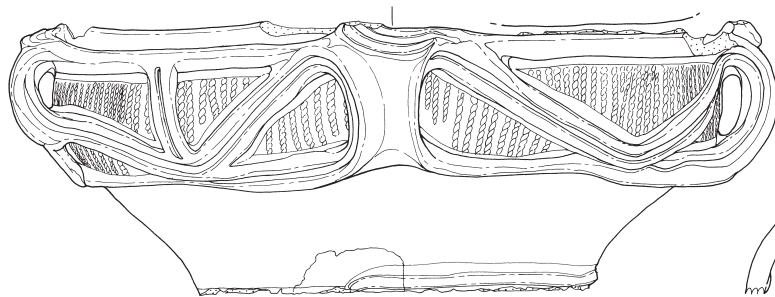


第88図 西ノ原遺跡第158地点200号住居跡出土遺物②(1/4・2/3・1/1)

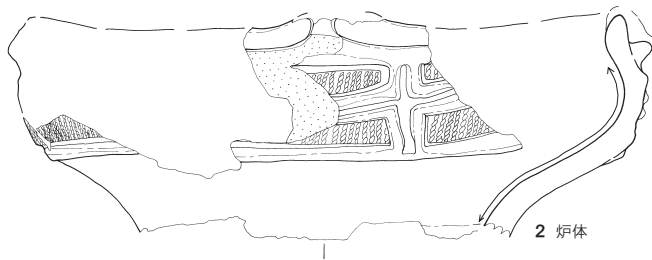
201号住居跡



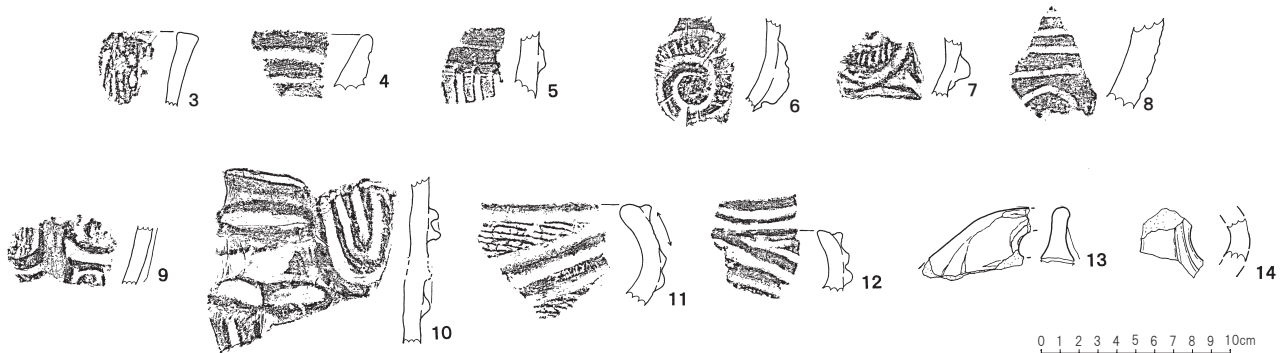
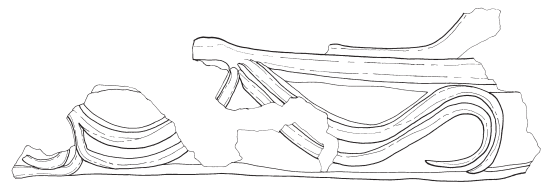
203号住居跡



1 炉体



2 炉体

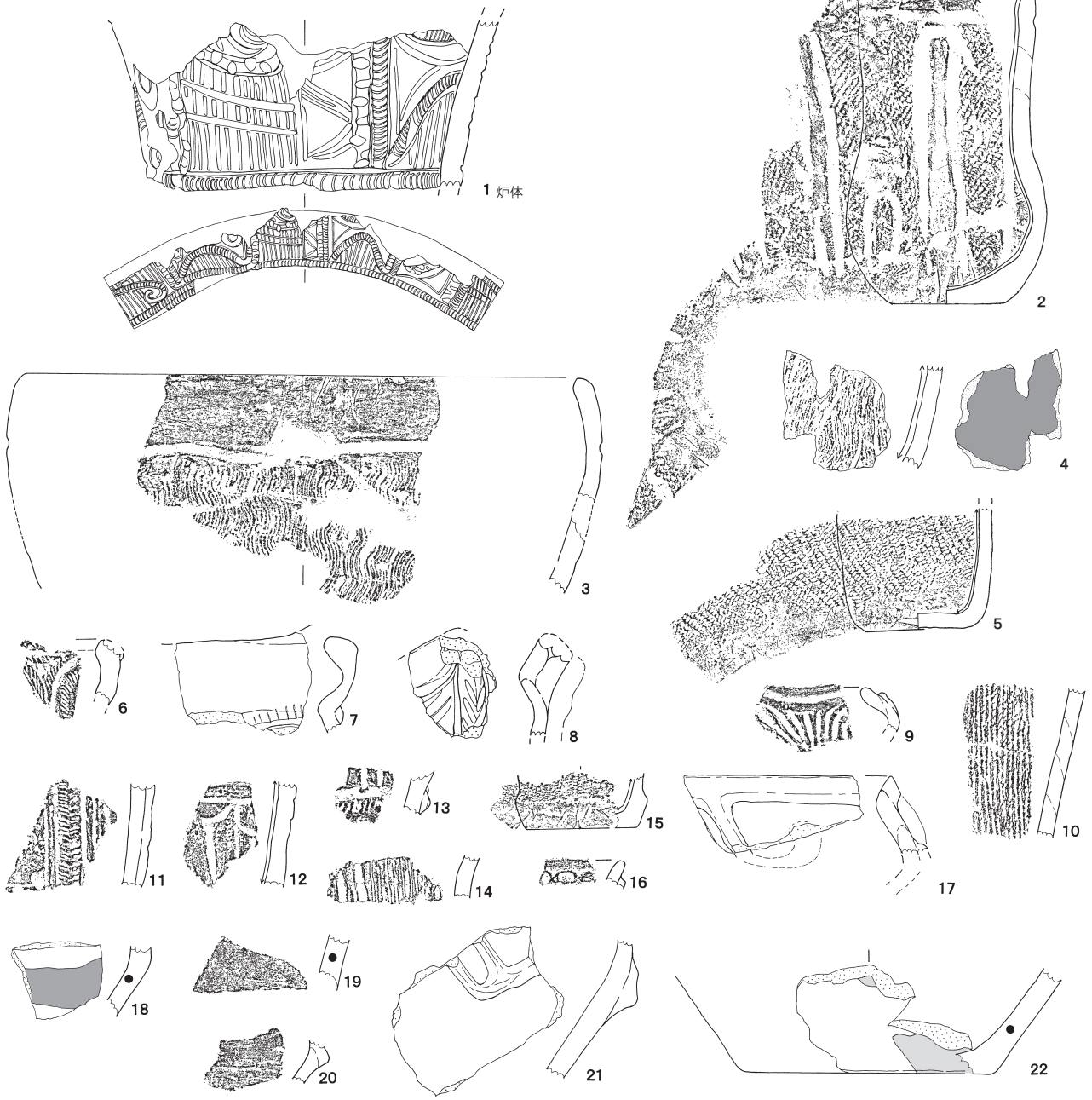


第89図 西ノ原遺跡第158地点 201・203 ①号住居跡出土遺物 (1/4)

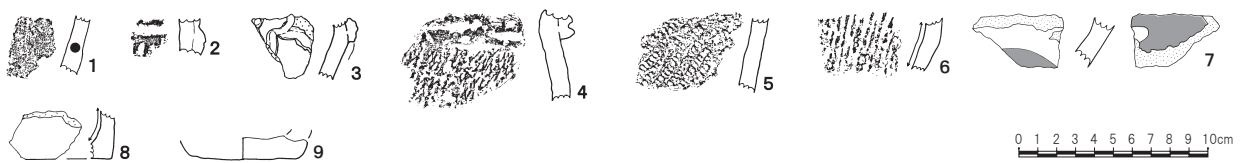


第90図 西ノ原遺跡第158地点203号住居跡出土遺物②(1/4・2/3)

216号住居跡

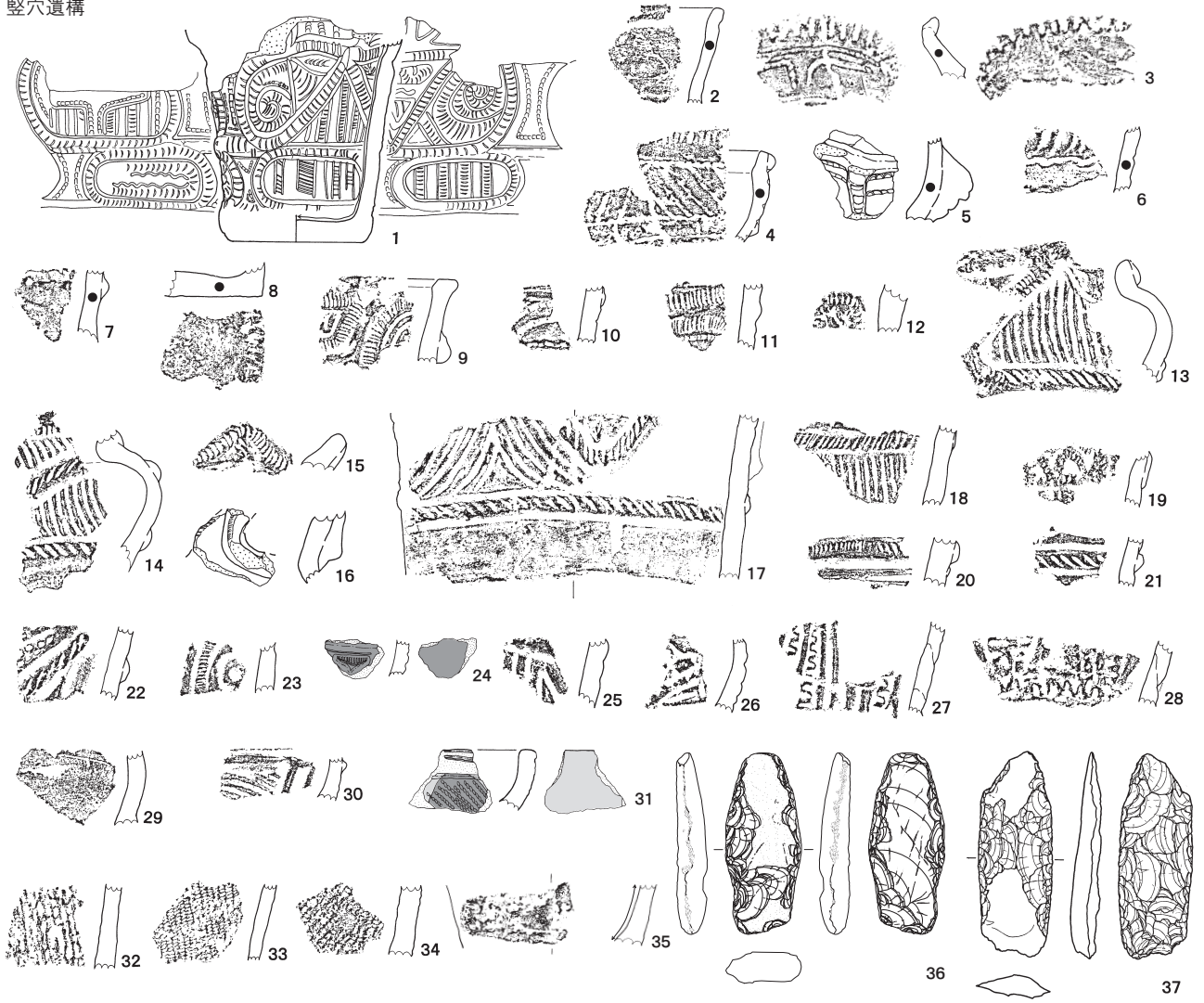


掘り込み遺構

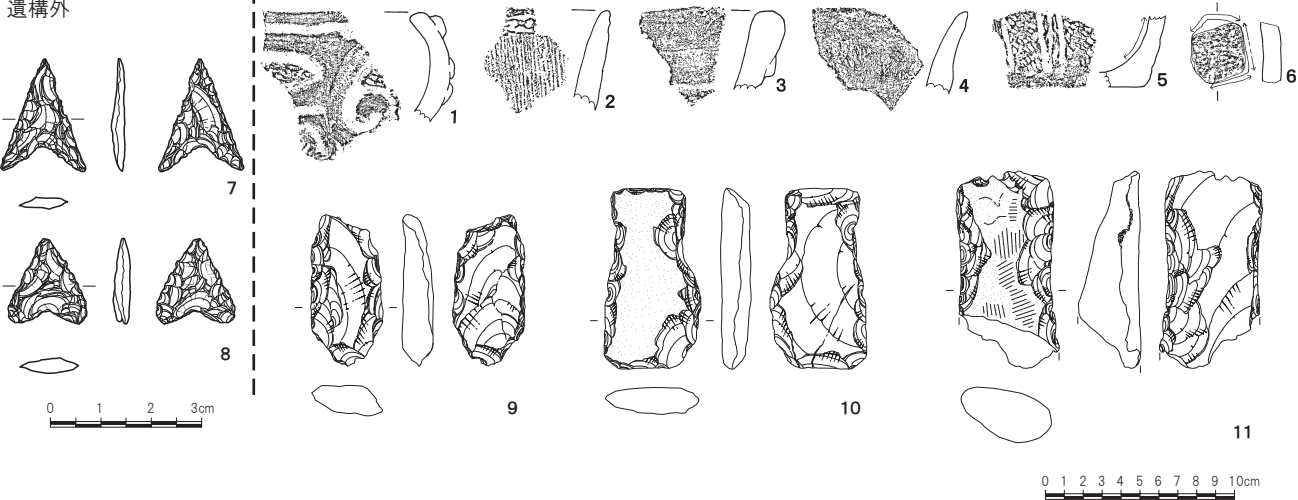


第91図 西ノ原遺跡第158地点216号住居跡、掘り込み遺構出土遺物(1/4)

竪穴遺構



遺構外



第 92 図 西ノ原遺跡第 158 地点竪穴遺構・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

第50表 西ノ原遺跡第158地点出土遺物観察表

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代	
第73図-1	61号住居跡	深鉢／口縁～胴部	(32.0)		(22.4)	4単位の波状口縁／口縁部文様帯は刻目隆帯によるワラビ手・弧状文を組み合わせた4単位（文様は4単位であるが、型は2種類である）。隆帯脇には沈線に沿わせ、区画内には爪形文で囲む三叉文や平行沈線を充填。波頂部下のハガレには渦巻き文が付いていたと見られる。胴部は横位RL縄文／口唇部内面～口縁部外面には部分的に煤あるいは黒色の塗彩が付着。胴部内面は被熱によるハジケが顕著である／胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第73図-2		深鉢／胴部				炉体土器の外側から出土、旧炉体か／内面は被熱により器面剥がれる／刻目隆帯・沈線による区画、区画内は三叉文、周囲に爪形文の充填	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第73図-3		深鉢	25	11.1	41.4	口縁部に突起、隆帯間には波状の沈線。胴上部に文様帯を設ける。刻目隆帯による八の字状の区画を中心に、大きく2単位に分けられる。それぞれ6分割されており、区画内には沈線を充填。胴下部は幅2cmほどの多裁工具による縦位条線／胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第73図-4		深鉢	18.0	9.8	28.8	5単位に区切られた口縁部文様帯／上は単沈線、下は刻目隆帯で区画し、縦位の区画には平行沈線間に刻み・交互刺突を用いる／各区画内では上部に円、下部に三角に近い楕円・隅丸長方形が向き合うように配置されている／内面に煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第73図-5		深鉢／口縁～胴部	(23.6)		(20.0)	刻目隆帯を鋸歯状に5単位、三角の区画内には①爪形文に沿う波状沈線、②先丸工具の連続刺突列、③平行沈線を施す。①と②をセット関係と捉えると、2単位余りとなる／器面はナデにより滑らか／胎土:結晶片岩・石英を含む、外面赤彩、内外面黒斑あり	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-6	61号住居跡	深鉢／胴部				ヒダ状圧痕／胎土:雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台	
第74図-7		深鉢／胴部				幅の違う平行押引文、連続刺突による波状文	中期中葉/勝坂Ⅱ	
第74図-8		深鉢／胴部				地文RL燃系、隆帯上刻目と直交する爪形文	中期中葉/勝坂Ⅱ	
第74図-9		深鉢／口縁部				口縁部連続刺突、隆帯上は棒状工具側面の押圧	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-10		深鉢／口縁部				口縁部・隆帯上に刻目、区画内平行沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-11		深鉢／口縁部				波状口縁／口縁・隆帯上に刻目、脇には沈線、区画内ベン先状工具の連続刺突列・爪形文	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-12		深鉢／胴部				刻目隆帯脇に沈線、区画内棒状工具の連続刺突列・沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-13		深鉢／胴部				隆帯上細かな刻み、隆帯に沿う沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-14		深鉢／胴部				隆帯上に爪形文、部分的に矢羽状になる	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-15		深鉢／胴部				隆帯上に刻目、脇に沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-16		深鉢／胴部				隆帯上に刻目、脇・区画内に沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-17		深鉢／胴部				隆帯上に刻目沈線による円文	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-18		深鉢／胴部				幅狭の隆帯・幅広で低い隆帯の上面・側面に刻目、脇に沈線／内面ミガキ	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-19		深鉢／胴部				隆帯上刻目、単沈線による渦巻き	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-20		深鉢／胴部				隆帯上に刻目、単沈線で三叉文・渦巻文	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-21		深鉢／口縁～胴部	(14.4)		(11.2)	地文縦位RL燃系、沈線による文様／内面に煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-22		深鉢／口縁部	(17.8)		(6.5)	沈線による区画、区画内平行沈線・刻目	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-23		深鉢／口縁部				沈線による区画／外面黒色	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-24		深鉢／口縁部				沈線間に刻目	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-25		深鉢／口縁部				沈線間連続刺突	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-26		深鉢／口縁部				沈線間に細めの沈線を充填／胎土:角閃石を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-27		深鉢／口縁部				沈線と刺突による文様	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-28		深鉢／胴部				No27と同一個体	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-29		深鉢／胴部				沈線による区画、刻みの充填、内面ミガキ	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-30		深鉢／胴部				横位区画として平行沈線間の交互刺突、沈線間刻み／胎土:角閃石を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-31		深鉢／胴部				沈線による区画、区画内斜位の平行する沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-32		深鉢／胴部				沈線区画内に押引文／内外面炭化	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-33		深鉢／口縁部	(22.2)			口縁部無文、幅広で低い刻目隆帯による頸部区画、隆帯脇には沈線／胎土:白色粒・小礫	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-34		深鉢／口縁部				無文	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-35		深鉢／口縁部				無文／外面黒色	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-36		深鉢／口縁部				無文／内外面赤彩	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-37		深鉢／口縁部				沈線間に爪形文／胎土:角閃石を含む、内面に煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-38		深鉢／口縁部				沈線/胎土:雲母を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-39		深鉢／口縁部				外面赤彩、内面黒斑あり	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-40		深鉢／胴部				縦位燃系Lr／内面炭化	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-41		深鉢／胴部		(11.0)		縦～斜位Lr燃系／内面にわずかに煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-42		深鉢／口縁部				口唇部平行する隆帯、一部交互刺突をもつ隆帯による方形区画、区画内縦位RL縄文／胎土:角閃石を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-43		深鉢／口縁部				地文横位RL縄文、口縁に波状の沈線／胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-44		深鉢／口縁～胴部	(20)		(15.8)	波状口縁／地文横位LR縄文、細い刻目隆帯脇に先の尖った工具による刺突・波状沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-45		深鉢／口縁部				地文縦位RL縄文、沈線による懸垂文、玉抱き三叉文／胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-46		深鉢／胴部				No45と同一個体	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第74図-47		深鉢／胴～底部			11.6	(27.4)	縦位RL縄文／外面被熱により上部が変色し、下部にはハジケが見られる。内面は下部に煤が付着	中期
第74図-48		深鉢／胴部					胴上部／沈線による区画内にベン先状の刺突列／内面黒色	中期中葉/勝坂Ⅲ
第74図-49		深鉢／胴～底部		(8.8)	(14.0)		胴下部／平行沈線による上部との区画、横位RL縄文／内面は黒色を呈し、平滑にナデられ、やや光沢を持つ／No48と同一個体	中期中葉/勝坂Ⅲ
第75図-50		深鉢／胴部					横位LR縄文、内面炭化	中期
第75図-51		深鉢／胴部					縦位RL縄文、内面炭化	中期
第75図-52	深鉢／胴～底部	(8.2)	(17.0)			斜位RL縄文	中期	
第75図-53	口縁部突起					沈線による玉抱き三叉文、右側の三叉は沈線の後に刺突も加え、周囲に刻みを施す	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第75図-54	口縁部突起					一部赤彩か	中期	
第75図-55	橋状把手					3本の断面三角形の隆帯	中期	
第75図-56	橋状把手					縦位RL縄文/胎土:角閃石を含む	中期	
第75図-57	口縁部突起					3面に刻目	中期	
第75図-58	口縁部突起					断面三角形の隆帯を三叉状に貼り付け、稜線上に刻み、内外面ミガキ	中期	
第75図-59	浅鉢／口縁部					波状口縁／内外面に赤彩／胎土:雲母を含む	中期	

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第75図-60	61号住居跡	浅鉢／口縁部				内外面ミガキ、内外面赤彩、疎らに煤が付着	中期
第75図-61		浅鉢／口縁部				口縁上の突起を欠損／胎土:角閃石・白色粒子を含む	中期
第75図-62		浅鉢／口縁部	(44.2)			内外面赤彩・ミガキ、口縁内面の一部のみ無彩/内面に疎らに煤付着	中期
第75図-63		浅鉢／口縁部				波状口縁波頂部／三叉文、内外面ミガキ	中期
第75図-64		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ	中期
第75図-65		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ／胎土:結晶片岩を含む	中期
第75図-66		浅鉢／口縁部	(38.8)			内外面赤彩・ミガキ	中期
第75図-67		浅鉢／口縁部				内外面赤彩・ミガキ	中期
第75図-68		浅鉢／口縁部				内外面赤彩・ミガキ	中期
第75図-69		浅鉢／口縁部				内外面赤彩・ミガキ	中期
第75図-70		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ	中期
第75図-71		浅鉢／口縁部				口縁から幅の広くて厚い隆帯を垂下、隆帯上は平行沈線と刺突／胎土:角閃石・白色粒子を含む	中期
第75図-72		浅鉢／口縁部				内面赤彩、内外面ミガキ	中期
第75図-73		浅鉢／胴部				内外面赤彩・ミガキ	中期
第75図-74		浅鉢／胴部				外面赤彩・ミガキ／外面に赤色顔料付着	中期
第75図-75		浅鉢／胴部				内外面ミガキ／先尖工具の回転による穿孔	中期
第75図-76		深鉢／底部		(8.0)		被熱によるハジケ、底面は焼成不良?で白色を呈する／胎土:角閃石・白色粒子	中期
第75図-77		深鉢／底部		9.5		被熱によるハジケ、特に内面に顕著	中期
第75図-78		深鉢／底部		7.7		被熱によるハジケあり／胎土に白色粒子を多く含む	中期
第75図-79		深鉢／底部		7		底面と胴部との接合部はヒダ状の指頭押圧が施され、その上に輪積みを行う	中期
第75図-80	深鉢／底部		(8.0)		無文底部	中期	
第75図-81	石器／打製石斧	14.29	6.17	2.07	石質:頁岩／重量210.24g／完形／撥型／刃部摩滅し偏刃となる、右側面に刃潰し状の細かい剥離		
第75図-82	石器／打製石斧	8.02	6.55	3.38	石質:ホルンフェルス／229.65g／完形／撥型／基部に原礫面を残す、長さ、厚み共に1と対照的である		
第75図-83	石器／打製石斧	(6.77)	(6.58)	(3.37)	石質:中粒砂岩／(207.18g)／基部破片／ややくびれる分銅型／くびれ部分に摩滅が見られる		
第75図-84	石器／局部磨製石斧	8.12	4.17	1.26	石質:輝緑凝灰岩／65.02g／完形／刃部のみ研磨する、表面は自然面		
第76図-1	62号住居跡	深鉢／口縁～胴部				口縁部の3箇所が突出する／口縁部沈線による複弧文、頸部無文帯と刻目隆帯により区画。胴部は地文縦位L燃系／内外面赤彩、胎土:赤褐色を呈し、白色粒子を含む	中期中葉/曾利系
第76図-2		深鉢／頸～胴部				隆帯による胴部との区画／縦位L燃系／胎土:角閃石・白色粒子を含む	中期中葉/加曾利E I
第76図-3		深鉢／胴～底部		7.0	(15.0)	地文縦位R燃系／隆帯による懸垂文／内面と外面上部に煤が付着	中期中葉/加曾利E I
第76図-4		深鉢／胴～底部		9.0	(16.0)	縦位L燃系／内面下部に煤付着	中期
第76図-5		深鉢／胴～底部		7.6	(12.5)	縦位L燃系／内面に煤付着	中期
第76図-6		浅鉢	(26.4)	7.8	17.1	内外面ミガキ、外面には黒斑が広がる	中期
第76図-7		深鉢／口縁部				胎土:金雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第76図-8		深鉢／口縁部				口縁部に爪形文	中期中葉/勝坂III
第76図-9		深鉢／口縁部				口縁部に爪形文、縦位L燃系／外面に煤付着	中期中葉/勝坂III
第76図-10		深鉢／口縁部				刻目隆帯による口縁部区画／内面に黒斑あり	中期中葉/勝坂III
第76図-11		深鉢／口縁部				低い隆帯による口縁部区画、隆帯上には棒状工具による刺突／頸部無文／胎土:角閃石を含む	中期中葉/勝坂III
第76図-12		深鉢／胴部				沈線間に爪形文	中期中葉/勝坂III
第76図-13		深鉢／胴部				刻目隆帯と沈線による文様／内面赤彩	中期中葉/勝坂III
第76図-14		深鉢／口縁部				隆帯による円文、下にボタン状の貼り付け文が連なる	中期中葉/勝坂
第76図-15		深鉢／口縁部				無文口縁部／屈曲部に沈線／外面黒色	中期
第76図-16		深鉢／口縁部				無文口縁部／外面赤彩・黒色、内面黒色	中期
第76図-17		深鉢／口縁部				無文口縁部／唇部煤付着	中期
第76図-18		深鉢／口縁部				無文口縁部	中期
第76図-19		深鉢／口縁部				無文口縁部／内外面赤彩	中期
第76図-20		深鉢／口縁部				波頂部／中央に穿孔、下部にR燃系	中期
第76図-21		深鉢／口縁部				眼鏡状突起／地文横位L燃系／S字の平行隆帯が正面と上面に付く	中期中葉/加曾利E I
第76図-22		深鉢／口縁部				眼鏡状突起上部破片／取り上げNo88同様、眼鏡状突起にS字の平行隆帯を付けたもの／胎土はNo21と同一である	中期中葉/加曾利E I
第76図-23		深鉢／口縁部				山型の口縁上突起	中期中葉/加曾利E I
第76図-24		深鉢／口縁部				突起部／平行する隆帯を用いる／赤彩	中期中葉/加曾利E I
第76図-25		深鉢／口縁部				地文横位L燃系／平行する隆帯	中期中葉/加曾利E I
第76図-26		深鉢／口縁部				地文横位L燃系／隆帯による文様/外面赤彩	中期中葉/加曾利E I
第76図-27		深鉢／口縁部				波状口縁／地文横位L燃系／隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I
第76図-28		深鉢／口縁部				地文横位L燃系／隆帯／内面赤彩か	中期中葉/加曾利E I
第76図-29		深鉢／口縁部				地文横位L燃系／平行隆帯による渦巻き文	中期中葉/加曾利E I
第76図-30		深鉢／口縁部				地文縦位L燃系／低い平行隆帯によるワラビ手文	中期中葉/加曾利E I
第76図-31		深鉢／口縁部				地文横位L燃系／突出する平行隆帯	中期中葉/加曾利E I
第76図-32		深鉢／口縁部				地文縦位L燃系／突出する平行隆帯／内面黒色	中期中葉/加曾利E I
第76図-33		深鉢／口縁部				地文縦位L燃系／平行隆帯による文様／内外面被熱によるハジケあり	中期中葉/加曾利E I
第76図-34		深鉢／頸部				頸部無文帯／口縁部とは隆帯、胴部とは沈線で区画する／内面はナデにより光沢を持つ、内外面に被熱によるハジケあり	中期中葉/加曾利E I
第76図-35		深鉢／胴部				地文縦位L燃系／頸部との境に細い隆帯を貼り付け／被熱によるハジケあり、内面炭化	中期
第77図-36	深鉢／胴部				地文縦位L燃系／平行隆帯による胴部文様／内外面被熱によるハジケあり	中期中葉/加曾利E I	
第77図-37	深鉢／底部				地文縦位L燃系／隆帯による懸垂文／内面煤付着	中期中葉/加曾利E I	
第77図-38	深鉢／口縁部				地文横位RL縷文	中期中葉/加曾利E I	
第77図-39	深鉢／胴部				地文縦位RL縷文／平行隆帯による懸垂文／内面煤付着	中期中葉/加曾利E I	

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代	
第77図-40	62号住居跡	深鉢／頸部				地文縦位RL縷文／斜位に平行隆帯／胎土：結晶片岩を含む	中期中葉/加曾利E I	
第77図-41		深鉢／胴部				地文縦位RL縷文／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利E I	
第77図-42		深鉢／口縁部				袋状になる口縁部／沈線による複弧文	中期中葉/加曾利E I	
第77図-43		深鉢／口縁部				沈線による複弧文	中期中葉/加曾利E I	
第77図-44		深鉢／口縁部				突出部／平行する沈線による複弧文と見られる	中期中葉/加曾利E I	
第77図-45		深鉢／口縁部				横位の平行沈線、一部沈線間に刺突	中期中葉/曾利系	
第77図-46		深鉢／口縁部				波状突起部／平行する断面三角形の隆帯を貼り付け	中期	
第77図-47		深鉢／口縁部				波状突起部／平行する隆帯を口唇・口縁部に貼り付け、脇に沈線を施す	中期	
第77図-48		深鉢／口縁部				波状口縁／隆帯を貼り付け口縁を厚くし、口唇部に沈線を施した後に指頭による押圧を加え、平行する粘土紐を口縁から垂下する／地文縦位R燃系／内面黒色	中期	
第77図-49		深鉢／口縁部				〃	中期	
第77図-50		深鉢／口縁部				波状口縁／隆帯を貼り付け口縁を厚くし、口唇部に沈線を施した後に指頭による押圧を加え、平行する粘土紐を口縁から垂下する／地文縦位R燃系	中期	
第77図-51		深鉢／口縁部				粘土紐を貼り付け口縁を厚くし、口縁から沈線を垂下か	中期	
第77図-52		深鉢／口縁部				地文縦位L燃系／細い粘土紐を貼り付け口縁がT字状になる	中期	
第77図-53		深鉢／胴部				地文縦位L燃系／粘土紐を波状に貼り付ける	中期	
第77図-54		深鉢／胴部				縦位の平行沈線間に上方向からの刺突/内外面に被熱によるハジケあり	中期	
第77図-55		深鉢／胴部				地文縦位条線	中期中葉/曾利系	
第77図-56		深鉢／口縁部				地文斜位L燃系／多裁管状工具の内皮側による連弧文	中期中葉/加曾利E II	
第77図-57		深鉢／口縁部				地文縦位L燃系／多裁管状工具の内皮側による連弧文／内面黒斑有	中期中葉/加曾利E II	
第77図-58		深鉢／胴部				地文縦位RL縷文／沈線による懸垂文／胎土:角閃石・まれに金雲母を含む	中期中葉/加曾利E II	
第77図-59		深鉢／胴部				地文縦位L燃系／胎土:角閃石を含む	中期	
第77図-60		深鉢／胴部				地文縦位L燃系	中期	
第77図-61		深鉢／胴部				地文縦位R燃系／内面被熱によるハジケ、種実圧痕?あり	中期	
第77図-62		深鉢／底部			(12)	地文縦位L燃系	中期	
第77図-63		深鉢／底部				地文縦位L燃系／内面炭化し、内外面に被熱によるハジケあり／胎土:角閃石を含む／内面煤付着	中期	
第77図-64		深鉢／底部				地文縦位L燃系／内面炭化する	中期	
第77図-65		深鉢／胴部				地文縦位LR縷文	中期	
第77図-66		深鉢／底部			(10.6)	無文底部／内面炭化し、炭化物が付着する	中期	
第77図-67		深鉢／底部			(11.2)	内面に煤付着	中期	
第77図-68		深鉢／底部			(6.6)	被熱によるハジケ	中期	
第77図-69		深鉢／底部			(6.8)	胎土に砂礫を多く含む	中期	
第77図-70		深鉢／口縁部				内外面ミガキ／扁平な隆帯による文様	中期	
第77図-71		深鉢／口縁部				内外面ミガキ、内面に黒斑／外面被熱によるハジケあり	中期	
第77図-72		深鉢／口縁部				内外面ミガキ、黒色を呈する／外面被熱によるハジケあり	中期	
第77図-73		深鉢／口縁部				内外面ミガキ	中期	
第77図-74		深鉢／口縁部				内外面ミガキ、口唇部に赤彩が残存する/内外面に被熱によるハジケあり	中期	
第77図-75		深鉢／口縁部				内外面ミガキ	中期	
第77図-76		深鉢／口縁部				部分的に赤彩が残存する	中期	
第77図-77		深鉢／口縁部				横位に沈線を伴う細い粘土紐を貼り付け、その上に交互刺突／内面ミガキ	中期	
第77図-78		浅鉢／胴部				外面に赤彩、内面ミガキ・黒色を呈する／外面に被熱によるハジケあり	中期	
第77図-79		浅鉢／底部				内面ミガキ／外面被熱によるハジケあり、胎土脆い	中期	
第77図-80		浅鉢／底部			(13.0)	無文底部／内面ミガキ	中期	
第77図-81		鍔付土器／口縁部				鍔状の突起／沈線区画内に管状工具による刺突を充填／内面黒色でミガキ	中期	
第77図-82		ミニチュア土器			3.8	(4.8)	沈線による文様／胎土脆く、被熱か	中期
第77図-83		土製品／基石	1.84	1.83	0.62		完形／近世以降/1.76g	
第78図-84		石器／石鏃	2.69	1.75	0.28		石質:チャート(灰色・やや不透明、黒線入る)／1.47g／完形／平基／素材剥片の形状を生かし、周囲の微調整のみ行う	
第78図-85		石器／石鏃	2.48	1.44	0.52		石質:黒曜石(灰色・やや不透明)／1.77g／未製品／右側面を調整し、左上部に微細剥離があるため、工具としての使用痕の可能性ある	
第78図-86		石器／石鏃	7.22	5.43	1.61		石質:極細粒砂岩／62.91g／完形／粗製／刃部は平面・断面共にやや丸みを帯び、鋭さはない	
第78図-87		石器／石鏃	7.86	4.24	0.96		石質:頁岩／40.93g／完形／層理のやや発達した石材、3同様刃部は丸みを帯びる	
第78図-88		石器／打製石斧	(9.57)	(5.06)	(2.26)		石質:ホルンフェルス(121.81g)／刃部欠損／撥型／自然面を大きく残す、基部はくさび状に薄く作られ、左側面に刃潰し状の細かい剥離	
第78図-89		石器／磨製石斧	(8.73)	(2.99)	(1.11)		石質:輝緑凝灰岩(35.99g)／基部側面破片／打点は上方	
第78図-90		石器／敲石	13.17	3.84	2.40		石質:細粒砂岩／184.03g／完形／上下端部が黒色で光沢を持つ。表裏面全体的に敲打痕	
第78図-1		深鉢／口縁部					扇状把手部／平行する押し引き文、縁に刺突／胎土:金雲母を含む	中期中葉/阿玉台II
第78図-2		深鉢／口縁部					折り返した口縁に爪形文／内外面赤彩	中期中葉/勝坂
第78図-3		深鉢／口縁部					扁平な隆帯上に沈線と爪形文、脇に沈線／黒斑有	中期中葉/勝坂III
第78図-4		深鉢／胴部					刻目隆帯、脇に沈線、区画内沈線	中期中葉/勝坂III
第78図-5		深鉢／胴部					沈線による文様	中期中葉/勝坂III
第78図-6		深鉢／口縁部					波状口縁／無文口縁部、屈曲部に弧状の粘土紐／外面黒色	中期中葉/勝坂III
第78図-7		深鉢／口縁部					無文口縁部／被熱によるハジケあり、口唇部～外面にかけて煤付着	中期中葉/勝坂
第78図-8		深鉢／口縁部					無文口縁部／被熱によるハジケあり	中期中葉/勝坂
第78図-9		深鉢／口縁部					無文口縁部	中期中葉/勝坂
第78図-10		深鉢／口縁部			(26.4)		地文縦位LR燃系／平行隆帯による文様、口縁上に連続し突起となる／外面一部に煤付着	中期中葉/加曾利E I
第78図-11		深鉢／口縁部					地文縦位L燃系／平行隆帯による文様／内面ミガキ、光沢有、内外面赤彩	中期中葉/加曾利E I
第78図-12	深鉢／頸部					頸部無文、平行隆帯による胴部区画／胴部地文縦位L燃系／胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I	
第78図-13	深鉢／胴部					平行隆帯による胴部区画／胴部地文縦位L燃系／隆帯による懸垂文／No12と同一個体か	中期中葉/加曾利E I	
第78図-14	深鉢／胴部					地文斜位L燃系／隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I	
第78図-15	深鉢／胴部					地文縦位L燃系／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利E I	

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第78図-16	194号住居跡	深鉢/胴部				地文縦位RL燃糸/粘土紐による蛇行懸垂文/内外面煤付着	中期中葉/加曾利E I
第78図-17		深鉢/胴部				地文縦位Lr燃糸/細い隆帯と沈線による懸垂文/被熱によるハジケあり、内外面煤付着	中期中葉/加曾利E I
第78図-18		深鉢/胴部				地文縦位Lr燃糸	中期
第78図-19		深鉢/底部				地文縦位Lr燃糸/内面に煤付着	中期
第78図-20		深鉢/底部				地文縦位Lr燃糸	中期
第78図-21		深鉢/口縁部				地文縦位RL縄文/平行隆帯によるクランク文、片側はやや上向きの渦巻き文となる	中期中葉/加曾利E I
第78図-22		深鉢/口縁部				地文縦位LR縄文	中期中葉/加曾利E I
第78図-23		深鉢/口縁部				地文縦位LR縄文	中期中葉/加曾利E I
第78図-24		深鉢/口縁部				地文横位RL縄文/隆帯による頸部無文帯との区画	中期中葉/加曾利E I
第78図-25		深鉢/胴部				地文縦位RL縄文/平行隆帯	中期中葉/加曾利E I
第78図-26		深鉢/胴部				地文縦位RL縄文	中期中葉/加曾利E I
第78図-27		深鉢/胴部～底部		(16)		地文縦位RL縄文/隆帯による懸垂文/内面縦方向のミガキにより平滑、内面赤彩	中期中葉/加曾利E I
第78図-28		深鉢/底部				地文縦位RL縄文/低い隆帯による懸垂文/内面煤が付着	中期中葉/加曾利E I
第78図-29		深鉢/底部				地文縦位RL縄文/隆帯による懸垂文/胎土:角閃石を含む、内面煤付着	中期中葉/加曾利E I
第78図-30		深鉢/胴部				地文縦位RL縄文/沈線による懸垂文	中期中葉/加曾利E I
第78図-31		深鉢/胴部				地文縦位RL縄文/多裁管状工具の沈線による懸垂文/内面ミガキ・炭化する	中期中葉/加曾利E I
第78図-32		深鉢/底部		(8.4)		地文縦位RL縄文/多裁管状工具の沈線による懸垂文/底面ナデにより平滑/内面煤付着	中期中葉/加曾利E I
第78図-33		深鉢/底部		(7.8)		地文縦位RL縄文/底面ナデにより平滑/内面炭化がみられる	中期
第78図-34		深鉢/口縁部				隆帯による口縁部文様	中期中葉/加曾利E I
第78図-35		深鉢/頸部				隆帯による口縁部との区画、頸部無文/外面に僅かに煤付着	中期中葉/加曾利E I
第78図-36		深鉢/頸部				隆帯による胴部との区画、頸部無文	中期中葉/加曾利E I
第78図-37		深鉢/頸部				隆帯による胴部との区画、頸部無文	中期中葉/加曾利E I
第78図-38		深鉢/口縁部		(26.1)		4単位波状口縁/無文口縁部/口唇部に沈線/頸部に3条の沈線、沈線による懸垂文/内面に被熱によるハジケあり	中期中葉/曾利系
第78図-39		深鉢/口縁部				波頂部/地文縦位LR燃糸/波頂部に集約する2本の隆帯、下位の波底部からも隆帯が垂下する	中期
第78図-40		深鉢/口縁部				縦位に平行する隆帯/内面ミガキ	中期
第78図-41		深鉢/胴部				縦位の沈線/内面炭化する	中期
第79図-42		深鉢/胴部				縦位の沈線/内面炭化する	中期
第79図-43		深鉢/胴部				縦位条線	中期
第79図-44		深鉢/胴部				棒状工具による沈線で鋸歯状の文様	中期
第79図-45		深鉢/胴部				沈線による文様、ナデにより器面平滑	中期
第79図-46		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、黒色を呈す	中期
第79図-47		浅鉢/口縁部				口唇部～外面にかけて黒斑有	中期
第79図-48		浅鉢/口縁部				口唇部に黒斑有	中期
第79図-49		浅鉢/胴部				内外面ミガキ	中期
第79図-50		浅鉢/胴部				内外面赤彩・ミガキ	中期
第79図-51		浅鉢/胴部				外面に赤彩、内外面ミガキ	中期
第79図-52		浅鉢/胴部				沈線による文様、屈曲部に刻み	中期
第79図-53	浅鉢/胴部				無文/器面に被熱によるハジケ顕著	中期	
第79図-54	不明				無文/胎土:角閃石を含む	中期	
第79図-55	浅鉢/胴部				外面ミガキ	中期	
第79図-56	深鉢/頸部				頸部無文帯/隆帯による口縁部区画	中期中葉/加曾利E I	
第79図-57	浅鉢/底部				種実圧痕?あり	中期	
第79図-58	小型鉢/底部		(4.8)		薄手なため、小型の土器と考えられる/外面煤付着	中期	
第79図-59	深鉢/底部				底面ナデ調整により光沢を持つ	中期	
第79図-60	石器/石鏃	(2.54)	(1.36)	0.32	石質:チャート(灰白色・やや不透明)/(0.91g)/基部欠損/凹基/側面を鋸歯状に加工		
第79図-61	石器/打製石斧	10.04	4.99	2.29	石質:中粒砂岩/129.79g/完形/撥型/刃部直線的、表面に摩擦感、左側面稜線上潰れ		
第79図-62	石器/打製石斧	10.00	5.43	2.28	石質:細粒砂岩/165.82g/完形/撥型/刃部左側が摩擦、酸化した鉄分が付着する		
第79図-63	石器/打製石斧	7.58	2.87	(1.12)	石質:輝緑凝灰岩/(41.16g)/裏面欠損		
第79図-1	深鉢/頸部～胴部		最大径 34.8	(16.5)	最小径 22	地文縦位Lr燃糸/頸部無文/平行隆帯による胴部区画、懸垂文/内面に被熱によるハジケや変色あり	中期中葉/加曾利E I
第79図-2	深鉢/口縁～胴上部		30.2	(22.8)		口縁に大突起1、小突起3/口縁部(地文横位RL縄文、平行隆帯による文様)/頸部無文/胴部(地文縦位RL縄文、隆帯による懸垂文)	中期中葉/加曾利E I
第79図-3	深鉢/口縁～胴上部		25.4	(15.4)		口縁部(平行隆帯、単隆帯によるワラビ手文を5単位、区画内は縦位の平行沈線を充填)/頸部無文/胴部(地文縦位条線)	中期中葉/加曾利E I
第79図-4	深鉢/口縁～底部			(8.4)	胴部最大径 (19.3)	口縁部無文/頸部は斜位、胴部は縦位の多裁管状工具による平行沈線を地文とする/細い粘土紐による4種類の懸垂文/内面はミガキにより平滑で、頸部以下は黒色を呈する	中期中葉/曾利 I
第80図-5	深鉢/口縁部					胎土:金雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第80図-6	深鉢/胴部					断面三角形の隆帯上に刺突/平行する押引文/胎土:雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第80図-7	深鉢/胴部					ヒダ状圧痕/胎土:雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第80図-8	深鉢/胴部					沈線間に爪形文	中期中葉/勝坂III
第80図-9	深鉢/胴部					刻目隆帯、脇に沈線、区画内爪形文/胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/勝坂III
第80図-10	深鉢/胴部					沈線による文様	中期中葉/勝坂III
第80図-11	深鉢/頸部					隆帯上に管状工具で刺突	中期中葉/勝坂III
第80図-12	深鉢/胴部					隆帯上に管状工具で刺突、横位の沈線列	中期中葉/勝坂III
第80図-13	深鉢/口縁部					隆帯上に交互刺突	中期中葉/勝坂III
第80図-14	深鉢/頸部					隆帯上に交互刺突	中期中葉/勝坂III
第80図-15	深鉢/口縁部					無文口縁部/頸部に隆帯	中期中葉/勝坂III
第80図-16	深鉢/口縁部					無文口縁部/波状口縁か	中期中葉/勝坂III
第80図-17	深鉢/口縁部					無文口縁部	中期中葉/勝坂III
第80図-18	深鉢/口縁部					地文縦位Lr燃糸/平行隆帯	中期中葉/加曾利E I

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第80図-19	196号住居跡	深鉢／口縁部				地文縦位L燃糸／内面黒色	中期中葉/加曽利E I
第80図-20		深鉢／口縁部				地文縦位L燃糸	中期中葉/加曽利E I
第80図-21		深鉢／口縁部	(54.8)			地文縦位L燃糸／平行隆帯	中期中葉/加曽利E I
第80図-22		深鉢／頸部				地文縦位L燃糸／平行隆帯	中期中葉/加曽利E I
第80図-23		深鉢／頸部				地文斜位R燃糸	中期中葉/加曽利E I
第80図-24		深鉢／頸部				地文縦位L燃糸／頸部無文／平行隆帯、懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-25		深鉢／頸部				地文縦位L燃糸／頸部無文／平行隆帯	中期中葉/加曽利E I
第80図-26		深鉢／頸部				地文縦位L燃糸／平行隆帯	中期中葉/加曽利E I
第80図-27		深鉢／頸部～胴部				地文縦位L燃糸／頸部無文／平行隆帯、懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-28		深鉢／胴部				地文縦位L燃糸／平行隆帯／内面に煤付着	中期中葉/加曽利E I
第80図-29		深鉢／胴部				地文縦位L燃糸／隆帯よる懸垂文／内面に煤付着	中期中葉/加曽利E I
第80図-30		深鉢／底部				地文縦位L燃糸／内面煤付着	中期中葉/加曽利E I
第80図-31		深鉢／底部				地文縦位R燃糸／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-32		深鉢／底部				地文縦位R燃糸／細い棒状の貼り付け文による懸垂文／内面に煤付着	中期中葉/加曽利E I
第80図-33		深鉢／口縁部				地文縦位RL縄文／平行隆帯	中期中葉/加曽利E I
第80図-34		深鉢／口縁部				地文横位RL縄文／平行隆帯	中期中葉/加曽利E I
第80図-35		深鉢／口縁部				地文縦位RL縄文／平行隆帯と沈線によるワラビ手文／胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曽利E I
第80図-36		深鉢／口縁部				地文縦位RL縄文／平行隆帯／内面煤付着	中期中葉/加曽利E I
第80図-37		深鉢／口縁部				地文縦位RL縄文／平行隆帯／内面黒色でやや光沢を持つ	中期中葉/加曽利E I
第80図-38		深鉢／口縁部				地文縦位RL縄文	中期中葉/加曽利E I
第80図-39		深鉢／口縁部				地文横位LR縄文／隆帯よる渦巻き文／頸部無文	中期中葉/加曽利E I
第80図-40		深鉢／口縁部				地文縦位RL縄文／口縁部無文、平行隆帯	中期中葉/加曽利E I
第80図-41		深鉢／頸部～胴部				地文縦位RL縄文／隆帯による懸垂文／頸部無文	中期中葉/加曽利E I
第80図-42		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-43		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-44		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-45		深鉢／頸部				頸部無文帯、平行隆帯による区画	中期中葉/加曽利E I
第80図-46		深鉢／頸部				頸部無文帯、平行隆帯による区画	中期中葉/加曽利E I
第80図-47		深鉢／頸部				地文横位LR縄文／屈曲部に多裁管状工具による平行沈線・外皮側角を用いた連続刺突	中期中葉/加曽利E I
第80図-48		深鉢／胴部～底部			(9.8)	地文横位LR縄文／多裁管状工具による蛇行懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-49		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／沈線による胴部区画、懸垂文／頸部無文／内面黒色でやや光沢を持つ	中期中葉/加曽利E I
第80図-50		深鉢／胴部				地文縦位LR縄文／多裁管状工具による懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-51		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／多裁管状工具による懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-52		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／多裁管状工具による懸垂文／胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曽利E I
第80図-53		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／沈線による懸垂文	中期中葉/加曽利E I
第80図-54		深鉢／胴部				地文横位LR縄文／沈線による懸垂文／内面に煤付着	中期中葉/加曽利E I
第80図-55		深鉢／口縁部				多裁管状工具による平行沈線、規則的に爪形文、ボタン状の貼り付け文／内面煤付着	中期中葉/曾利系
第80図-56		深鉢／口縁部				沈線による複弧文	中期中葉/曾利系
第80図-57		深鉢／口縁部				突起部	中期中葉/加曽利E I
第80図-58		有孔罎付土器	(14.8)	(14.5)		内外面赤彩／罎部に孔、棒状工具を2、3回突き刺して穿孔したと見られる／胴下部に黒斑	中期
第80図-59		有孔罎付土器				No58と同一個体だが接合しない	中期
第80図-60		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ／外面に赤・黒彩が一部残る	中期
第80図-61		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ／胎土:角閃石を含む	中期
第80図-62		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ	中期
第80図-63		浅鉢／口縁部				内外面赤彩	中期
第80図-64		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ・赤彩/胎土:石英を含む	中期中葉/加曽利E I
第80図-65		浅鉢／口縁部				屈曲部に赤彩が残存	中期
第80図-66		浅鉢／口縁部				屈曲部に隆帯／内外面ミガキ、外面赤彩／口唇～内面煤付着	中期
第80図-67	浅鉢／口縁部				内外面ミガキ／口唇～内面黒色／胎土:角閃石を含む	中期	
第81図-68	鉢／口縁部～頸部				地文縦位RL縄文／平行する低い隆帯による渦巻き文／外面に被熱によるハジケ	中期中葉/加曽利E I	
第81図-69	浅鉢／胴部				隆帯上に2列の刺突、脇に沈線が沿い、区画内は沈線を充填／内面ナデにより平滑／器面、割れ口にハジケ	中期中葉/勝坂III	
第81図-70	底部			(11.9)	内面平滑	中期	
第81図-71	土製品／耳栓	1.55		2.81	一部欠損/全面ミガキで丁寧な作り、全体的に黒色を呈し、彩色していたと思われる。重量(7.12g)／胎土:細粒砂を少量含む	中期	
第81図-72	石器／小型磨製石斧	(1.55)	(1.78)	0.30	石質:蛇紋岩(明緑灰色・斑に緑色)／(1.45g)／基部欠損		
第81図-73	石器／玉?	2.10	1.64	1.36	石質:滑石(にぶい黄色2.5Y6/4・やや不透明)／6.64g／完形／表面は滑らかで弱い光沢がある、明確な加工痕は見られないため、自然礫か		
第81図-74	石器／打製石斧	8.73	5.38	1.84	石質:頁岩／100.15g／完形／形状は石匙に近いがつまみ部を作らない		
第81図-75	石器／打製石斧	13.11	4.69	2.25	石質:凝灰岩／173.17g／完形／撥型／刃部・左側面中位までが研磨され光沢をもつ、左側面上位に潰れ		
第81図-76	石器／打製石斧	(9.60)	4.38	2.08	石質:細粒砂岩／(150.17g)／刃部欠損／撥型／左側面潰れ		
第81図-77	石器／打製石斧	(4.70)	(3.63)	(1.50)	石質:中粒砂岩／(39.26g)／下半欠損／両側面に潰れ		
第81図-78	石器／凹み石	(10.40)	(9.64)	(2.23)	石質:緑泥片岩／(306.01g)／一部残存		
第81図-1	197号住居跡	深鉢／口縁～胴部	34.8		(21.9)	内湾する無文口縁部／頸部文様帯は刻目隆帯による楕円区画文を5単位、区画内は縦位の平行沈線／胴部は縦位RL縄文／Pit11覆土から破片が出土し接合。内面頸部以下の一部に煤の付着と器面のハジケが見られる	中期中葉/勝坂III 新地平9c
第81図-2		深鉢	25.1	11.1	39.7	口縁に大突起を1つ持ち、内湾する口縁部は無文。突起直下、頸部くびれ部の前後に眼鏡状把手が付く。胴上半は膨らみ、文様帯が設けられ、高さを持つ隆帯で波頂が渦巻く波状文を施す。空白部は平行沈線と渦巻き文で埋める。隆帯上や沈線間には細かめの爪形文や交互刺突／外面口縁部、内面胴下部に煤が付着／胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/勝坂III 新地平9c

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第82図-3	197号住居跡	深鉢	26.1	10.3	(36.6)	口縁に大突起を1つ持ち、直立する口唇部に爪形文、内湾する口縁部は無文。ややくびれる胴部の文様帯は刻目隆帯によって4区画される。それぞれ異なる文様であるが、共通して隆帯による2分割と、沈線による再区画や三叉文が施される／外面の底部以上・内面の口縁以下は被熱による変色のみられ、胎土も全体的に脆い	中期中葉/勝坂Ⅲ 新地平9c
第82図-4		深鉢	(14.8)	26.1	(9.2)	細身の円筒型土器。口縁部に文様帯、部分的に粗雑な爪形文を持つ隆帯が鋸歯状にめぐらる。以下は縦位Lr燃糸／内面上半は斑に変色、下半は煤が付着しハジケが見られる	中期中葉/勝坂Ⅲ 新地平9c
第82図-5		深鉢／口縁～胴下部	(26.6)		(37.5)	口唇部が外反する円筒型。上半に文様帯を設け、刻目隆帯により区画、大部分を欠損するため全体は不明だが、区画中央の円文からX字状に隆帯が広がる。区画内は管状工具を用いた平行沈線と交互刺突などで埋められる／胴下半は斜位RL縄文/内面下部に煤が付着	中期中葉/勝坂Ⅲ 新地平9c
第83図-6		深鉢／口縁～胴下部	(27.4)		(23.3)	円筒型土器。胴上半の文様帯は部分的に刻みのある低い隆帯により上下2段に区画される。上段では3つ指の腕(抽象)文が口縁から垂下する。下段は三角・楕円区画。空白部は平行沈線や渦巻文で埋める／胴下半は斜位RL縄文／内面下部に煤が付着／胎土:白色粒子を多量、金雲母を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ 新地平
第83図-7		深鉢／口縁～胴下部	(22.5)		(23.0)	口縁に突起を持ち、口唇部が肥厚する円筒型土器。刻目隆帯によって長方形に区画、上段は平行沈線と刻みによる梯子状文、下段は沈線による再区画と刻み、鋸歯状沈線のもの、沈線間に棒状工具の刺突により爪形文を模した?ものが見られる。区画以下は無文か／内面下部に煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ 新地平
第83図-8		深鉢／口縁～胴下部		10.2	(20.8)	刻目隆帯による楕円・三角の重区画。楕円は3+1区画で区画内は平行沈線、三角は4区画で区画内は爪形文や三叉文／内面全体的に煤が付着し、見込み部にハジケが見られる。底面は焼成がやや悪く、ナデによりやや平滑	中期中葉/勝坂Ⅲ 新地平9a,b
第83図-9		深鉢／口縁部				扇状把手／上面に角押文、波状の隆帯に沿う角押文／胎土:金雲母を含む	中期中葉/阿玉台Ⅱ
第83図-10		深鉢／胴部				断面三角形の隆帯にボタン状の貼り付け文／胎土:金雲母	中期中葉/阿玉台
第83図-11		深鉢／胴部				断面三角形の隆帯／胎土:金雲母	中期中葉/阿玉台
第83図-12		深鉢／胴部				角押文	中期中葉/阿玉台
第83図-13		深鉢／口縁部				突起部／胎土:金雲母を微量含む	中期中葉/勝坂
第83図-14		深鉢／口縁部				突起部／幅広めの押し文	中期中葉/勝坂
第83図-15		深鉢／口縁部				8単位の波状口縁／刻目隆帯、脇に連続刺突／口唇部内面に煤付着	中期中葉/勝坂
第83図-16		深鉢／口縁部				横位の爪形文、その内側に直交する爪形文／内面に煤付着	中期中葉/勝坂
第83図-17		深鉢／胴部				隆帯に沿って爪形文	中期中葉/勝坂
第83図-18		深鉢／口縁部				横位に櫛歯状工具を押し引き	中期中葉/勝坂
第83図-19		深鉢／口縁部				口縁に刻目	中期中葉/勝坂Ⅲ
第83図-20		深鉢／口縁部				口縁部に蛇腹状に隆帯を貼り付け、一部に刻目	中期中葉/勝坂Ⅲ
第83図-21		深鉢／口縁部				沈線による文様／器面平滑、外面黒色、内面赤彩	中期中葉/勝坂Ⅲ
第83図-22		深鉢／口縁部				横位RL縄文	中期中葉/勝坂
第83図-23		深鉢／口縁部				眼鏡状突起部／刻目隆帯を垂下する	中期中葉/勝坂
第83図-24		深鉢／胴部				刻目隆帯、脇に沈線、一部に刺突／胎土:角閃石を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ
第83図-25		深鉢／胴部				細い粘土紐を貼り付け／内面ミガキ、外面に煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ
第83図-26		深鉢／胴部				刻目隆帯による楕円区画、区画内沈線、刻み／下半は縦位RL縄文／胎土:結晶片岩を含む、内面煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ
第83図-27		深鉢／口縁部	(9.2)		(6.5)	地文縦位・斜位Lr燃糸／沈線による渦巻き文／胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利EⅠ 併行
第83図-28		深鉢／口縁部				併行隆帯、突起部	中期中葉/加曾利EⅠ
第83図-29		深鉢／胴部				地文縦位Lr燃糸／隆帯による蛇行懸垂文	中期中葉/加曾利EⅠ
第83図-30		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／沈線による懸垂文	中期中葉/加曾利EⅠ
第83図-31		深鉢／胴部				横位RL縄文	中期
第83図-32		深鉢／胴部				縦位LR縄文	中期
第83図-33		深鉢／胴～底部	(13.5)		(8.8)	横位LR縄文／内面炭化	中期
第83図-34		深鉢／底部				内面に煤付着	中期
第84図-35		深鉢／底部				縦位Lr燃糸／胎土:角閃石を含む、内面に煤付着	中期
第84図-36		深鉢／底部				内面炭化	中期
第84図-37		浅鉢／口縁部				口縁に刻み、沈線、内面に稜線を持つ／内外面ミガキ、口唇部～口縁内面に僅かに赤彩が残存する	中期
第84図-38		浅鉢／口縁部				波状口縁／内面に段を持つ／内外面ミガキ、内外面赤彩、口唇部黒色／胎土:結晶片岩を含む	中期
第84図-39		浅鉢／口縁部				横位RL縄文／被熱によるハジケが見られる／内面ミガキ	中期
第84図-40		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ、赤彩、内面に黒斑有	中期
第84図-41		浅鉢／胴部				内外面ミガキ、赤彩／No40と同一個体	中期
第84図-42		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ、赤彩、口唇部に黒斑	中期
第84図-43	浅鉢／口縁部				内外面ミガキ、口縁部黒斑、外面黒色／胎土:結晶片岩を含む	中期	
第84図-1	198号住居跡	深鉢／口縁～胴上部	24.3		(20.0)	膨らんだ頸部から無文の口縁部が肥厚しつつ直立する。頸部以下は斜～縦位のLr燃糸。外面口縁直下に煤が付着し、頸部以下はハジケが見られ、内面頸部以下は煤が付着しハジケが特に顕著である／胎土:角閃石・白色粒子を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ後半
第84図-2		深鉢／口縁～胴上部	(42.0)		(21.2)	無文の口縁部は内湾し、口唇部は水平になる。頸部以下は緩やかに膨らみ、文様帯を設ける。隆帯上は棒状工具側面の刺突、同工具を浅めの連続刺突、爪形文が見られ、区画内は沈線による再区画、連鎖状の円文など／内面口縁の一部や胴下部に煤が付着。器面は他の土器よりも風化が進んでいる	中期中葉/勝坂Ⅲ後半
第84図-3		深鉢／口縁部				把手部／口縁に棒状工具の押圧、山状の隆帯を垂下、角押文による渦巻き／胎土:雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第84図-4		深鉢／口縁部				口縁部肥厚／胎土:雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第84図-5		深鉢／胴部				交互刺突、刻み目を持つ隆帯を十字に貼り付け／胎土:金雲母・白色粒を含む	中期中葉/阿玉台
第84図-6		深鉢／口縁部				無文口縁、縦位の管状工具の刺突列／内外面黒色、胎土:角閃石を含む	中期中葉/勝坂
第84図-7		深鉢／口縁部				波状口縁／外面黒色、胎土:角閃石を含む	中期中葉/勝坂
第84図-8		深鉢／胴部				隆帯脇に沈線と粗雑な爪形文	中期中葉/勝坂Ⅱ
第84図-9		深鉢／胴部				隆帯条に綾杉状の刻み	中期中葉/勝坂Ⅲ
第84図-10		深鉢／胴部				刻目隆帯、棒状工具側面の押圧～刺突を持つ隆帯による渦巻き文	中期中葉/勝坂Ⅲ
第84図-11		深鉢／胴部				隆帯上に爪形文、ボタン状貼り付け文	中期中葉/勝坂Ⅲ
第84図-12		深鉢／胴部				刻目隆帯、沈線による文様／内面黒色	中期中葉/勝坂Ⅲ
第84図-13		深鉢／胴部				沈線間に交互刺突／胎土:角閃石を含む／外面被熱によるハジケあり	中期中葉/勝坂Ⅲ

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代	
第84図-14	198号住居跡	深鉢／胴部				隆帯・沈線による区画内に刺突列／胎土に角閃石を含む、内面に煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第84図-15		深鉢／胴部				隆帯区画内に縦位沈線／内面に煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第84図-16		深鉢／口縁部				眼鏡状突起	中期中葉/勝坂	
第84図-17		深鉢／口縁部				口縁上突起／付け根に刺突？列／胎土に角閃石を含む	中期中葉/勝坂	
第84図-18		深鉢／口縁部				地文斜位Lr燃糸／口唇部に黒斑有	中期中葉/加曾利EⅠ	
第84図-19		深鉢／口縁部				横位隆帯、下部に波状の隆帯貼付か	中期中葉/加曾利EⅠ	
第84図-20		深鉢／頸部				頸部無文帯／隆帯による胴部との区画／内面被熱によるハジケあり	中期中葉/加曾利EⅠ	
第84図-21		深鉢／胴部				地文Lr燃糸／隆帯による懸垂文／外面被熱によるハジケあり	中期中葉/加曾利EⅠ	
第84図-22		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／沈線による文様	中期	
第84図-23		浅鉢／口縁部				無文／外面ミガキ	中期	
第84図-24		浅鉢／口縁部	(28)			無文／外面ミガキ	中期	
第84図-25		浅鉢／口縁部				無文	中期	
第84図-26		浅鉢／口縁部				無文／外面赤彩、内面下部に煤付着	中期	
第84図-27		浅鉢／口縁部	(26.4)			無文／口唇部～外面赤彩、内面黒色	中期	
第84図-28		浅鉢／口縁部				無文／内外面ミガキ、外面黒色、赤彩	中期	
第84図-29		深鉢／底部				細身で小型か／縦位LR縄文／内面に煤付着	中期	
第84図-30		深鉢／底部				無文／内面に煤付着	中期	
第84図-31		深鉢／底部				無文／内面に煤付着、被熱によるハジケあり	中期	
第84図-32		深鉢／胴部				縦位RL縄文／内面に被熱によるハジケ、内面下部に煤付着、種実圧痕？あり	中期	
第84図-33		深鉢／胴部				縦位Lr燃糸／内面炭化する	中期	
第84図-34		石器／石鏃	(2.75)	(1.56)	0.43	石質:黒曜石(灰色・透明度高い、黒色の縞)／(1.29g)／基部欠損／凹基／側面を鋸歯状に加工		
第84図-35		石器／石匙	9.24	3.98	0.99	石質:細粒砂岩／46.09g／完形／縦型／薄手に作り、両側面の稜線上にや丸みを帯びる箇所あり		
第85図-36		石器／打製石斧	(6.79)	(4.68)	2.25	石質:頁岩／(83.09g)／刃部欠損／撿型／表に自然面を残す		
第85図-37		石器／打製石斧	11.37	4.15	1.75	石質:粗粒砂岩／110.47g／完形／短冊型／表に自然面を残す		
第85図-38		石器／打製石斧	(8.77)	(5.53)	2.98	石質:中粒砂岩／(218.93g)／両端部欠損／短冊型／表に自然面を残す		
第85図-39		石器／打製石斧	(8.22)	(5.80)	2.20	石質:ホルンフェルス／(151.23g)／一部欠損／ゆるくくびれる分銅型		
第85図-1		199号住居跡	(有孔)鐔付土器	鐔部 16.2	7.2	(14.5)	口縁部欠損／無文、外面ミガキ／隆帯の低い鐔と直立する口縁の接合部、口縁側に穿孔痕？あり／内外面赤彩、内面底部黒色、外面に黒斑有	中期
第85図-2			浅鉢	(50.0)	(10.8)	16.8	口縁部は内湾し、口唇部が直立する／内外面ミガキ、赤彩、外面黒斑有	中期中葉/勝坂Ⅲ～加曾利EⅠ
第85図-3			深鉢／胴部				断面三角形の隆帯上に押圧/胎土に雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第85図-4			鉢／口縁部				波状口縁／口縁部に刻目隆帯による区画、区画内は平行沈線。胴部は縦位R燃糸／外面上部黒色、内面に煤付着、胎土:白色粒子を多量に含む	中期中葉/勝坂Ⅲ
第85図-5			深鉢／口縁部				内湾する無文口縁部／器面ハジケが顕著で内面から口唇部外面にかけて炭化している	中期
第85図-6			深鉢／口縁部				内湾する無文口縁部／内外面黒色、内面一部に赤彩	中期
第85図-7			深鉢／口縁部				内湾する無文口縁部／器面ハジケが顕著で内面から口唇部外面にかけて炭化している	中期
第85図-8			深鉢／口縁部				無文口縁部、口唇部は折り返し	中期
第85図-9	深鉢／口縁部					無文口縁部	中期	
第85図-10	深鉢／口縁部					波状口縁、無文／外面黒色	中期	
第85図-11	深鉢／口縁部		(15)			直立する無文口縁部／外面ハジケが顕著／胎土に角閃石を含む、口唇部に煤付着	中期	
第85図-12	深鉢／胴部					沈線による楕円、円文、下に細い刻目隆帯／器面ハジケ多い	中期中葉/勝坂	
第85図-13	深鉢／胴部					低い隆帯上に刻み／内面に煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第85図-14	深鉢／胴部					刻目隆帯による楕円区画、区画内刻目と爪形文／内面に僅かに煤付着	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第85図-15	深鉢／胴部					地文縦位RL縄文、細い刻目隆帯	中期	
第85図-16	深鉢／口縁部					地文縦位Lr燃糸／平行隆帯／外面黒色	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-17	深鉢／口縁部					地文斜位Lr燃糸／平行隆帯／内面赤彩、外面黒斑	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-18	深鉢／口縁部					地文縦位Lr燃糸	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-19	深鉢／口縁部					地文縦位Lr燃糸／外面に煤付着	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-20	深鉢／口縁～頸部					平行隆帯による口縁部文様、無文頸部との区画	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-21	深鉢／口縁部					地文縦位Lr燃糸／平行隆帯／内外面に煤付着	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-22	深鉢／頸部					平行隆帯による無文頸部との区画／内面に煤付着	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-23	深鉢／頸部					地文縦位燃糸／隆帯による無文頸部との区画／内面大きなハジケ	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-24	深鉢／頸部					頸部無文帯、平行微隆起線による胴部との区画／外面にハジケ	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-25	深鉢／頸部					頸部無文帯、平行隆帯による胴部との区画／胴部地文縦位Lr燃糸	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-26	深鉢／胴部					地文太目の縦位Lr燃糸／平行隆帯による弧状の懸垂文／器面にハジケあり	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-27	深鉢／胴部					地文縦位Lr燃糸／隆帯による蛇行懸垂文	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-28	深鉢／胴部					地文縦位Lr燃糸／隆帯による蛇行懸垂文	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-29	深鉢／胴部					地文縦位Lr燃糸／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-30	深鉢／胴部					地文縦位Lr燃糸／平行隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-31	深鉢／胴部					地文縦位Lr燃糸／平行隆帯による懸垂文／土器内面まで炭化している	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-32	深鉢／胴部					地文縦位Lr燃糸／隆帯による懸垂文／外面部分的に煤付着	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-33	深鉢／底部				(10.6)	地文縦位Lr燃糸／平行隆帯による懸垂文／内面煤付着／胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-34	深鉢／底部				(10.6)	地文縦位Lr燃糸／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利EⅠ	
第85図-35	鉢？／底部			(7.4)	地文縦位RL燃糸／薄手である。内面黒色で平滑／外面ハジケ多い	中期		
第85図-36	深鉢／底部				地文縦位Lr燃糸	中期		
第85図-37	深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／平行隆帯による頸部との区画、蛇行懸垂文／内面に煤付着	中期中葉/加曾利EⅠ		
第85図-38	深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／隆帯による頸部との区画	中期中葉/加曾利EⅠ		
第85図-39	深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／隆帯による懸垂文／胎土:角閃石を含む、内面煤付着	中期中葉/加曾利EⅠ		
第85図-40	深鉢／胴部				地文斜位RL縄文／平行隆帯による懸垂文／内面に煤付着	中期中葉/加曾利EⅠ		
第85図-41	深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／多裁管状工具内皮側の沈線による胴部区画、懸垂文	中期中葉/加曾利EⅠ		
第85図-42	深鉢／胴部				地文縦位燃糸Lr／沈線による蛇行懸垂文／内面に煤付着	中期中葉/加曾利EⅠ		

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代	
第85図-43	199号住居跡	深鉢/胴部				地文縦位燃糸Rl/連弧文	中期中葉/加曾利E II	
第85図-44		深鉢/胴部				地文不鮮明、縦位LR縷文?/内面に煤付着	中期	
第85図-45		深鉢/底部			(6.6)	器面僅かにハジケあり	中期	
第85図-46		深鉢/底部				器面ハジケあり	中期	
第85図-47		深鉢/口縁部				沈線による同心円	中期中葉/曾利系?	
第85図-48		深鉢/口縁部				隆帯による同心円?/器面ハジケ顕著	中期中葉/曾利系?	
第85図-49		深鉢/胴部				多裁管状工具の沈線と連続刺突により横位に区画、以下同工具による縦位沈線/内面に煤付着	中期中葉/曾利系	
第86図-50		深鉢/不明				地文横位の櫛歯状工具による条線/隆帯を貼り付ける	中期	
第86図-51		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内面に黒斑有	中期中葉/勝坂III~加曾利E I	
第86図-52		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、外面に赤彩痕跡	中期中葉/勝坂III~加曾利E I	
第86図-53		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ/胎土:赤褐色、口唇部に黒斑有	中期中葉/勝坂III~加曾利E I	
第86図-54		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内外面赤彩/胎土:赤褐色	中期中葉/勝坂III~加曾利E I	
第86図-55		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、口縁~外面黒色	中期中葉/勝坂III~加曾利E I	
第86図-56		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内面黒色、外面赤彩	中期	
第86図-57		浅鉢/口縁部				外面ミガキ	中期	
第86図-58		深鉢/胴部				内外面ミガキ、内外面赤彩/外面ハジケ多数、外面に黒斑有、胎土:赤褐色	中期	
第86図-59		浅鉢/胴部				隆帯上に棒状工具側面の押圧と横位RL縷文/内面ミガキ/胎土:金雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台	
第86図-60		浅鉢/胴部				横位の平行隆帯、そこから隆帯が垂下する/内外面ミガキ/内面黒色	中期中葉/勝坂III~加曾利E I	
第86図-61		石器/打製石斧	9.10	5.26	2.11	石質:凝灰岩/119.66g/完形/撥型/基部を大きく打ち欠き尖らせる、表に自然面を残す		
第86図-62		石器/打製石斧	(10.95)	(6.00)	(3.22)	石質:細粒砂岩/(280.08g)/刃部欠損/表に自然面を残す、基部は丸く調整し、稜線にやや摩擦が見られる/接合あり		
第86図-63		石器/磨り石	14.22	10.30	4.99	石質:閃緑岩/1052.35g/完形/表面平滑		
第86図-64		石器/石皿	27.4	18.4	7.05	石質:多孔質安山岩/4,880g/完形		
第87図-1		200号住居跡	深鉢/口縁部				V字状に隆帯を貼り付け/胎土:金雲母を含む	中期中葉/阿玉台
第87図-2			深鉢/口縁部				縦位のペン先状刺突列、横位の爪形文による区画文/器面平滑	中期中葉/勝坂2
第87図-3			深鉢/胴部				隆帯脇に爪形文/内外面にハジケあり、内面に煤付着	中期中葉/勝坂2
第87図-4			深鉢/口縁部				縦位の沈線間に棒状工具による刺突/口唇~外面黒色	中期中葉/勝坂
第87図-5			深鉢/口縁部				口縁に無文部を残し、以下に縦位L燃糸	中期
第87図-6			深鉢/口縁部				無文/外面部分的に煤付着	中期
第87図-7			深鉢/口縁部				無文	中期
第87図-8			深鉢/口縁部				地文横位燃糸?/十字に交差する低い平行隆帯	中期
第87図-9	深鉢/胴部					刻目隆帯、脇に沈線、区画内に爪形文	中期中葉/勝坂III	
第87図-10	深鉢/口縁部		(14.4)		(6.8)	地文縦位沈線/刻目隆帯によるワラビ手文/胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/勝坂III	
第87図-11	深鉢/頸部					口縁部地文縦位L燃糸か/口縁部とは棒状工具側面の押圧を持つ隆帯によって区画	中期中葉/勝坂III	
第87図-12	深鉢/口縁部		(14.0)			地文斜位L燃糸/口縁直下から隆帯による懸垂文/内外面に僅かに煤付着	中期中葉/加曾利E I	
第87図-13	深鉢/口縁~頸部					地文(口縁部:斜位R燃糸、頸部:縦位R燃糸)/平行隆帯による文様/内面にハジケあり/胎土:結晶片岩を含み、硬質	中期中葉/加曾利E I	
第87図-14	深鉢/口縁部					波頂部/地文横位L燃糸/大きくせり出す平行隆帯による文様/胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I	
第87図-15	深鉢/口縁部					地文斜位L燃糸/平行隆帯によるせり出す文様/胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I	
第87図-16	深鉢/口縁部					地文縦位L燃糸/大きくせり出す平行隆帯による文様/器面ハジケあり	中期中葉/加曾利E I	
第87図-17	深鉢/口縁部					地文縦位R燃糸/平行隆帯によるワラビ手文	中期中葉/加曾利E I	
第87図-18	深鉢/口縁部		(23.0)			地文(口縁部:斜位R燃糸、頸部:縦位R燃糸)/平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I	
第87図-19	深鉢/口縁部		(19.8)			地文斜位R燃糸/平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I	
第87図-20	深鉢/口縁部					地文斜位L燃糸/平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I	
第87図-21	深鉢/口縁部					地文斜位R燃糸/内外面に煤付着	中期中葉/加曾利E I	
第87図-22	深鉢/口縁部					地文横位L燃糸/外面口唇~内面にかけて黒色	中期中葉/加曾利E I	
第87図-23	深鉢/口縁~胴部		(15.2)		(9.7)	波状口縁/狭い口縁部文様、頸部は無文で縦横のケズリ痕がみられる、胴部地文縦位L燃糸/内面に煤付着	中期中葉/加曾利E I	
第87図-24	深鉢/口縁部~頸部					地文横位L燃糸/平行隆帯による文様、頸部無文	中期中葉/加曾利E I	
第87図-25	深鉢/口縁部					地文縦位L燃糸/平行隆帯による渦巻き文、胴部との区画/胎土:赤褐色で白色粒子を含む	中期中葉/加曾利E I	
第87図-26	深鉢/胴部					地文縦位L燃糸/隆帯による胴部との区画/胎土:赤褐色	中期中葉/加曾利E I	
第87図-27	深鉢/胴部					地文縦位L燃糸/隆帯による胴部との区画/内面帯状に煤付着	中期中葉/加曾利E I	
第87図-28	深鉢/胴部					地文縦位L燃糸/平行隆帯による弧状文	中期中葉/加曾利E I	
第87図-29	深鉢/胴部					地文縦位L燃糸/平行隆帯による文様、内面ハジケあり	中期中葉/加曾利E I	
第87図-30	深鉢/胴部					地文縦位L燃糸/平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I	
第87図-31	深鉢/胴部					地文縦位L燃糸/隆帯による懸垂文/内面に煤付着	中期中葉/加曾利E I	
第87図-32	深鉢/胴部					地文縦位L燃糸/隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利E I	
第87図-33	深鉢/底部					地文縦位L燃糸/隆帯による懸垂文/内面炭化	中期中葉/加曾利E I	
第87図-34	深鉢/口縁部	(26.5)		(17.2)	口縁に大突起/地文横位RL縷文/突起に接続する平行隆帯による立体的な文様/頸部無文、胴部と隆帯で区画	中期中葉/加曾利E I		
第87図-35	深鉢/口縁部				地文横位RL縷文/平行隆帯による文様、外面口縁~内面にかけて赤彩/胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I		
第87図-36	深鉢/口縁部	(27.0)		(9.2)	地文横位RL縷文/低い平行隆帯による文様、頸部無文で丁寧なミガキ	中期中葉/加曾利E I		
第87図-37	深鉢/口縁部				地文横位RL縷文/低い平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I		
第87図-38	深鉢/口縁部				波状口縁/地文横位RL縷文/隆帯による文様/胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I		
第87図-39	深鉢/口縁部				波状口縁/地文横位RL縷文/隆帯による文様、内面赤彩/胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I		
第87図-40	深鉢/口縁部				波状口縁/地文横位RL縷文/平行隆帯による文様/器面ハジケあり、内面に煤付着	中期中葉/加曾利E I		
第87図-41	深鉢/口縁部				地文縷文/平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I		

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第87図-42	200号住居跡	深鉢／頸部				地文横位RL縄文／隆帯による口縁部との区画、頸部無文／内面下部にハジケあり	中期中葉/加曾利E I
第88図-43		深鉢／胴部				地文横位～斜位のLR縄文／頸部無文、平行隆帯による懸垂文、内面赤彩か	中期中葉/加曾利E I
第88図-44		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／平行隆帯による懸垂文／内面に煤付着	中期中葉/加曾利E I
第88図-45		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／隆帯による懸垂文／内面炭化、外面大きめのハジケあり	中期中葉/加曾利E I
第88図-46		深鉢／胴部				地文縦位L燃糸／多裁管状工具内皮側による沈線で頸部と区画／内面に煤付着	中期中葉/加曾利E I
第88図-47		深鉢／胴部				地文縦位L燃糸／多裁管状工具内皮側による懸垂文	中期中葉/加曾利E I ～II
第88図-48		深鉢／胴部				地文縦位L燃糸／多裁管状工具内皮側による連弧文	中期中葉/加曾利E II
第88図-49		深鉢／胴部				地文横位RL縄文か／平行沈線による連弧文／外面に黒斑有	中期中葉/加曾利E II
第88図-50		深鉢／口縁部				沈線による複弧文	中期中葉/曾利
第88図-51		深鉢／口縁部				沈線による複弧文／内面炭化、内外面・割れ口に大きめのハジケあり	中期中葉/曾利
第88図-52		深鉢／胴部				縦位の平行沈線	中期中葉/曾利
第88図-53		深鉢／底部		4.6	(3.2)	地文縦位沈線／粘土紐による懸垂文、底面ナデ／内面に種実圧痕？あり	中期中葉/曾利系
第88図-54		深鉢／口縁部				波状口縁／地文縦位L燃糸／隆帯による狭い口縁部文様帯、内面黒色	中期中葉/大木
第88図-55		深鉢／口縁部				波状口縁／隆帯による狭い口縁部文様帯、波頂部が渦巻く、頸部地文縦位L燃糸、胴部とは沈線で区画	中期中葉/大木
第88図-56		深鉢／口縁部				口縁部突起／粘土紐を巻き上げた渦巻き文／外面にハジケあり	中期中葉/曾利
第88図-57		深鉢／口縁部				口縁部突起／潰れた円柱状で頂部に沈線で円文、隆帯が垂下する／外面にハジケあり	中期中葉/曾利
第88図-58		深鉢／口縁部				口縁部突起／斜位RL縄文	中期中葉/曾利
第88図-59		深鉢／口縁部				波頂部／隆帯を垂下か、内面に沈線文／輪積み接合部に多裁管状工具内皮側による押引文のような凹凸	中期
第88図-60		深鉢／口縁部				地文縦位RL縄文	中期
第88図-61		深鉢／胴部				縦位L燃糸／内面に煤付着	中期
第88図-62		深鉢／底部		(8.4)		縦位L燃糸／沈線による懸垂文？底面未調整／内面炭化	中期
第88図-63		深鉢／底部		(7.0)		縦位L燃糸／底部付近は左方向にケズリ、底面光沢を持つ	中期
第88図-64		深鉢／底部		(7.8)		縦位L燃糸／底部付近は左方向にケズリ、底面光沢を持つ／内面炭化	中期
第88図-65		深鉢／底部		(8.0)		縦位L燃糸／底部付近は右方向にケズリ／内面炭化／胎土:角閃石を含む	中期
第88図-66		深鉢／底部		(12.2)		無文	中期
第88図-67		深鉢／底部		(7.6)		無文	中期
第88図-68		深鉢／底部		(5.6)		地文縄文／底面付近左方向ナデ／内面に煤付着	中期
第88図-69		深鉢／胴～底部		(7.0)	(11.0)	地文やや斜位のL燃糸／地文をすり消した部分に赤・黒色塗彩を施す、内面は上部に赤・黒色の塗彩が僅かに残り、帯状に間を空けて下部は斑点状に黒色物が付着、底面は未調整／胎土:砂質	中期
第88図-70	浅鉢／口縁部				口縁やや内湾する／外面赤彩	中期	
第88図-71	浅鉢／口縁部				内外面に黒・赤彩、ミガキ	中期	
第88図-72	浅鉢／口縁部				口縁強く屈曲する／口唇～内面が黒色を呈し、外面は赤彩と見られる	中期	
第88図-73	浅鉢／口縁部				内外面塗彩／胎土:白色針状物質を含む	中期	
第88図-74	浅鉢／口縁部				内外面ミガキ／黒斑有	中期	
第88図-75	浅鉢／口縁部				内外面ミガキ、内面赤彩	中期	
第88図-76	浅鉢／口縁部				内外面ミガキ	中期	
第88図-77	浅鉢／胴部				内外面に黒・赤彩、ミガキ	中期	
第88図-78	浅鉢／胴部				屈曲する胴部／外面は折れ目を境に黒・赤彩を施し、内面は黒彩	中期	
第88図-79	浅鉢／胴部				屈曲する胴部／平行する円形文と沈線	中期	
第88図-80	土製品／円盤				割れ口摩滅	中期	
第88図-81	土製品／円盤				割れ口摩滅／煤付着	中期	
第88図-82	土製品／耳栓	2.58	1.80	1.50	重量:(6.0g)	中期	
第88図-83	石器／石鏃	2.77	2.31	0.75	石質:チャート(灰色・不透明、黒色の線)／5.43g／未製品		
第88図-84	石器／打製石斧	9.16	4.79	1.79	石質:粗粒砂岩／(106.65g)／一部欠損／撥型／風化して脆い、表に自然面を残す		
第88図-85	石器／打製石斧	9.06	4.27	1.91	石質:珪質頁岩／99.28g／完形／撥型／表は自然面をそのまま使用、裏面も細かな調整は刃部のみで、主要剥離面を残す、裏面の刃部上位・左側面中位までが摩滅し光沢をもつ		
第88図-86	石器／打製石斧	(9.68)	4.84	(2.28)	石質:粗粒砂岩／(126.63g)／刃部欠損／撥型		
第88図-87	石器／打製石斧	(8.17)	(5.42)	(1.70)	石質:ホルンフェルス／(100.17g)／刃部欠損／撥型／風化強い		
第88図-88	石器／打製石斧	(9.81)	6.02	1.79	石質:珪質頁岩／(142.91g)／刃部欠損／撥型／表に自然面を残す、表面の下部、裏面の左上が摩滅し光沢をもつ		
第88図-89	石器／打製石斧	(5.33)	5.05	1.61	石質:ホルンフェルス／(56.76g)／上半部欠損／撥型		
第88図-90	石器／打製石斧	(4.54)	(6.30)	(2.45)	石質:ホルンフェルス／(76.03g)／基部残存		
第88図-91	石器／打製石斧	(5.91)	(6.85)	(2.65)	石質:ホルンフェルス／(133.67g)／刃部残存／表に自然面を残す		
第88図-92	石器／敲石	(7.77)	4.04	2.27	石質:中粒砂岩／(107.75g)／基部欠損／自然面を多く残す、両側面に敲打痕		
第89図-1	201号住居跡	深鉢／口縁～胴部	(23.6)		(15.5)	口縁部無文、口唇部が内屈する。頸部はくびれ、胴部が大きく膨らむ。胴部地文縦位RL縄文、隆帯による懸垂文／外面口縁部に煤が付着し、胴部の一部にハジケが見られる	中期中葉/曾利系
第89図-2		深鉢／口縁部				波頂部／隆帯上刺突	中期中葉/勝坂
第89図-3		深鉢／胴部				刻目隆帯、脇に沈線／外面僅かに煤付着	中期中葉/勝坂III
第89図-4		深鉢／胴部				沈線間に交互刺突	中期中葉/勝坂III
第89図-5		深鉢／口縁部				隆帯による口縁部文様／胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I
第89図-6		深鉢／口縁部				隆帯による口縁部文様／内面ナデ調整	中期中葉/加曾利E I
第89図-7		深鉢／頸部				隆帯による無文頸部との区画／胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/加曾利E I
第89図-8		深鉢／頸部				頸部無文帯、胴部地文縦位RL縄文／外面に煤付着	中期中葉/加曾利E I
第89図-9		深鉢／頸部				平行隆帯による区画／内面にハジケが見られる	中期中葉/加曾利E I
第89図-10		深鉢／胴部				地文条線／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利E I
第89図-11		深鉢／胴部				地文沈線／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利E I
第89図-12		深鉢／胴部				隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利E I
第89図-13		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／低い平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I
第89図-14		深鉢／胴部				地文縦位RL縄文／隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利E I

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第89図-15	201号住居跡	深鉢／胴部				地文縦位RL縷文／隆帯による懸垂文／内面炭化	中期中葉/加曾利E I
第89図-16		深鉢／胴部				隆帯による懸垂文／摩滅し地文不明	中期中葉/加曾利E I
第89図-17		深鉢／胴部				地文多裁管状工具による縦位の平行沈線/綾杉状に刻目を持つ隆帯による懸垂文／内面に煤付着	中期中葉/加曾利E I
第89図-18		深鉢／胴部				地文多裁管状工具による縦位の平行沈線/綾杉状に刻目を持つ隆帯による懸垂文／内面炭化	中期中葉/加曾利E I
第89図-19		深鉢／底部			(6.6)	地文多裁管状工具による縦位の平行沈線/綾杉状に刻目を持つ隆帯による懸垂文／底面調整により平滑、内面炭化	中期中葉/加曾利E I
第89図-20		深鉢／胴部				頸部無文帯と胴部を沈線で区画／胴部地文縦位RL縷文	中期中葉/加曾利E I
第89図-21		深鉢／胴部				頸部と胴部を沈線で区画、沈線による懸垂文	中期中葉/加曾利E I
第89図-22		深鉢／胴部				地文縦位RL縷文／沈線による懸垂文	中期中葉/加曾利E I
第89図-23		深鉢／胴部				地文斜位RL縷文／多裁管状工具の沈線による懸垂文	中期中葉/加曾利E I
第89図-24		深鉢／口縁部				無文口縁部、屈曲部に波状の粘土紐を貼り付け	中期中葉/曾利系
第89図-25		深鉢／口縁部				無文口縁部／下部に隆帯の痕跡あり/被熱によるハジケ、内面の一部に煤付着	中期
第89図-26		深鉢／口縁部				無文口縁部	中期
第89図-27		深鉢／口縁部				無文口縁部	中期
第89図-28		深鉢／口縁部				無文口縁部	中期
第89図-29		深鉢／口縁部				無文口縁部／外面に僅かに煤付着	中期
第89図-30		深鉢／口縁部				無文口縁部／胎土:角閃石を含む／一部割れ口に摩滅が見られる	中期
第89図-31		浅鉢／胴部				内面ミガキ、内外面赤彩／胎土:角閃石を含む	中期
第89図-32		土製円盤				土器片転用／割れ口に摩滅が見られる	中期中葉/加曾利E I
第89図-33		土製円盤				土器片転用／割れ口に摩滅が見られる	中期
第89図-34		土製円盤				土器片転用／割れ口に摩滅が見られる	中期
第89図-1		深鉢／口縁～頸部	34		(14.5)	地文縦位Lr燃系/4単位波状口縁、波頂部に合わせて橋状把手が付き、把手に接続するように平行隆帯による文様を施す。頸部は無文で胴部とは隆帯によって区画される／内面被熱によるハジケは少ないが、斑な変色が見られ、4分の1ほどは煤?の付着で黒く変色している	"中期中葉/加曾利E I (西/原9b・黒尾10b)"
第89図-2		深鉢／口縁～頸部	32		(11.8)	地文縦位Lr燃系/4単位波状口縁、平行隆帯による十字や弧線文。頸部は無文で左方向のケズリによる調整、胴部とは隆帯で区画される／内面には被熱によるハジケが見られ、4分の1ほどが黒く変色している	"中期中葉/加曾利E I (西/原9a・黒尾10a)"
第89図-3		深鉢／口縁部				縦位Lr燃系	中期
第89図-4		深鉢／口縁部				横位に沈線	中期
第89図-5		深鉢／胴部				隆帯区画内に縦位の沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ
第89図-6		深鉢／胴部				刻目隆帯による渦巻き文	中期中葉/勝坂Ⅲ
第89図-7		深鉢／胴部				刻目隆帯脇に沈線、沈線による三叉文	中期中葉/勝坂Ⅲ
第89図-8		深鉢／胴部				沈線文／胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/勝坂Ⅲ
第89図-9		深鉢／胴部				隆帯による区画文	中期中葉/勝坂Ⅲ
第89図-10		深鉢／胴部				連鎖状の隆帯、区画内に縦位の沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ
第89図-11		深鉢／口縁部				地文斜位Lr燃系/平行隆帯による文様/胎土:角閃石を含む、外面の一部に煤付着	中期中葉/加曾利E I
第89図-12		深鉢／口縁部				地文縦位R燃系/平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I
第89図-13		深鉢／口縁部				波頂部/口縁との接合部にヒダ状の圧痕	中期中葉/加曾利E I
第89図-14		深鉢／口縁部				橋状把手/沈線	中期中葉/加曾利E I
第90図-15	深鉢／口縁部				橋状把手/沈線	中期中葉/加曾利E I	
第90図-16	深鉢／口縁部				地文縦位R燃系/隆帯による文様	中期中葉/加曾利E I	
第90図-17	深鉢／口縁部				地文横位Lr燃系/隆帯による文様/内面に煤付着	中期中葉/加曾利E I	
第90図-18	深鉢／頸部				無文帯/口縁部とは隆帯で区画	中期中葉/加曾利E I	
第90図-19	深鉢／頸部				無文帯/胴部とは隆帯で区画	中期中葉/加曾利E I	
第90図-20	深鉢／胴部				地文縦位Lr燃系(燃りが強く判然とし無い)/隆帯による懸垂文	中期中葉/加曾利E I	
第90図-21	深鉢／胴部				縦位R燃系	中期	
第90図-22	深鉢／胴部				縦位Lr燃系/内面炭化	中期	
第90図-23	深鉢／底部				縦位Lr燃系/内面炭化/底面は平滑で光沢を持つ	中期	
第90図-24	深鉢／胴部				地文縦位RL縷文/沈線による懸垂文	中期中葉/加曾利E I ~ II	
第90図-25	深鉢／胴部				地文縦位RL縷文/沈線による懸垂文	中期中葉/加曾利E I ~ II	
第90図-26	深鉢／口縁部				沈線による複弧文	中期中葉/曾利系	
第90図-27	深鉢／口縁部				横位の平行沈線、沈線間に刺突	中期中葉/曾利系	
第90図-28	深鉢／胴部				縦位条線/内面ミガキにより平滑	中期中葉/曾利系	
第90図-29	深鉢／胴部				9本単位の櫛歯状工具による縦位沈線	中期中葉/曾利系	
第90図-30	浅鉢／口縁～胴部	(19.5)		(11.7)	内外面ミガキ、一部赤彩が残存する、内外面に黒斑有	中期	
第90図-31	浅鉢／口縁部				外面ミガキ	中期	
第90図-32	浅鉢／口縁部				両脇に沈線あり	中期	
第90図-33	浅鉢／口縁部				内外面ミガキ	中期	
第90図-34	浅鉢／胴部				内外面ミガキ、外面赤彩、内面黒色を呈する/胎土:角閃石を含む	中期	
第90図-35	浅鉢／胴部				外面屈曲部以下が黒色化している/胎土:白色針状物質を含む	中期	
第90図-36	深鉢／底部		(7.8)		無文/内面炭化	中期	
第90図-37	深鉢／底部				無文/内面炭化	中期	
第90図-38	石器/石鏃	1.94	1.78	0.30	石質:チャート/1.09g/両端部欠損/主要剥離面を残す		
第90図-39	石器/打製石斧	8.45	4.84	2.03	石質:緑泥片岩/128.74g/完形/短冊型/両端部・両側面に潰れ		
第90図-40	石器/打製石斧	8.58	4.25	1.37	石質:中粒砂岩/84.44g/完形/短冊型/表に自然面を残す、両側面に潰れ		
第90図-41	石器/打製石斧	11.09	5.39	3.25	石質:ホルンフェルス/279.48g/完形/短冊型/右側面に自然面を残す		
第90図-42	石器/打製石斧	(7.17)	4.06	(2.15)	石質:中粒砂岩/(92.76g)/刃部欠損/短冊型/上端部・両側面に潰れ		
第90図-43	石器/打製石斧	(7.01)	(4.29)	(2.07)	石質:ホルンフェルス/(102.99g)/両端部欠損/短冊型/風化が強い		
第90図-44	石器/磨り石・凹み石	(6.09)	(9.13)	3.44	石質:安山岩/(332.55g)/下半欠損/側面以外は摩滅し平滑、表面中央に凹み		

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第86図-1	204号住居跡	深鉢／口縁部				無文／外面に僅かに煤付着	中期中葉/勝坂
第86図-2		深鉢／口縁部				無文	中期中葉/勝坂
第86図-3		深鉢／口縁部				口縁内に隆帯を貼り付ける	中期中葉/勝坂
第86図-4		深鉢／口縁部				無文口縁部／口縁部に煤付着	中期
第86図-5		深鉢／口縁部				縦位L燃糸／口唇部～内面にかけて炭化	中期
第86図-6		深鉢／頸部				隆帯による口縁部区画/内面ミガキ	中期
第86図-7		深鉢／頸部				鎖状の隆帯か／胴部に櫛歯状工具による条線文	中期
第86図-8		深鉢／口縁部				地文縦位L燃糸／平行隆帯による頸部との区画／胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I
第86図-9		深鉢／底部			(9.0)	地文縦位L燃糸／隆帯による懸垂文／底面平滑	中期中葉/加曾利E I
第86図-10		深鉢／底部			(12.2)	地文縦位L燃糸／隆帯による懸垂文／底面平滑／胎土:角閃石を含む、内面炭化	中期中葉/加曾利E I
第86図-11		深鉢／口縁部				地文横位RL縄文／隆帯による渦巻き文	中期中葉/加曾利E I
第86図-12		深鉢／頸部				地文縦位RL縄文／平行隆帯による胴部との区画	中期中葉/加曾利E I
第86図-13		深鉢／頸部				地文縦位無節縄文／頸部無文	中期中葉/加曾利E I
第86図-14		深鉢／頸部				地文縦位無節縄文／頸部無文	中期中葉/加曾利E I
第86図-15		深鉢／胴部				地文横位RL縄文／内面炭化	中期
第86図-16		深鉢／胴部				地文斜～縦位LR縄文／隆帯による蛇行懸垂文／内面炭化	中期中葉/加曾利E I
第86図-17		深鉢／底部			11	地文縦位RL縄文／多裁管状工具の沈線による懸垂文／底面平滑、内面炭化	中期中葉/加曾利E I
第86図-18		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ／被熱によるハジケあり、内面炭化	中期
第86図-19		浅鉢／口縁部				内外面ミガキ、内面赤彩／黒斑有	中期
第86図-20		浅鉢／口縁部					中期
第86図-21		浅鉢／口縁部					中期
第86図-22		浅鉢／胴部				内外面ミガキ、内面には赤彩が残る	中期
第86図-23		浅鉢／胴部				被熱によるハジケあり、外面に黒斑有	中期
第86図-24		浅鉢／底部				底面未調整、底部～外面にかけて黒色化する	中期
第86図-25		石器/打製石斧	9.97	3.83	1.99	石質:粗粒砂岩(101.76g)／一部欠損／短冊型／表に自然面を残す	
第91図-1	216号住居跡	深鉢／胴部	-	-	10.5	半裁管状工具による半隆起線上に連続爪形文、交互刺突文を施し、2種1組による縦4区画、最大3条からなる横位区画、区画内は沈線や爪形文、交互刺突文によりそれぞれ異なる文様を施す	中期中葉/勝坂III
第91図-2		深鉢	(10.4)	6.6	19.5	地文縦位RL、逆U字の懸垂文、逆U字内を地文磨消し／内面に煤付着	中期中葉/加曾利E III 新
第91図-3		深鉢／口縁～胴部	-	(34.6)	(13.3)	櫛歯状工具による縦位の波状文／内面ミガキ、内面に僅かに赤彩が残る	中期中葉/加曾利E III
第91図-4		深鉢／胴部	-	-	-	櫛歯状工具による縦位の波状文、沈線による懸垂文／内面ミガキ強、内面黒色／No3と同一個体	中期中葉/加曾利E III
第91図-5		深鉢／底部	-	6.9	(7.3)	地文横位RL縄文／見込みの調整は雑／割れ口に煤が付着	中期
第91図-6		深鉢／口縁部	-	-	-	隆帯上に刻み、隆帯脇に沈線と刻み	中期中葉/勝坂III
第91図-7		深鉢／口縁部	-	-	-	波状口縁／内湾する無文口縁部、くびれた頸部に刻目隆帯、内面黒色ミガキ後赤彩／内外面黒斑有	中期中葉/勝坂III
第91図-8		深鉢／口縁部	-	-	-	内湾する口縁部／波頂部から高さのある隆帯を垂下し、綾杉状の刻みを加える	中期中葉/勝坂III
第91図-9		深鉢／口縁部	-	-	-	強く内湾する口縁、隆起線による複弧文／胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利E I ～II
第91図-10		深鉢／胴部	-	-	-	縦位燃糸Lr／外面黒斑有	中期
第91図-11		深鉢／胴部	-	-	-	断面三角形の隆帯上に綾杉状の刻み、脇に沈線	中期中葉/勝坂III
第91図-12		深鉢／胴部	-	-	-	沈線による円やY字文／内面ミガキ／外面に煤付着	中期中葉/勝坂III
第91図-13		深鉢／胴部	-	-	-	刻目隆帯、縦位の沈線文	中期中葉/勝坂III
第91図-14		深鉢／胴部	-	-	-	縦位に多条沈線、沈線による2条の懸垂文	中期中葉/加曾利E II ～III
第91図-15		深鉢／底部	-	(6.8)	(3.3)	強い屈曲を持ち、器壁は薄手／縦位RL縄文／内面に煤付着	中期
第91図-16		浅鉢？／口縁部	-	-	-	隆帯上に指頭による押圧	中期中葉/勝坂
第91図-17		浅鉢／口縁部	-	-	-	角ばった隆帯による渦巻きを垂下／内外面ミガキ、赤彩が僅かに残存、煤が付着	中期
第91図-18		浅鉢／胴部	-	-	-	無文／外面帯状に黒色を呈する／胎土に雲母含む	中期
第91図-19		浅鉢／胴部	-	-	-	無文／内外面ミガキ／胎土に雲母含む	中期
第91図-20		浅鉢／胴部	-	-	-	無文屈曲部／内外面ミガキ	中期
第91図-21		浅鉢／胴部	-	-	-	隆帯による渦巻きか／内面一部赤色／胎土に石英含む	中期中葉/勝坂III
第91図-22		浅鉢／底部	-	(15.4)	(6.6)	部分的に赤彩が残存／胎土:雲母・石英を含む、No18・19は胎土が同一	中期
第92図-1	竪穴状遺構	深鉢／胴部～底部		7.6	(12.5)	刻目隆帯による重槽円区画文、隆帯脇には沈線が沿う。区画内は平行沈線・波状沈線・刻み・押引文／内外面に二次被熱痕、外面にハジケが顕著、内面に煤付着	中期中葉/勝坂III
第92図-2		深鉢／口縁部				無文／胎土に雲母含む	中期中葉/阿玉台
第92図-3		深鉢／口縁部				突起部／口唇部に刻み、ペン先状工具の連続刺突による施文／胎土に雲母を含む	中期中葉/阿玉台
第92図-4		深鉢／口縁部				口唇部に刻み、ペン先状工具の連続刺突による施文／胎土に雲母を含む	中期中葉/阿玉台
第92図-5		深鉢／口縁部				突起部／突起先端に刻み、2列の角押文／胎土に雲母を含む	中期中葉/阿玉台II
第92図-6		深鉢／胴部				ヒダ状圧痕、波状の沈線を2条／胎土に雲母を含む	中期中葉/阿玉台
第92図-7		深鉢／胴部				断面三角形の隆帯／胎土に雲母を含む	中期中葉/阿玉台
第92図-8		深鉢／底部			9.8	底面外縁に圧痕有／胎土に雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第92図-9		深鉢／口縁部				隆帯による区画、脇にキャタピラ文、区画内に平行角押文	中期中葉/勝坂II
第92図-10		深鉢／胴部				隆帯脇に平行する角押文、区画内波状沈線	中期中葉/勝坂II
第92図-11		深鉢／胴部				隆帯による区画、脇にキャタピラ文、区画内に角押文	中期中葉/勝坂II
第92図-12		深鉢／胴部				爪形文による区画内文様	中期中葉/勝坂II
第92図-13		深鉢／口縁部				刻目隆帯による区画、区画内は沈線を充填	中期中葉/勝坂III
第92図-14		深鉢／口縁部				刻目隆帯による区画、区画内は沈線を充填／No13と同一個体	中期中葉/勝坂III
第92図-15		深鉢／口縁部				突起部／口縁、隆帯上に刻み	中期中葉/勝坂III
第92図-16		深鉢／口縁部				突起部／隆帯上に刻み	中期中葉/勝坂III
第92図-17		深鉢／胴部				刻目隆帯による区画、区画内鋸歯状の隆帯とそれに沿う弧状の沈線	中期中葉/勝坂III
第92図-18		深鉢／胴部				低い隆帯上に刻み、縦位の沈線	中期中葉/勝坂III

図版番号	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代	
第92図-19	縦穴状遺構	深鉢／胴部				刻目隆帯、縦位の角押文	中期中葉/勝坂Ⅱ	
第92図-20		深鉢／胴部				刻目隆帯、下位に沈線を2条	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第92図-21		深鉢／胴部				刻目隆帯、脇に沈線	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第92図-22		深鉢／胴部				刻目隆帯、脇に沈線、区画内に刺突充填	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第92図-23		深鉢／胴部				刺突と沈線による同心円、区画内に沈線を充填	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第92図-24		深鉢／胴部				区画内に沈線を充填、内面黒色	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第92図-25		深鉢／胴部				棒状工具による沈線	中期中葉/勝坂	
第92図-26		深鉢／胴部				棒状工具による沈線を斜位や三叉状	中期中葉/勝坂	
第92図-27		深鉢／胴部				縦位沈線と交互刺突による文様	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第92図-28		深鉢／胴部				縦位沈線と交互刺突による文様/No27と同一個体	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第92図-29		深鉢／口縁部				無文口縁部、頸部に刻目隆帯による区画か	中期中葉/勝坂Ⅲ	
第92図-30		深鉢／口縁部				地文横位Rl燃糸、平行隆帯による文様	中期中葉/加曾利EⅠ	
第92図-31		深鉢／口縁部				地文横位Rl纏文/口唇直下に隆帯の痕跡あり/口唇部、内面ミガキ、内外面赤彩	中期中葉/加曾利EⅠ	
第92図-32		深鉢／胴部				Lr燃糸	中期	
第92図-33		深鉢／胴部				斜位LR纏文/内面に僅かに煤付着	中期	
第92図-34		深鉢／底部				縦位RL纏文	中期	
第92図-35		深鉢／底部				無文/内面炭化、外面ハジケが顕著	中期	
第92図-36		石器/石匙	10.39	4.35	1.68	石質:中粒砂岩/103.90g/完形/縦型石匙/左側面稜線上に潰れ		
第92図-37		石器/打製石斧	(11.51)	(4.14)	(1.59)	石質:粗粒砂岩/(79.45g)/裏面欠損/撥型?/自然面を残す、刃部摩滅感あり		
第91図-1		掘り込み遺構	深鉢／胴部				胎土:雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第91図-2			深鉢／胴部				低い隆帯上に大きめの爪形文	中期中葉/勝坂Ⅲ
第91図-3			深鉢／口縁部				粘土紐を貼り付け	中期
第91図-4			深鉢／頸部~胴部				地文縦位Lr燃糸/屈曲部に連鎖状の隆帯、隆帯交差部に刺突/器面ハジケあり	中期中葉/加曾利EⅠ
第91図-5			深鉢／胴部				斜位RL纏文	中期
第91図-6			深鉢／胴部				縦位平行沈線/器面ハジケあり、内面に煤付着	中期
第91図-7			深鉢／胴部				内外面ミガキ、内面黒色で一部赤彩残存	中期
第91図-8			深鉢／底部				内面煤付着	中期
第91図-9			深鉢／底部		5.6	(1.0)	底部器面にハジケあり	中期
第92図-1		遺構外	深鉢／口縁部				地文縦位RL纏文/低い平行隆帯による文様/胎土:角閃石を含む	中期中葉/加曾利EⅠ新
第92図-2			深鉢／口縁部				口縁部に平行沈線、沈線間に刺突列、以下地文条線	中期中葉/曾利系
第92図-3	深鉢／口縁部					無文口縁部	中期	
第92図-4	深鉢／口縁部					無文/内外面にミガキ	-	
第92図-5	深鉢／底部					地文縦位RL纏文/沈線による懸垂文/内面に煤付着	中期中葉/加曾利EⅡ	
第92図-6	土製品/円盤					側面摩滅	中期	
第92図-7	石器/石鏃		2.23	1.69	0.26	石質:チャート(灰黄色・やや不透明)/0.59g/完形/凹基/薄手で直線的な作り		
第92図-8	石器/石鏃		1.67	1.55	0.31	石質:チャート(灰黄色・やや不透明)/0.70g/完形/凹基/基部は丸みを帯びる		
第92図-9	石器/打製石斧		(7.52)	3.91	1.58	石質:頁岩/(61.10g)/一部欠損/撥型		
第92図-10	石器/打製石斧		9.56	4.97	1.58	石質:中粒砂岩/105.18g/完形/ややくびれる撥型/刃部直線的で、右側に剥離が集中する、左側面に潰れ、表に自然面を残す		
第92図-11	石器/打製石斧		(10.33)	(5.14)	(2.35)	石質:ホルンフェルス/(172.60g)/刃部欠損/ややくびれる撥型/表に自然面を残す、風化が強い		

第8章 まとめ

2017（平成29）年度の本調査は、本書に掲載した松山遺跡第99地点を除く5件以外に、3件の個人住宅建設に伴う本調査を実施している。3件の本調査については、試掘調査の報告と併せて来年度以降に報告を行う。

以下、遺跡別に総括する。

【ハケ遺跡第24地点】

ハケ遺跡第24地点の調査では、縄文時代中期の住居跡を検出した。住居の掘り込みが確認できないほど残りが良くなかったが、炉体土器と埋甕が出土している。共に加曾利EⅡ式新段階のものと考えられる。ハケ遺跡で現在までに確認されている住居跡は、そのほとんどが中期につくられたものである。中でも加曾利EⅡ式期の住居が最も多い。遺跡範囲の北西部～西部に集中する傾向にあり、今回発見されたJ36号住居跡もその一連の流れの中に納まるものであろう。また、近世以降の集石土坑から出土した遺物を見ると、縄文時代前期から後期まで様々出土しているが、中でも中期の特徴を持つ土器片が非常に多い。この集石土坑は礫や土器を廃棄したものと考えられるため、周辺にはこれらの土器を使用していた住居跡が存在していたものと想定できる。このことから、ハケ遺跡に縄文中期の集落が形成されていた可能性が示唆される。しかしながら遺跡範囲の大部分は未調査であるため今後の調査に期待したい。

【駒林遺跡第35・37地点】

今回駒林遺跡では第35地点と第37地点の2地点を調査したが、どちらも共通して堀跡を確認した。駒林遺跡ではこれまでの調査で、同様の堀跡を15ヶ所で確認している。いずれも東西または南北方向に走行する。これらの堀跡は駒林遺跡をぐるりと取り囲むように見つかり、本地点を北限とし、南は第1地点から第23地点のラインまで一連のものと考えれば（第22図参照）、南北の全長約350mの範囲を区画していた堀である可能性が考えられる。

第37地点は南西から北東方向に走行する堀跡である。前述したとおり、現在まで駒林遺跡で発見された堀跡は、東西方向または南北方向を指向するものがほとんどである。第37地点に続くような堀跡は確認さ

れていない。また堀の底部に関しても、これまでに発見されてきた堀は比較的平坦なものが多かったが、第37地点の堀に関しては平坦ではなく、部分的に深く掘り込む部分が見受けられるなど、これまでのものとは多少の相違点が見られる。単なる区画としての堀という意味合いだけでなく、防御的な意味を含んでいる印象を受ける。両端部のレベルを見比べると南西端の方が北東端よりも高く、北側を流れる江川に向かう。しかしながら土層の観察から水が耐水していたような痕跡は見受けられず、他の堀跡同様に空堀であったと考えられる。今後の調査によって解明することであろう。

最後に堀の帰属時期であるが、以前第1地点の調査時に行った土壌サンプル分析によれば、1108年の浅間山噴火の際に降下した火山灰（As-B）を含むことから、12世紀初頭以降に堀の埋没が始まったとされる。今回の2地点に関してもテフラ分析を行ったところ、同様の結果を得ている。両者とも同時期に使用されていた可能性を示唆する結果となった。共伴する出土遺物が極端に少ないため、使用時期を絞り込むことが難しいが、こちらも今後の調査に期待したいところである。

【東久保南遺跡第43地点】

東久保南遺跡では縄文時代中期の住居跡1軒を検出した。本遺跡ではこれまでに2軒の縄文時代住居跡を検出しているが、いずれも中期に属するものである。特にJ1号住居跡は加曾利EⅡ式期の中相とみられ、今回検出したJ3号住居跡と同時期のものと考えられる。本遺跡は土地区画整理事業に伴う発掘調査で遺跡範囲の大部分を調査しているが、縄文時代住居跡3軒と少ない。本遺跡はさかい川左岸に立地しているが、約400m下流には中沢遺跡（富士見市）が位置しており、これまでの調査で加曾利EⅠ～EⅢ式期の住居跡を80軒以上検出している。また、対岸のさかい川右岸には、210軒以上の住居跡を検出する西ノ原遺跡の大集落が展開している。特に西ノ原遺跡は阿玉台Ⅰ～加曾利Ⅲ式期まで継続するものと考えられるが、その最盛期は加曾利EⅡ式である。西ノ原遺跡の大集落との関係が考えられよう。

【西ノ原遺跡第 158 地点】

西ノ原遺跡第 158 地点の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡 12 軒を検出した。西ノ原遺跡に展開する縄文時代中期の双環状集落は、西から東へと変遷しており、加曽利 E II 式期に東へと遷移する。今回の調査地点は双環状集落の西端に位置しており、検出した住居跡はおおむね勝坂Ⅲ～加曽利 E I 式期に集中している。西ノ原遺跡全体を見ると、前述したとおり加曽利 E II 式期に最盛期を迎えるが、加曽利Ⅲ式期になると住居の数が激減、その後終焉する。

今回検出した 12 軒のうち 8 軒が加曽利 E I 式期のものであり、その中でも新段階が 4 軒と最も多い。集落の最盛期である加曽利 E II 式期の前段階に住居が増加する傾向は集落全体の流れと一致する。

住居構造としては、4 本主柱穴または 5 本主柱穴を持つものが多いが、第 194 号住居跡は 6 本、第 61 号住居跡は 6 本または 8 本の主柱穴を持つ住居跡と考えられる。それぞれの時期で傾向を見ると、勝坂Ⅲ式期の住居跡は 4 本または 5 本主柱穴の構造で、拡張や建替の痕跡は見られない。また、炉に土器を設置する埋甕炉を採用している点で共通している。加曽利 E I 式期の住居跡では、拡張または建替の痕跡を持つものが 3 軒確認された。特に第 196 号住居跡と第 203 号住居跡は確実に拡張を行っており、西ノ原集落の発展から最盛期へ向かう流れと呼応する。ほかに加曽利 E I 式期に入ると住居の入口付近に埋甕を設置する住居が出現するが、今回の調査では埋甕を持つ住居跡は確認されていない。

出土遺物の傾向としては、全体として浅鉢が多く出土していること、完形ではないが塗彩土器が比較的多いことが挙げられる。また異系統土器を含む住居跡は 7 軒あり、加曽利 E I 式以降という点で共通する。今回の地点で出土した異系統土器はそのほとんどが曾利系であるが、第 200 号住居跡からは僅かに大木式土器も出土している。

西ノ原遺跡は 1971 年の調査開始以来これまでに遺跡範囲の約 63% を調査しているが、今回の調査でこれまで明らかとなってきた縄文時代中期の集落形成過程を補強するような結果となった。住居の有り方といった点ではおおむね明らかになりつつあるが、広場や墓域といった集落全体としての土地利用方法については未だ不明な点が多く、今後の調査に期待したい。

〈参考文献〉

- ・埼玉県大井町遺跡調査会編 1996 『埼玉県大井町遺跡調査会報告第 6 集 西ノ原遺跡』
- ・今井堯、高崎直成、坪田幹男編 2008 『ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 4 集 市内遺跡群 3』

【松山遺跡の堀状遺構について】

わずかに6mの堀状遺構の調査をもってその用途を推定するのはきわめて困難を承知で、また土壌サンプリング分析の結果を待つ猶予がないため、現時点で99地点確認の堀状遺構の掘削目的と用途について考えてみる。堀の主体をなす覆土内に満遍なく褐鉄層（酸化鉄層）が認められた。堀底にはある程度早い流水ならば砂が、滞水するような流水ならばシルト質や粘土質の覆土が確認され、通水と止水が繰り返されるならば酸化鉄層が確認される（2005 梶原勝）。酸化鉄層は通水と止水が繰り返されたことを物語るものか。

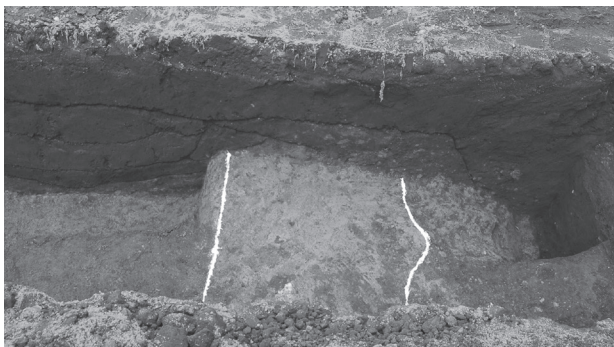
当該遺跡からは奈良平安期の住居確認数が52軒に達し、水稻栽培の用水確保で多くの溝を確認しているが、流滞水を確認できた溝（堀）について特記しておく。（第17図に発掘箇所を図示した）

1, 松山遺跡第10次調査（1991年度調査）

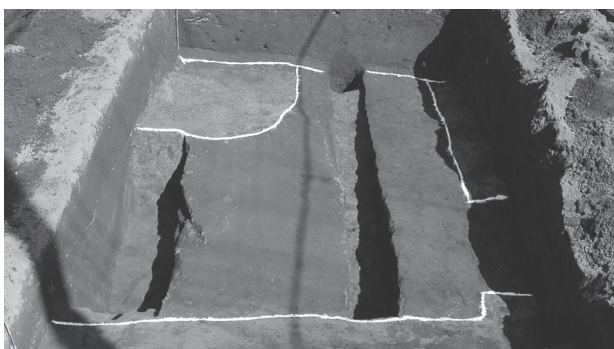
この調査の際に確認面の幅3m、深さ1.2mの溝1を確認している。報文によると壁面は底面よりほぼ垂直に30cmほど立ち上がり、やや開き気味にローム上面に至る。底面はおおむね水平で、全体の断面形は箱形である。底面直上には、粘性をもち灰色がかかった黒色土層があり、水が流れていたことが推察された。下の層より、鉄分を含んだローム粒子の層、U字状に鉄分を含み粘性をもった黒褐色土層、その内側に砂層があり、一時改修されたものと考えられる。その上は、ロームを含んだ黒褐色土層と表土である。『埋蔵文化財の調査（14）／1992年3月』

2. 第60地点（2012年3月調査）

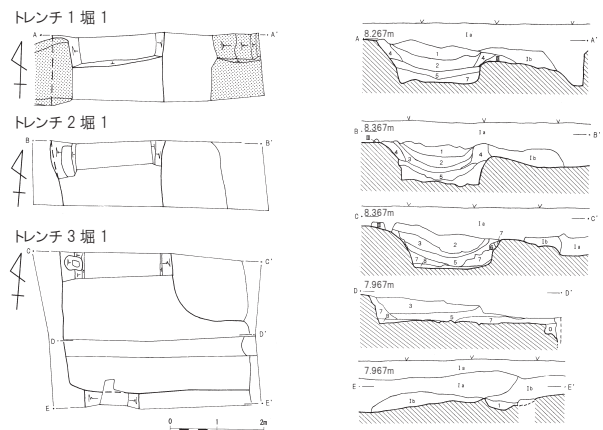
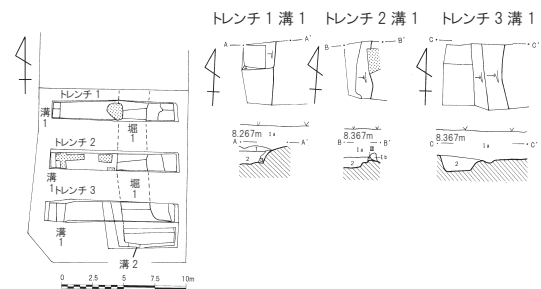
堀跡は南北に伸びほぼ直角に東に曲がる。断面は逆台形で、上幅232～240cm、下幅170cm、深さ98cmである。覆土層の観察では中世と見られる。遺物は覆土上層から近世の陶磁器が出土する。松山遺跡で確認された中世の堀跡と同類の遺構であろう。として、堀1の土層説明の中で5層に赤褐色酸化土やや多く含むとある。



松山遺跡第60地点堀跡



松山遺跡第60地点堀跡



溝1

I a. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ロームブロック・粒、5cm以下ソフトロームブロック 少し含む

I b. 黒褐色土 締り強、粘性有、5cm以下ロームブロック多く含む

Ⅲ. 地山

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒、5～15mm赤褐色の酸化土やや多く含む

3. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に2cm以下ロームブロック・粒を緻密に含む

堀1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く(3層より少ない)、間層状にローム土を下位に少し含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む(2層よりローム粒多めで茶褐色味が有る)

4. 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ソフトロームブロック少し含む

5. 黒色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒・赤褐色酸化土やや多く含む

6.5と7の中間的な色調、ローム粒シミ状にやや多い

7. 黒褐色土+黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に5cm以下ロームブロック、5mm以下ローム粒多く含む、

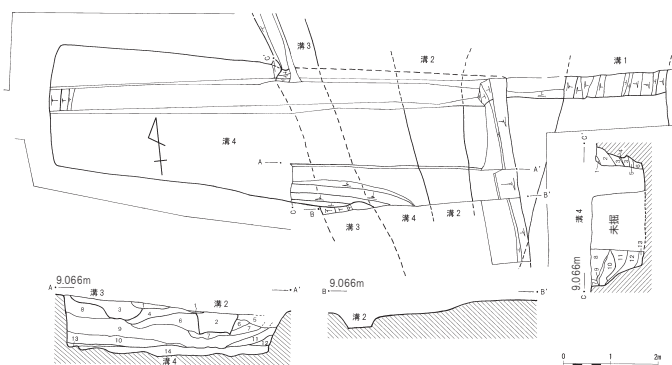
赤褐色・橙褐色の酸化土もやや多く含む

8. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベース、3cm以下ハードロームブロック主体

第93図 松山遺跡第60地点遺構配置図（1/600）、堀・溝（1/160）

3. 第64地点 (2012年6月調査)

溝



第51表 松山遺跡第64地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	V字 (葉研堀)	210 ~ 235	—	160	古代~中世
溝2	凵字	110 ~ 150	—	88	近世~
溝3	凵字	80 ~ 125	—	110	近世~
溝4	V字 (箱葉堀)	250 ~ 310	—	104	中世

報文中にはふれられていないが、溝2の第4層と溝4の第13層の土説に水成堆積の痕跡、硬化有りとなされている。

I. 表土、耕作土 暗褐色土 締り弱

II. 耕作土 暗褐色土 締り弱、1 ~ 10mm ローム粒やや多く含む

1. 溝2 暗褐色土 (茶) 締り有、1 ~ 10mm 極多く、3cm 大ロームブロック少し含む

2. 溝2 暗褐色土 (茶) 締り有、1 ~ 10mm 多く、1 ~ 3cm 大ロームブロックやや多く含む

3. 暗褐色土 (茶) 非常に硬く締る、1 ~ 5mm 極多く、表面はテラテラ光る、1層とよく似る

4. 溝3 暗褐色土 (茶) 締り有、1 ~ 3mm ローム粒多く、下層は水成堆積の痕跡有り

4'. 4層に1 ~ 10mm ローム粒多量に加わる

5. 地下室 黒褐色土 締り有、硬い、1mm ローム粒少し、5mm 炭極少し含む

6. 地下室 黒褐色土 (やや茶) 締り有、1 ~ 10mm 極多く含む

7. 地下室 褐色土 締り有、暗褐色土と1 ~ 10mm ローム粒の混合土

8. 地下室 黒褐色土 締り有、黒褐色土と1 ~ 10mm ローム粒の混合土、1 ~ 3cm 大ロームブロック多く含む

9. 地下室 褐色土 締り有、ローム主体、暗褐色土混入、壁の崩れたもの

10. 地下室 黒褐色土 締り有、黒褐色土と1 ~ 10mm ローム粒と1 ~ 5cm 大ロームブロックの混合土、10層より色が黒い

11. 地下室 黒褐色土 締り有、1 ~ 3mm ローム粒少し含む

12. 暗褐色土 締り有、硬い、1 ~ 3mm ローム粒やや多く含む

13. 黄褐色土 締り有、1mm ローム粒・塊主体、暗褐色土混入

14. 黒褐色土 締り有、1 ~ 10mm ローム粒極多く、~ 3cm 大ローム塊多く含む

15. 黄褐色土 締り弱、ローム粒・塊主体

16. 黒褐色土 締りやや有、~ 3cm 大ローム塊少し含む

17. 黄褐色土 締りやや有、ローム塊主体、ローム粒混入

18. 黒褐色土 締りやや有、1 ~ 5mm ローム粒極多く、1 ~ 3cm 大ローム塊少し含む

19. 黄褐色土 締りやや有、ローム塊主体

20. 暗褐色土 締り弱、1 ~ 5mm ローム粒多く含む

21. 暗褐色土 締り有、1 ~ 10mm ローム粒極多く含む

22. 暗褐色土 締り有、5mm 大ロームブロック極多く含む

23. 黒褐色土 締り有、1 ~ 3mm ローム粒少し含む

24. 暗褐色土 締り有、1 ~ 3mm ローム粒やや多く含む

25. 暗褐色土 (24層より暗) 締り有、1 ~ 3mm ローム粒多く含む

26. 褐色土 締り有、3cm 大ロームブロック少し、1 ~ 5mm ローム粒極多く含む

27. 黒褐色土 締り有、1 ~ 3mm ローム粒やや多く含む

28. 褐色土 締り有、1 ~ 5mm ローム粒極多く含む

29. 褐色土 締り有、1cm 大ロームブロック多く、1 ~ 5mm ローム粒極多く含む

30. 黄褐色土 締り有、ローム粒主体、1cm 大ロームブロック多く含む

31. 黄褐色土 締り弱、ロームブロック主体

32. 黒褐色土とロームブロックの混合土 締り弱

溝4

1. 暗褐色土 締り有、硬い、1 ~ 3mm ローム粒やや多く含む

2. 黄褐色土 締り有、1mm ローム粒・塊主体、暗褐色土混入、暗褐色土の割合が多い

3. 黄褐色土 締り有、1mm ローム粒・塊主体、暗褐色土混入、ロームの割合が多い

4. 黄褐色土 締り有、1mm ローム粒・塊主体、暗褐色土混入、黒色土主体

5. 黒褐色土 締り有、1 ~ 10mm ローム粒極多く、~ 3cm 大ローム塊多く含む

6. 黄褐色土 締りやや有、ローム塊主体、ローム粒混入

7. 褐色土 締り有、ソフトロームブロック多量に混入

8. 黒褐色土 (やや茶) 締り有、3 ~ 10mm ローム粒極多く含む

9. 黄褐色ロームと黒褐色土の混合

10. 黒褐色土 締り有、3 ~ 10mm ローム粒多く含む

11. 黒褐色土 締り有、3 ~ 10mm ローム粒と~ 5cm 大ロームブロックの混合土

12. 黄褐色土 締り有、~ 3cm 大ロームブロック・粒主体

13. 暗褐色土 締り有、1 ~ 2cm 大ロームブロックとの混合土、ロームブロックは水成のため硬化している

第94図 松山遺跡第64地点溝 (1/160)、土層 (1/300)



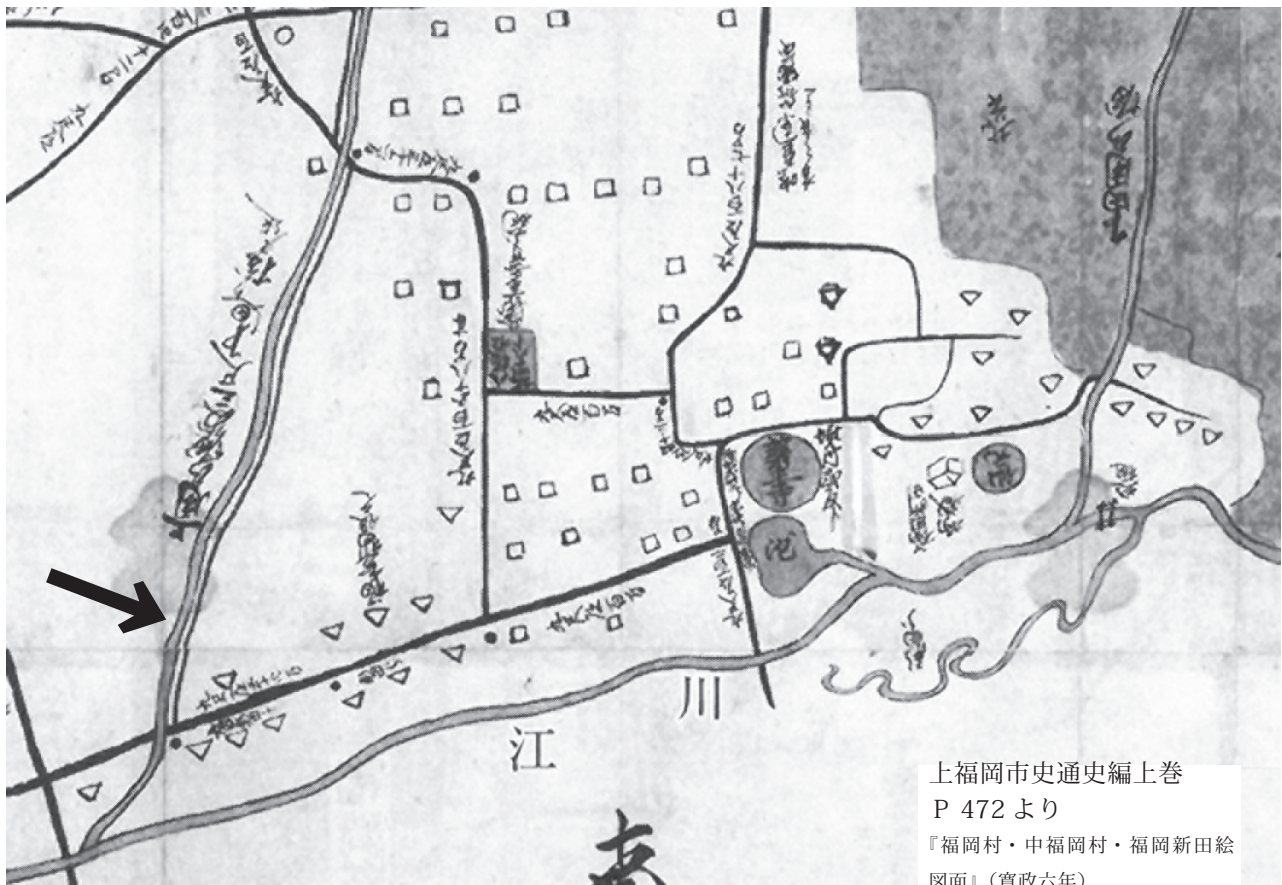
松山遺跡第64地点溝2



松山遺跡第64地点溝4

これらの溝が流滞水したとして、水を求めていたのは何処からか？用水に係る記録をここで引用する。地理的に江川および水天宮池からの引水は容易に想像つく。江川の水量については先述した。赤沼と呼ばれる水天宮池も古く江戸時代からの重要な水源地であった。

- ・『福岡村史』によると江戸期に池の水が枯れることがあったが、地下水が他へ逃げていることが判明したので厚い板を地下水路に並べて打ち込みこれを断ち切って池の方へ湧くように工事を行われたことが今に伝えられている。また、「江川を新田と駒林境でセキ止め畑の間を水路を北に通して中福岡をぬけて耕地に引き相当の用水を作っていた。用水は用が済めば江川のセキをはずすので逆流して濁水するがその逆流がもどってくるのでセキのあったところが落合と言う地名になって残っている」としている。
- ・『新編武蔵風土記稿』の福岡新田には「水田ハ少ク陸田ハ多シ本村薬王寺前ナル沼ヨリ出ル清水ヲモテ用水トナセトモヤヤモスレハ水損ノ患アリ此地元ハ芝野ナリシヲ（後略）」とある。
- ・『福岡村・中福岡村・福岡新田絵図面』（寛政六年）には江川から引いた用水堀が画かれ、「上用水堀三尺下通り拾戸迄」の文字が読める。
- ・松山遺跡は旧中福岡村に位置するが、「用水は、赤沼（薬師手洗いの池）からひいていた。」（上福岡市史通史編）





昭和 35 年頃の赤沼

右端の池のほとりに巖島神社。この池は昭和 43 年頃埋め立てられ、現在は児童公園になっている。

以上の文献からも、松山遺跡内で確認される溝状遺構は用水に供されたものが存在すると推察がつく。99 地点で確認された堀状遺構が用水堀とする決定的な根拠を有さないが、堀の底面ではないが酸化鉄層が認められ、直線的に延びると江川に合流することから、江川から引いた用水堀とみることが妥当であろう。底面標高は東で 9.20 m、西で 9.24 m と江川寄りの方が若干高い。ローム層の底面は掘り方のように凸凹が目立つ。用水堀として使用されていた段階では酸化鉄層が確認される底面上 10 ～ 15 cm まで滞水し、堀の掘削時は掘り方にみられるような荒掘りで用水を通した可能性が考えられよう。今後も、引き続きいねいな調査と使用時期の検討を重ねていくより解明の途はない。

【引用・参考文献】

『上福岡市史通史編上巻』 P 472

梶原 勝 江川南遺跡及び亀久保堀跡遺跡の「堀」について『江川南遺跡Ⅱ 神明後遺跡Ⅰ』（2005 年大井町遺跡調査会報告第 16 集）

『市史調査報告書第 19 集「20 世紀を語る古写真」』2001 年
『福岡村史』

附 編

駒林遺跡第 37 地点のテフラ分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

ふじみ野市に所在する駒林遺跡は、荒川中流域右岸に広がる武蔵野台地北部の台地平坦面上に位置する。この付近の武蔵野台地は、広く M2 面 (約 8 万年前に形成) に区分されているが、荒川低地に臨む台地縁辺部にはそれよりも一段低い立川面に相当する台地も分布している (久保, 1988 など)。駒林遺跡は、こうした立川面相当の台地上に位置していると考えられる。

これまでの発掘調査によって、中世の遺物包含層をその埋積層中部に有する溝跡が検出されている。本報告では、溝跡埋積層を対象として指標テフラの検出を行うことにより、溝跡の年代に関わる資料を作成する。

1. 試料

試料は、中世の遺物包含層の検出された溝跡の埋積層より採取された。試料の採取された溝跡には 35 地点および 37 地点がされている。図 1 に試料採取層位を示す。

35 地点では A-A' と C-C' の 2 断面が作成されている。A-A' 断面では、埋積層の中部から試料番号 1 と 2 が採取され、溝底部の埋積層から試料番号 3 と 4 が採取されている。試料番号 1 の採取された埋積層は中世の包含層とされている。また、C-C' 断面では、埋積層中部から試料番号 5、埋積層下部から試料番号 6、溝底部から試料番号 7 がそれぞれ採取されている。試料番号 5 の採取された埋積層が中世の包含層とされている。

37 地点では B-B' と C-C' の 2 断面が作成されている。B-B' 断面では、埋積層の中部から試料番号 1 と 2 が採取され、埋積層の下部から試料番号 3 が、溝底部の埋積層から試料番号 4 が採取されている。C-C' 断面では、埋積層中部から試料番号 5、埋積層下部から試料番号 6、溝底部から試料番号 7 がそれぞれ採取されている。

2. 分析方法

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

3. 結果

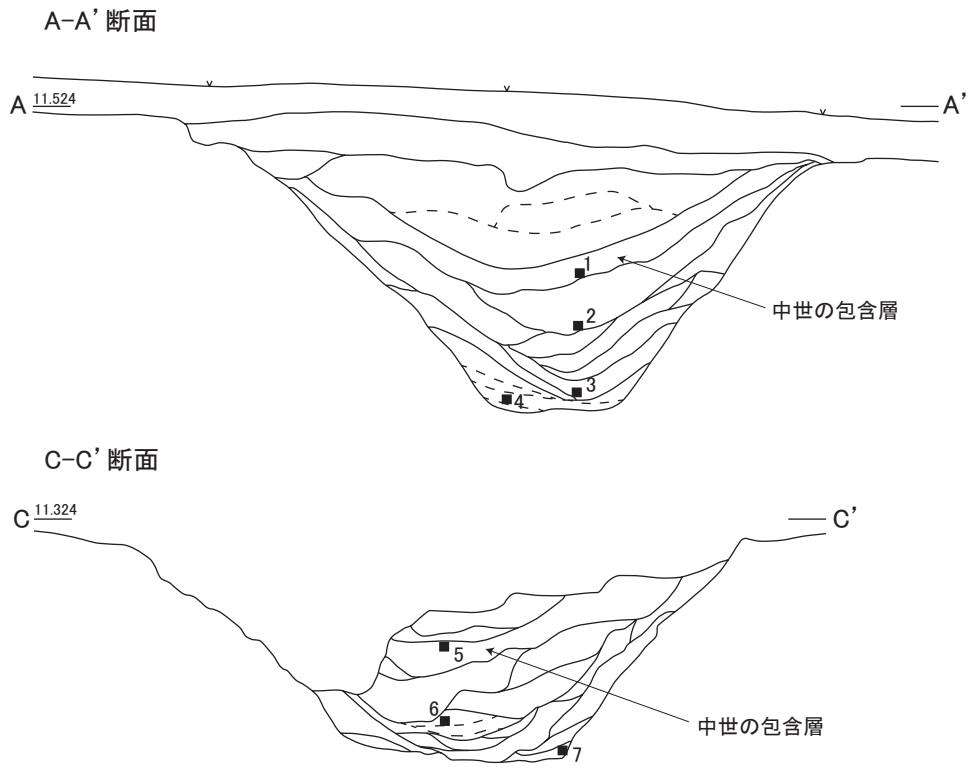
結果を表 1 に示す。以下に断面ごとに述べる。

(1) 35 地点

< A-A' 断面 >

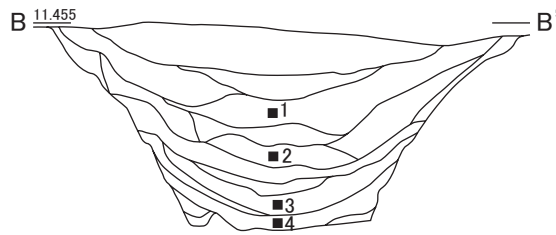
スコリアは、試料番号 1 と 2 に微量、試料番号 3 と 4 に極めて微量含まれる。特徴は、いずれの試料もほぼ同様であり、最大径は 1mm 前後、黒色で発泡不良、黒色で発泡やや不良、褐色で発泡やや不良のスコリアが混在する。火山ガラスは、試料番号 1 と 2 に極めて微量、試料番号 3 と 4 に微量含まれる。いずれの試料も、無色透明のバブル型と無色透明の軽石型が混在する。

35地点

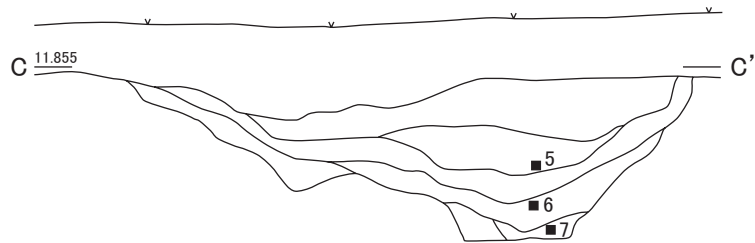


37地点

B-B' 断面



C-C' 断面



0 2m

図1. 各地点における試料採取位置

軽石は、試料番号 1 と 2 に微量、試料番号 3 と 4 に極めて微量含まれる。特徴は、いずれの試料もほぼ同様であり、最大径は 0.5mm 前後、灰褐色を呈し、発泡はやや不良、斜方輝石の斑晶を包有するものが認められる。

< C-C' 断面 >

スコリアは、試料番号 5 に微量、試料番号 6 と 7 に極めて微量含まれる。火山ガラスは、3 点の試料ともに極めて微量含まれる。軽石は、試料番号 5 に微量、試料番号 6 と 7 に極めて微量含まれる。なお、スコリア、火山ガラスおよび軽石ともに、それらの特徴は、35 地点 A-A' 断面の試料とそれぞれほぼ同様である。

(2)37 地点

< B-B' 断面 >

スコリアは、試料番号 1 と 2 に微量含まれ、試料番号 3 と 4 には含まれない。火山ガラスは、試料番号 1 と 2 に極めて微量含まれ、試料番号 3 と 4 に微量含まれる。軽石は、試料番号 1 と 2 に微量含まれ、試料番号 3 と 4 には含まれない。スコリア、火山ガラスおよび軽石ともに、それらの特徴は、35 地点 A-A' 断面の試料とそれぞれほぼ同様である。

< C-C' 断面 >

スコリアは、3 点の試料ともに微量含まれる。火山ガラスは、3 点の試料ともに極めて微量含まれる。軽石は、3 点の試料ともに微量含まれる。スコリア、火山ガラスおよび軽石ともに、それらの特徴は、35 地点 A-A' 断面の試料とそれぞれほぼ同様である。

表1. テフラ分析結果

地点	断面	試料番号	スコリア		火山ガラス		軽石		
			量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調・形態	量	色調・発泡度
35	A-A'	11	+	B・b,B・sb,Br・sb	1.2 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I+	GBr・sb(opx)	0.8
		12	+	B・b,B・sb,Br・sb	1.2 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I+	GBr・sb(opx)	0.8
		13	I(+)	B・b,B・sb,Br・sb	0.6 I+	Icl・bw,cl・pm	I(+)	GBr・sb(opx)	0.4
		14	I(+)	B・b,B・sb,Br・sb	1.0 I+	Icl・bw,cl・pm	I(+)	GBr・sb(opx)	0.6
	C-C'	15	+	B・b,B・sb,Br・sb	1.5 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I+	GBr・sb(opx)	0.8
		16	I(+)	B・b,B・sb,Br・sb	1.8 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I(+)	GBr・sb(opx)	0.5
		17	I(+)	B・b,B・sb,Br・sb	1.2 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I(+)	GBr・sb(opx)	0.6
37	B-B'	11	+	B・b,B・sb,Br・sb	1.8 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I+	GBr・sb(opx)	0.7
		12	+	B・b,B・sb,Br・sb	1.6 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I+	GBr・sb(opx)	0.8
		13	-		I+	Icl・bw,cl・pm	-		
	C-C'	14	-		I+	Icl・bw,cl・pm	-		
		15	+	B・b,B・sb,Br・sb	1.7 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I+	GBr・sb(opx)	0.8
		16	+	B・b,B・sb,Br・sb	1.8 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I+	GBr・sb(opx)	0.8
		17	+	B・b,B・sb,Br・sb	2.0 I(+)	Icl・bw,cl・pm	I+	GBr・sb(opx)	0.8

凡例 -:含まれない。(+):きわめて微量。+:微量。++:少量。+++:中量。++++:多量。

B:黒色。Br:褐色。GBr:灰褐色。

g:良好。sg:やや良好。sb:やや不良。b:不良。最大粒径はmm。

cl:無色透明。bw:バブル型。pm:軽石型。

(opx):斜方輝石斑晶包有。

4. 考察

各断面で検出された火山碎屑物のうち、軽石は、前述した特徴とこれまでの周辺地域におけるテフラの確認事例等から、平安時代の天仁元年(AD1108年)に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B:新井,1979)に由来すると判断される。

一方、軽石とほぼ同様の試料において混在するスコリアは、完新世の富士火山の活動により噴出した新期富士テフラに由来すると考えられる。新期富士テフラは、上杉(1990)により富士黒土層中のS-0から宝永スコリアのS-25まで記載されており、さらにこの中のテフラによっては細分されているものもあることから50枚近くのテフラにより構成されている。ただし、給源から離れた神奈川県東部や東京都の低地の調査例では、検出される新期富士テフラの枚数は各段に少なくなり、縄文時代後期から晩期のテフラであるS-10・11(湯船第一スコリア(Yu-1))、S-13(砂沢スコリア(Zu))、弥生時代中期頃のS-22(湯船第二スコリア(Yu-2))、古墳時代のテフラとされるS-24-1~5、平安時代延暦年間の西暦800~802年の噴火で多量のスコリアを噴出したとされているS-24-7、さらには江戸時代の宝永4年(1707年)に噴出した宝永スコリア(F-Ho)などにほぼ限定される。当社では、これまでも神奈川県

県東部や東京都の低地の調査例により、上述した各テフラの試料を得ており、それらの観察から各テフラにはスコリアの粒径や色調および発泡度や斑晶の包有状況などの異なるスコリアが複数種混在しており、その混在の度合いが異なることで各テフラの特徴を把握している。今回検出されたスコリアは、その特徴と As-B と混在することから、平安時代に噴出した S-24-7 に由来する可能性が高い。

火山ガラスについては、その産状と形態的特徴から、立川ローム層中に拡散して含まれている始良 Tn テフラ (AT: 町田・新井, 1976) および立川ローム層上部ガラス質テフラ (UG: 山崎, 1978) に由来すると考えられる。

ここで溝埋積層中の各テフラ碎屑物の産状をみると、いずれの地点においても溝埋積層の中で濃集するという状況は認められない。このことから溝埋積層中から検出された各テフラの碎屑物は、溝の埋積時に噴火があって降下堆積したのではなく、溝の埋積以前に溝の周囲にあった土層中にもともと含まれていた可能性がある。すなわち、溝周囲の土層が溝内に流れ込むことによって溝埋積層中にもテフラに由来する碎屑物が含まれていると考えることができる。その場合、溝の構築はテフラの降下後であることから、溝の構築は古くとも検出されたテフラの中で最も新しいテフラである As-B の降灰より以降すなわち 12 世紀初頭以降であると考えることができる。このことは中世の遺物包含層が溝内に形成されていることと矛盾しない。

引用文献

新井房夫, 1979, 関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層. 考古学ジャーナル, 157, 41-52.

久保純子, 1988, 相模野台地・武蔵野台地を刻む谷の地形—風成テフラを供給された名残川の谷地形—. 地理学評論, 61, 25-48.

町田 洋・新井房夫, 1976, 広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—. 科学, 46, 339-347.

上杉 陽, 1990, 富士火山東方地域のテフラ標準柱状図—その 1:S-25 ~ Y-114—. 関東の四紀, 16, 3-28.

山崎晴雄, 1978, 立川断層とその第四紀後期の運動. 第四紀研究, 16, 231-246.



ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡完掘



ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡集石土坑検出



ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡炉・集石土坑完掘



ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡埋甕



ハケ遺跡第 24 地点本調査風景



ハケ遺跡第 24 地点竪穴遺構



ハケ遺跡第 24 地点土坑 1



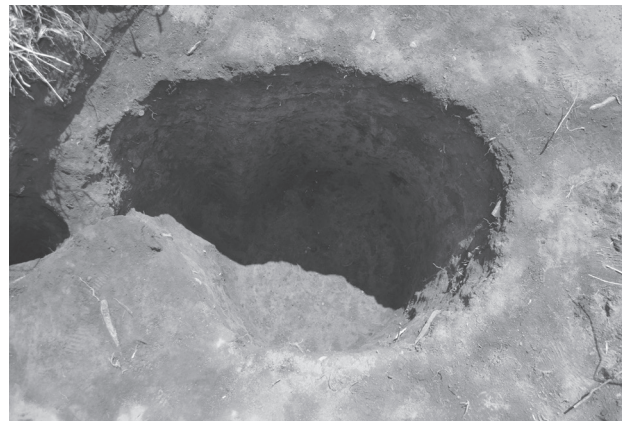
ハケ遺跡第 24 地点土坑 2



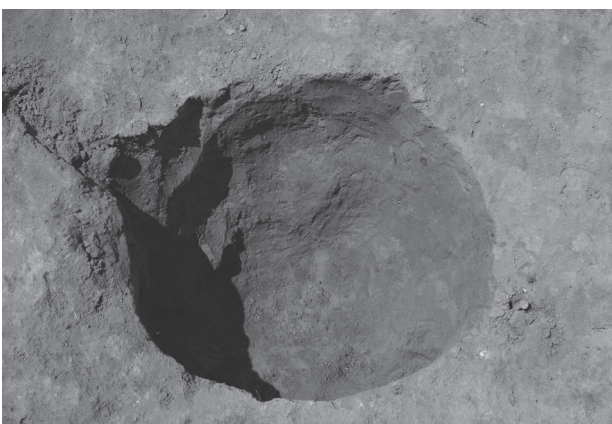
ハケ遺跡第 24 地点ピット 1



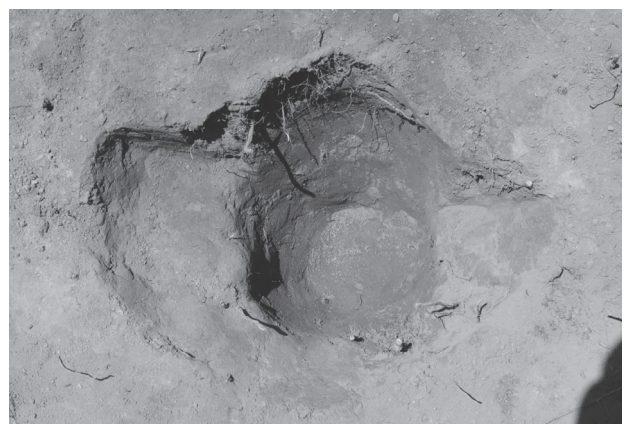
ハケ遺跡第 24 地点ピット 2



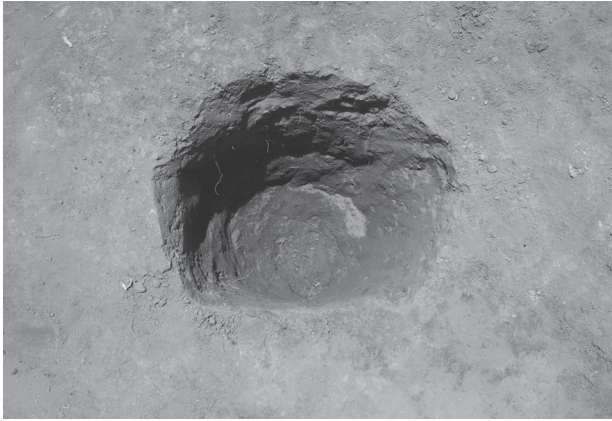
ハケ遺跡第 24 地点ピット 3



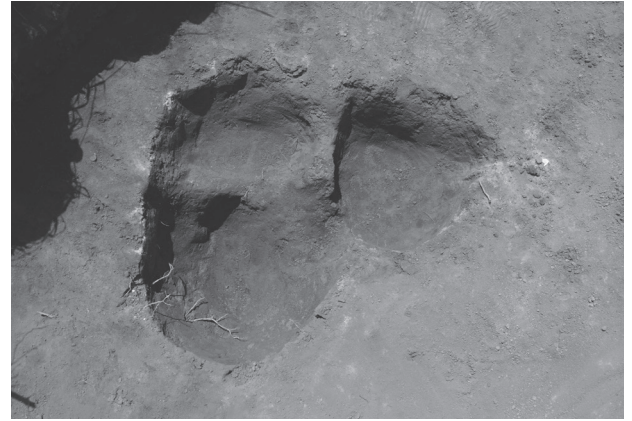
ハケ遺跡第 24 地点ピット 4



ハケ遺跡第 24 地点ピット 5



ハケ遺跡第 24 地点ピット 6



ハケ遺跡第 24 地点ピット 7・8



ハケ遺跡第 24 地点ピット 9



ハケ遺跡第 24 地点ピット 10



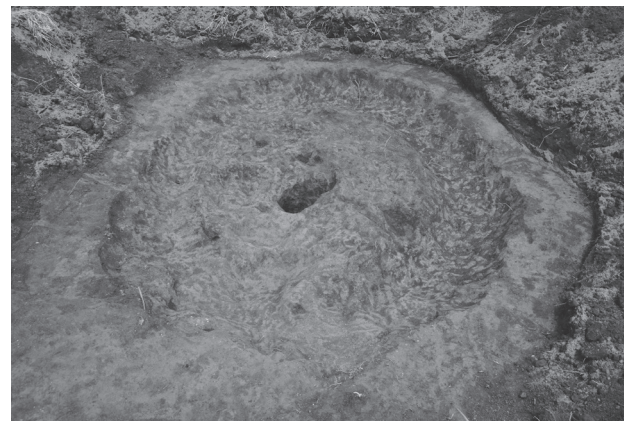
ハケ遺跡第 24 地点ピット 12



ハケ遺跡第 24 地点ピット 13・14



ハケ遺跡第 24 地点集石土坑検出状況



ハケ遺跡第 24 地点集石土坑完掘



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 1



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 2



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 2



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 3



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 5



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 6



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 7



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 8



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 9



ハケ遺跡第 24 地点試掘調査風景

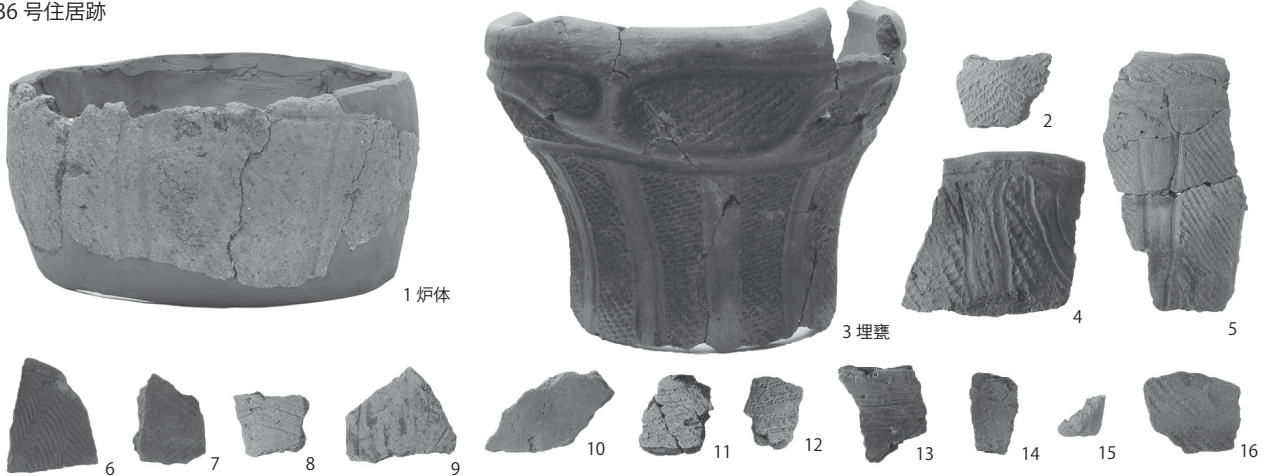


ハケ遺跡第 24 地点本調査風景

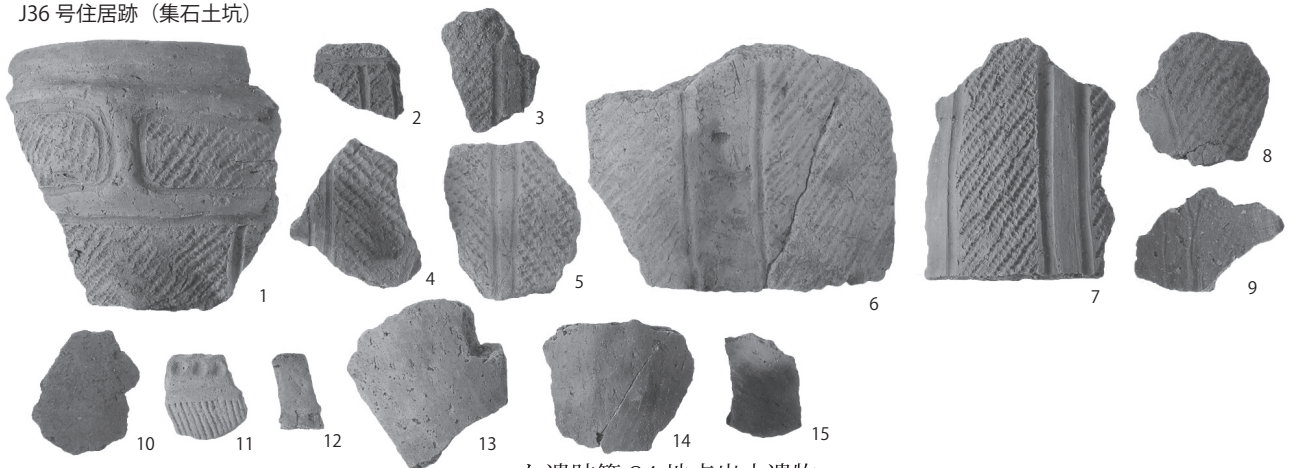


ハケ遺跡第 24 地点博物館実習

J36 号住居跡



J36 号住居跡 (集石土坑)

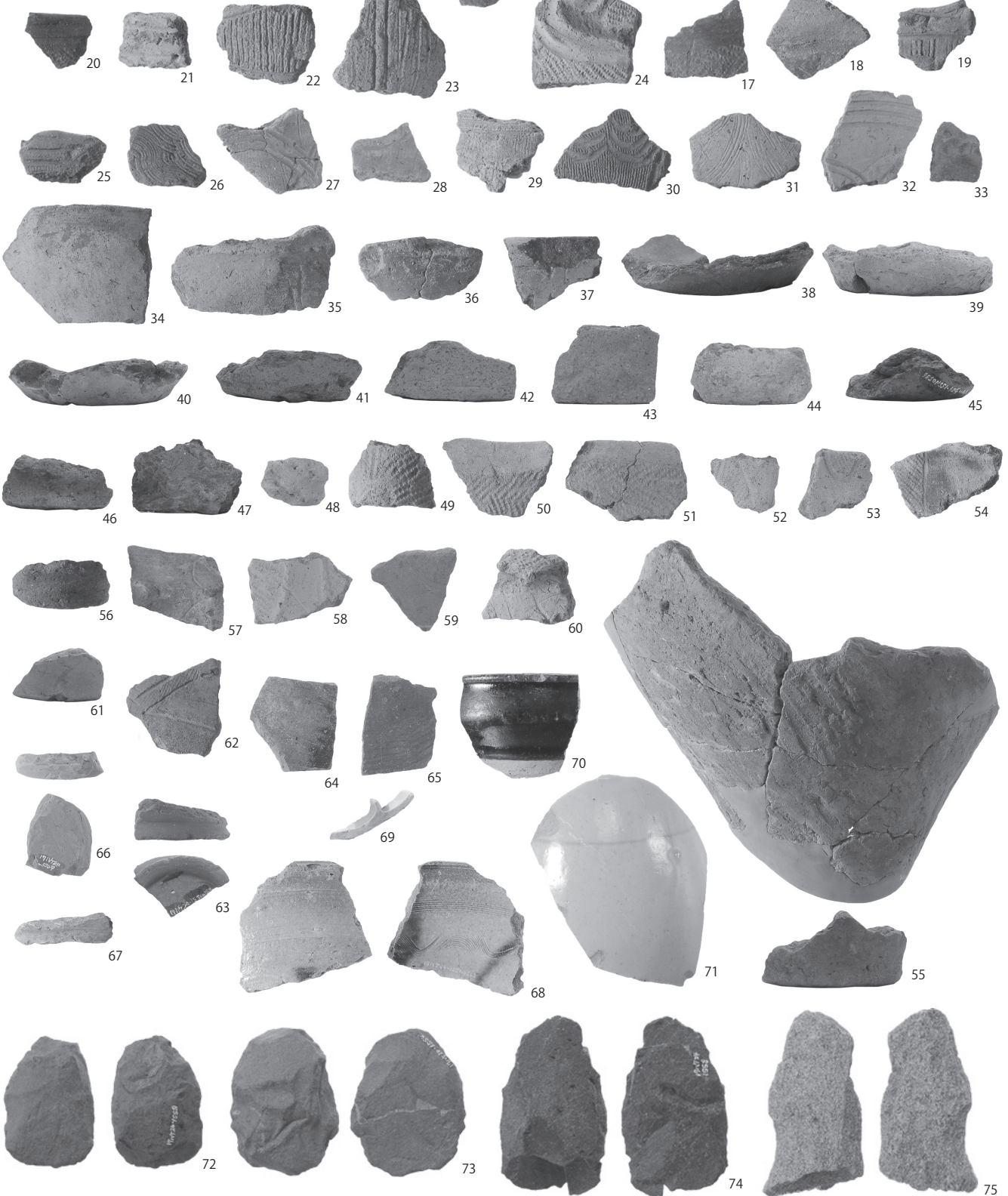
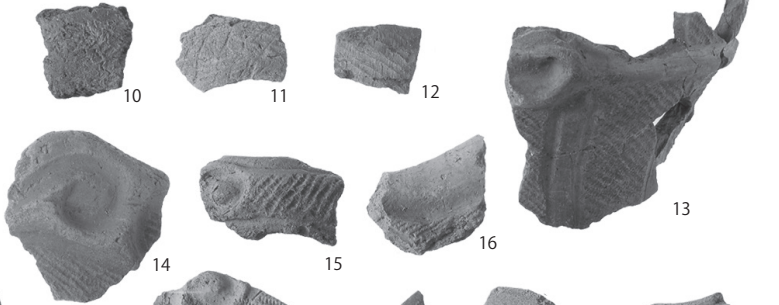


ハケ遺跡第 24 地点出土遺物

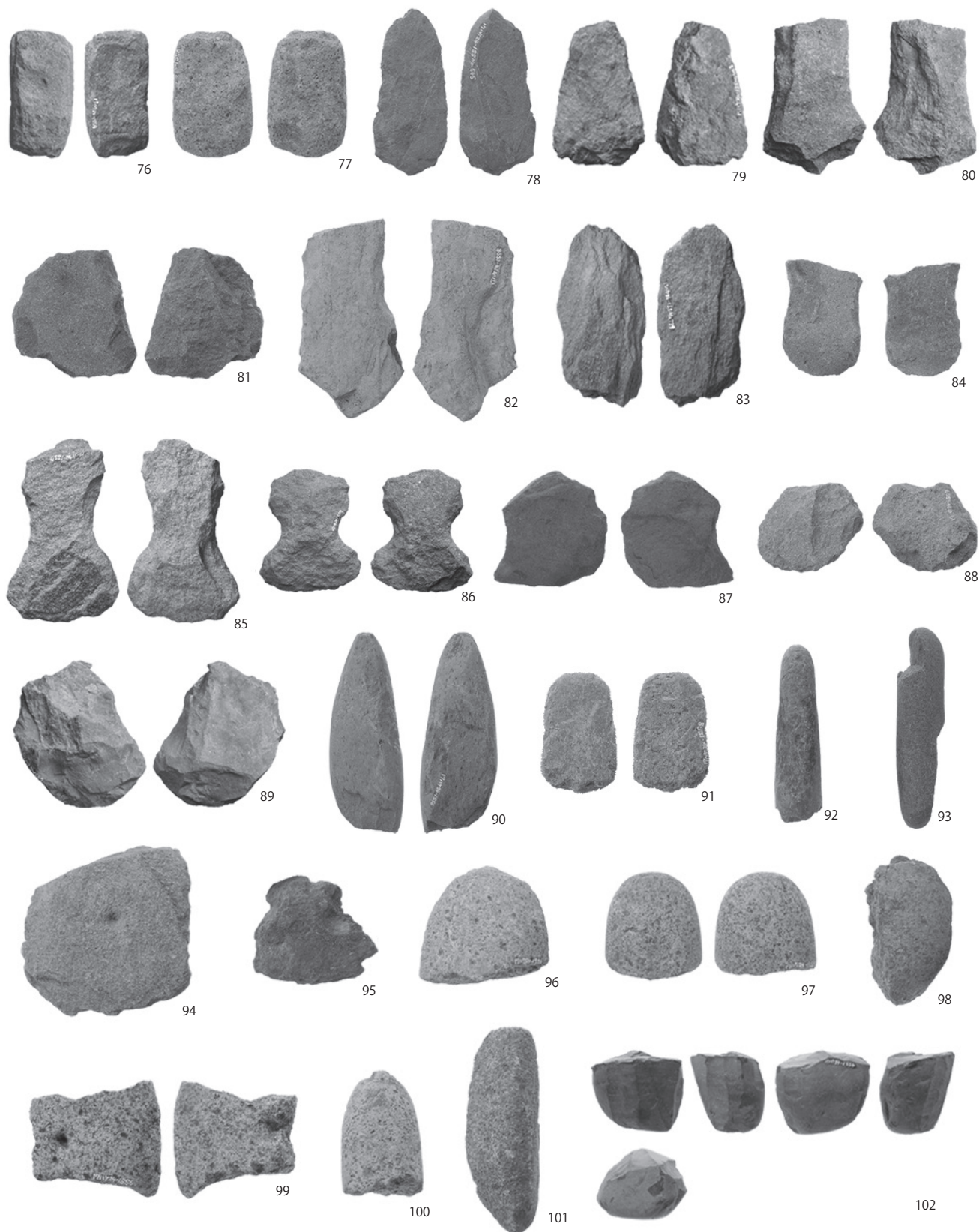
竪穴遺構



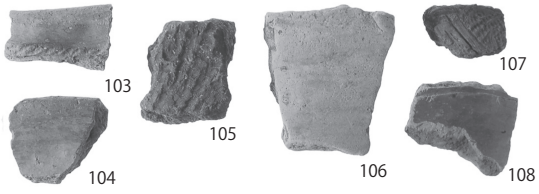
集石土坑



ハケ遺跡第 24 地点出土遺物



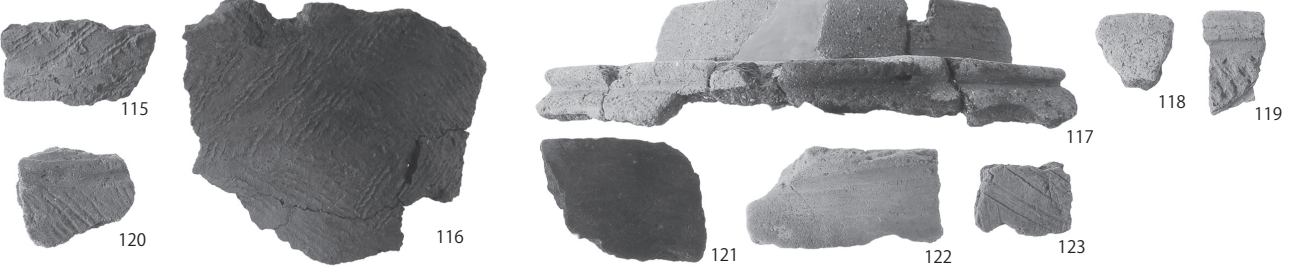
土坑 1



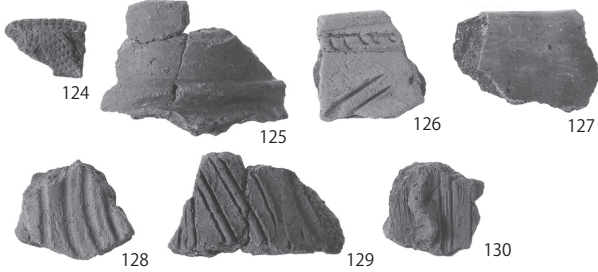
土坑 2



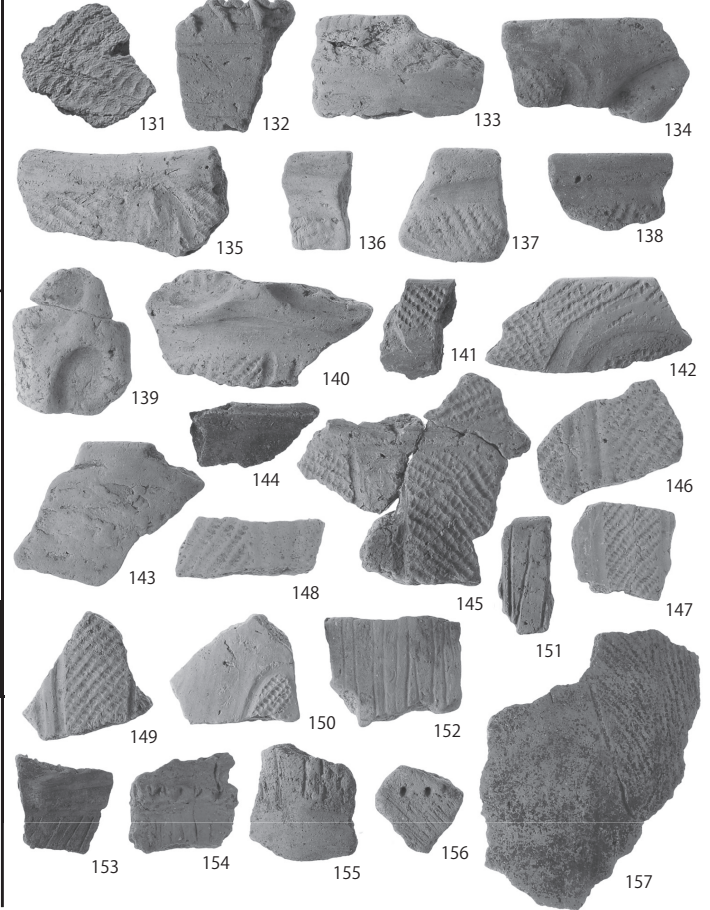
ピット 1



ピット 2



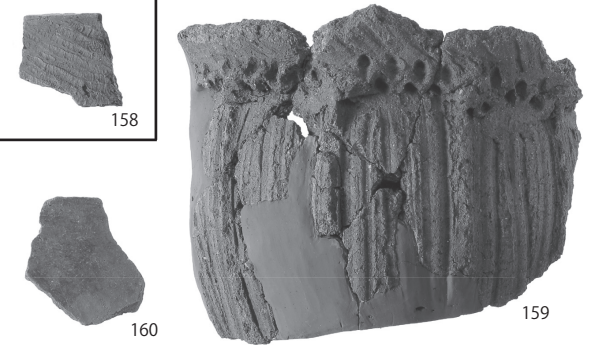
ピット 3



ピット 11



ピット 12



遺構外



ハケ遺跡第 24 地点出土遺物



松山遺跡第 99 地点試掘調査風景



松山遺跡第 99 地点試掘調査風景



松山遺跡第 99 地点試掘調査風景



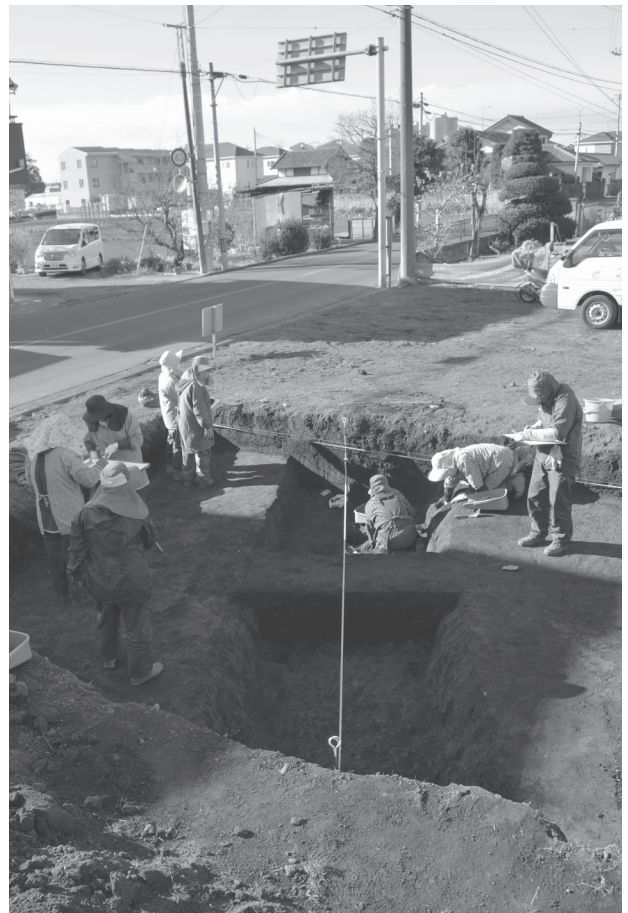
松山遺跡第 99 地点本調査風景



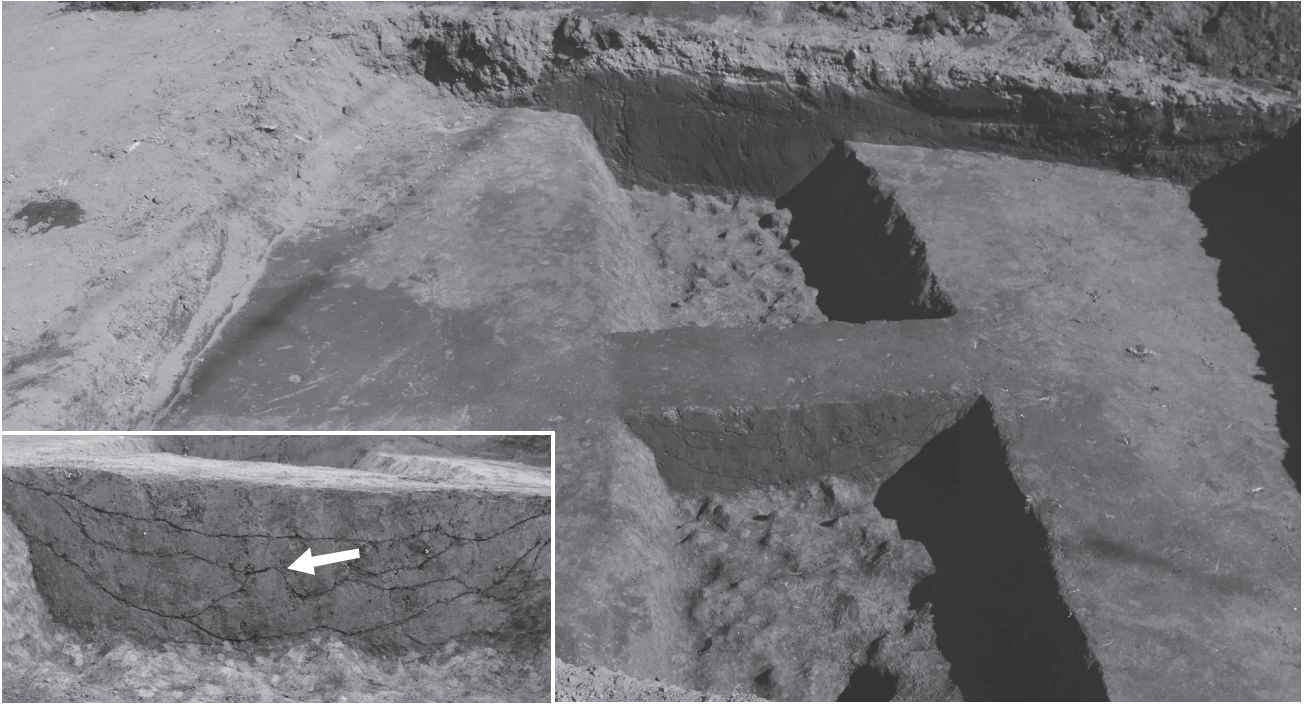
松山遺跡第 99 地点堀状遺構プラン確認



松山遺跡第 99 地点堀状遺構調査風景



松山遺跡第 99 地点堀状遺構調査風景

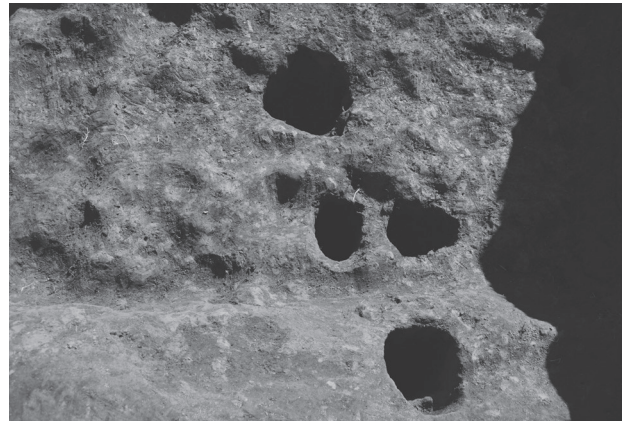


堀状遺構土層 (矢印が酸化鉄)

松山遺跡第 99 地点堀状遺構全景 (西より)



松山遺跡第 99 地点堀状遺構作業風景と底面掘方



松山遺跡第 99 地点堀状遺構底面ピット



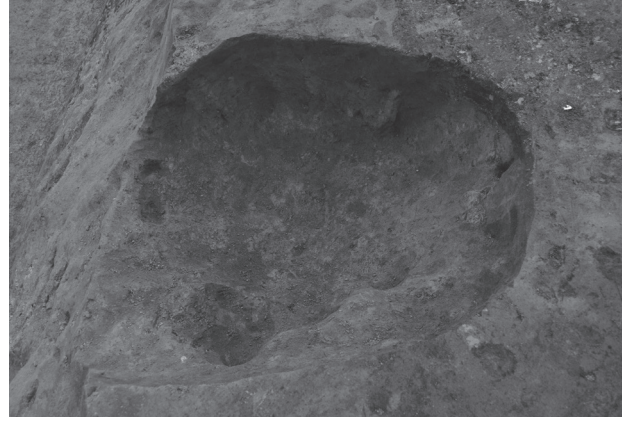
松山遺跡第 99 地点堀状遺構ベルト土層サンプリング風景



松山遺跡第 99 地点出土遺物



駒林遺跡第 35 地点土坑 1



駒林遺跡第 35 地点土坑 2



駒林遺跡第 35 地点掘跡土層



駒林遺跡第 35 地点掘跡完掘



駒林遺跡第 35 地点掘跡完掘 2



駒林遺跡第 35 地点溝 1・4



駒林遺跡第 35 地点溝 2



駒林遺跡第 35 地点溝 3



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 1



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 2



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 3



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 4



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 5



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 6



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 7



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 8



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 9



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 10・11



駒林遺跡第 35 地点試掘調査風景



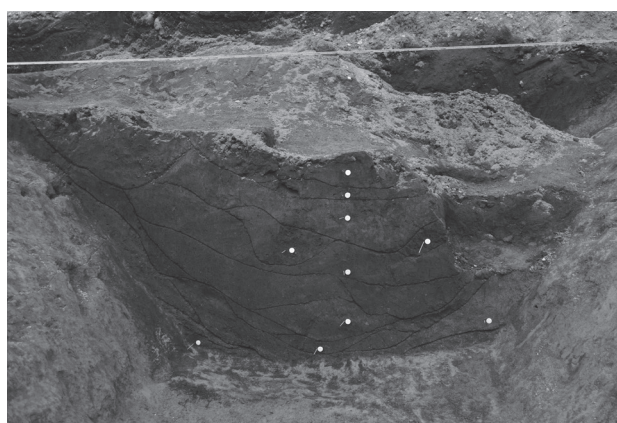
駒林遺跡第 35 地点本調査風景 1



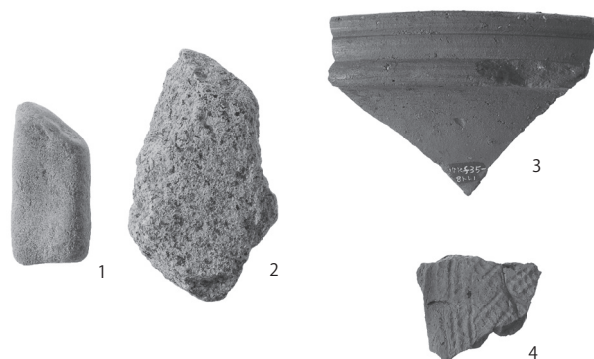
駒林遺跡第 35 地点本調査風景 2



駒林遺跡第 35 地点土壌サンプル採取位置 1



駒林遺跡第 35 地点土壌サンプル採取位置 2



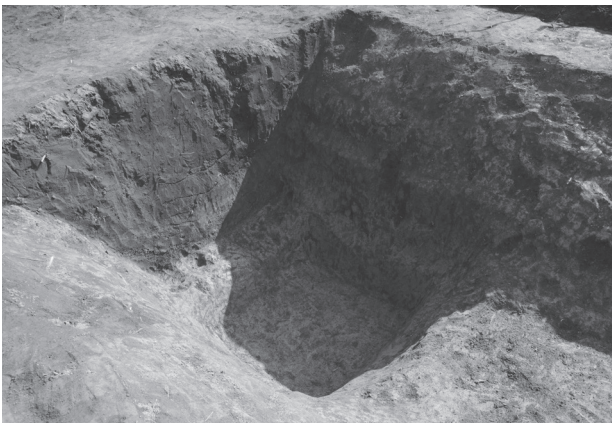
駒林遺跡第 35 地点出土遺物



駒林遺跡第 37 地点堀跡完掘



駒林遺跡第 37 地点試掘調査風景



駒林遺跡第 37 地点堀跡北側



駒林遺跡第 37 地点堀跡内ピット群



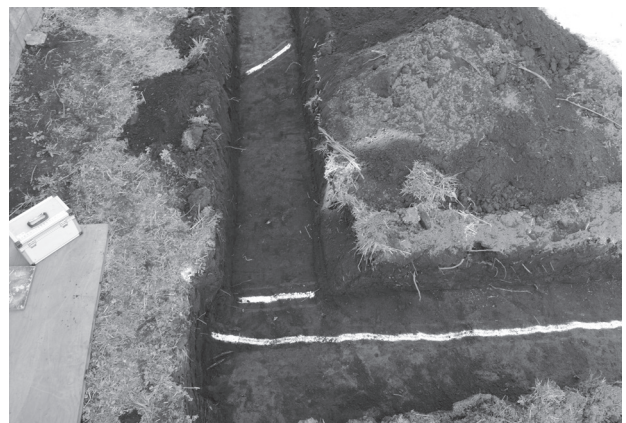
駒林遺跡第 37 地点堀跡土層



駒林遺跡第 37 地点溝

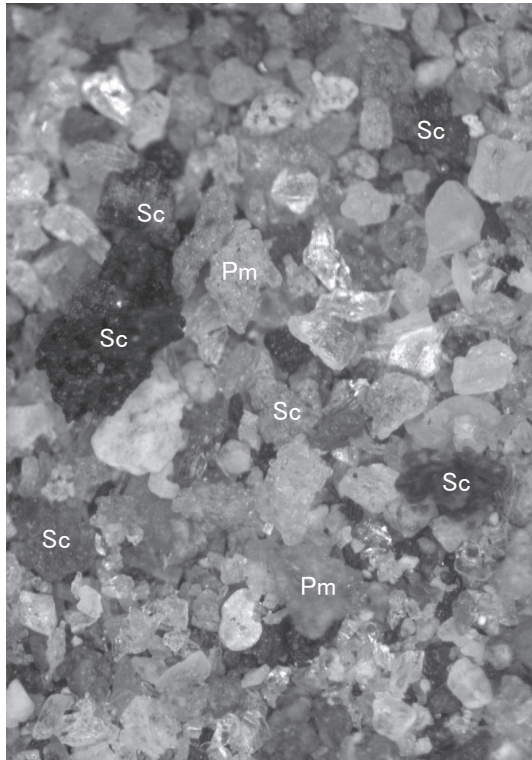


駒林遺跡第 37 地点トレンチ 2

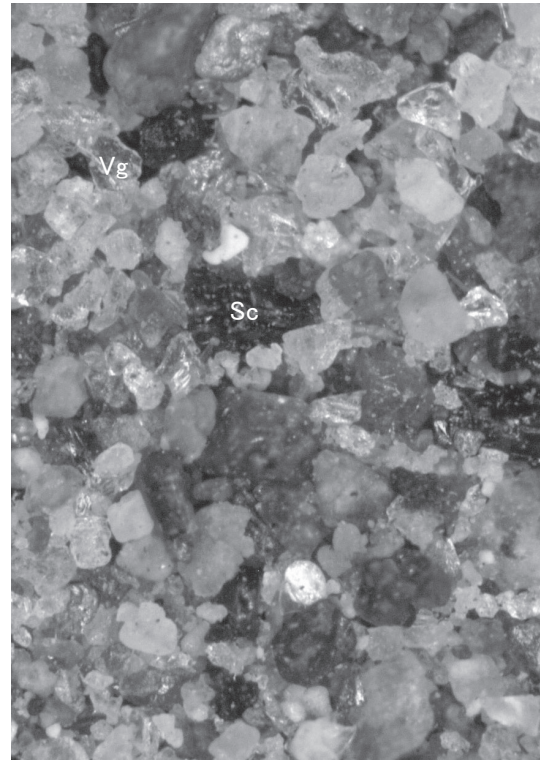


駒林遺跡第 37 地点トレンチ 9

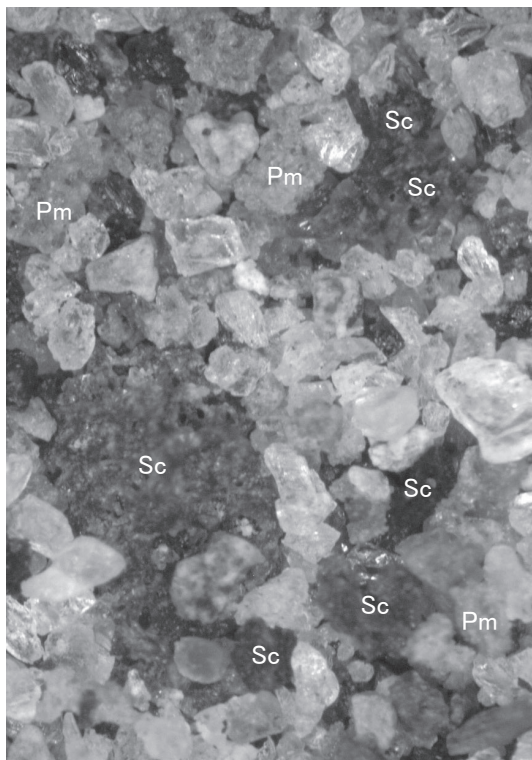
図版1 テフラ・砂分の状況



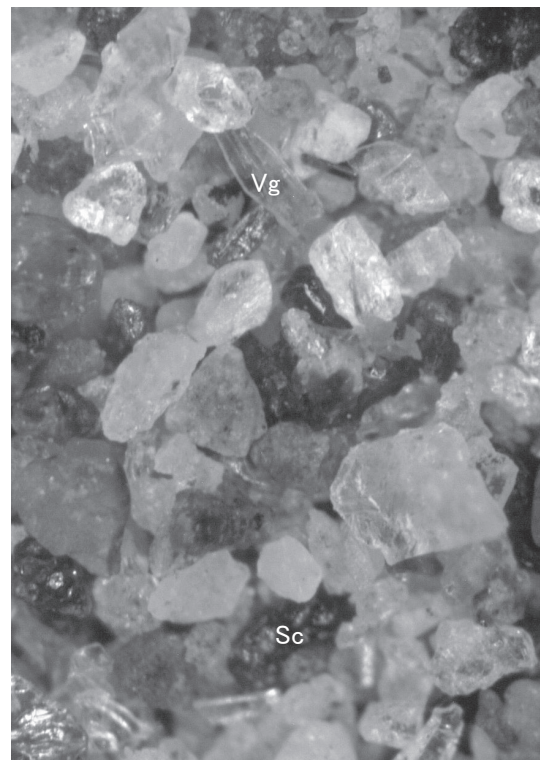
1. スコリアと軽石 (35地点;1)



2. 砂分の状況 (35地点;4)



3. スコリアと軽石 (37地点;1)



4. 砂分の状況 (37地点;4)

Pm: 軽石. Vg: 火山ガラス. Sc: スコリア.

1. 0mm	0. 5mm
1, 3	2, 4



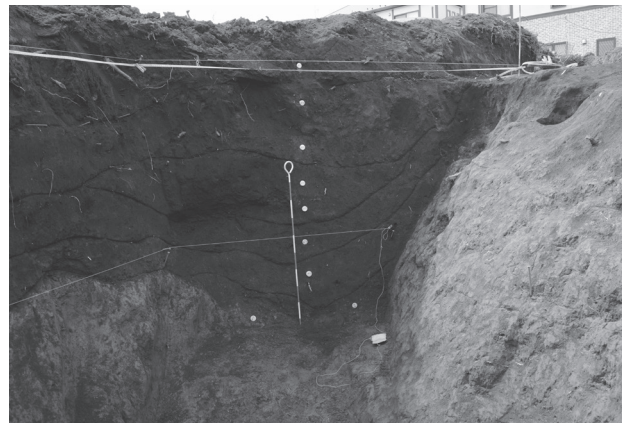
駒林遺跡第 37 地点試掘調査風景



駒林遺跡第 37 地点本調査風景 1



駒林遺跡第 37 地点本調査風景 2

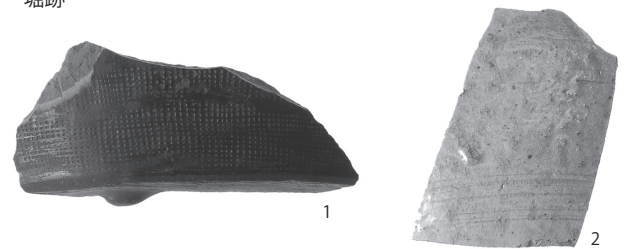


駒林遺跡第 37 地点土壌サンプル採取位置



駒林遺跡第 37 地点調査風景 3

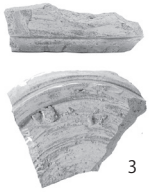
堀跡



1

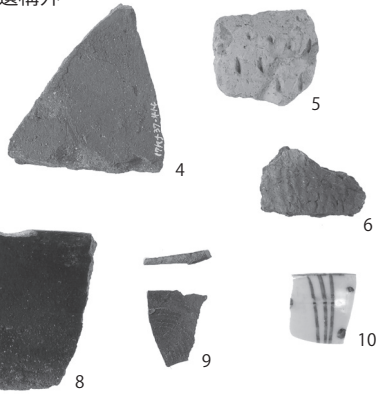
2

溝



3

遺構外



4

5

6

7

8

9

10



11

12

駒林遺跡第 37 地点出土遺物



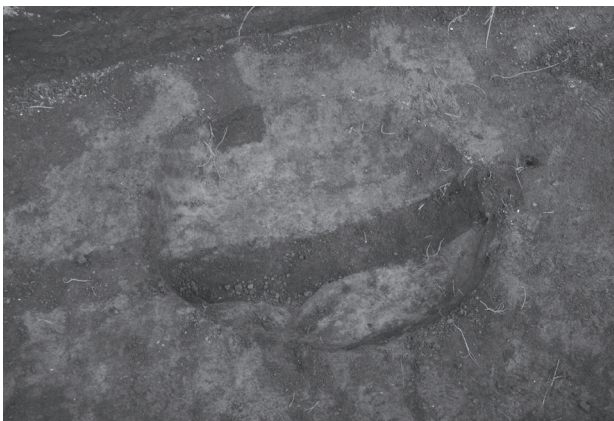
東久保南遺跡第 43 地点 J3 号住居跡



東久保南遺跡第 43 地点 J3 号住居跡炉



東久保南遺跡第 43 地点 J3 号住居跡遺物出土状況



東久保南遺跡第 43 地点ピット 8



東久保南遺跡第 43 地点トレンチ 1



東久保南遺跡第 43 地点トレンチ 2



東久保南遺跡第 43 地点トレンチ 3



東久保南遺跡第 43 地点試掘調査炉検出状況



東久保南遺跡第 43 地点試掘調査風景

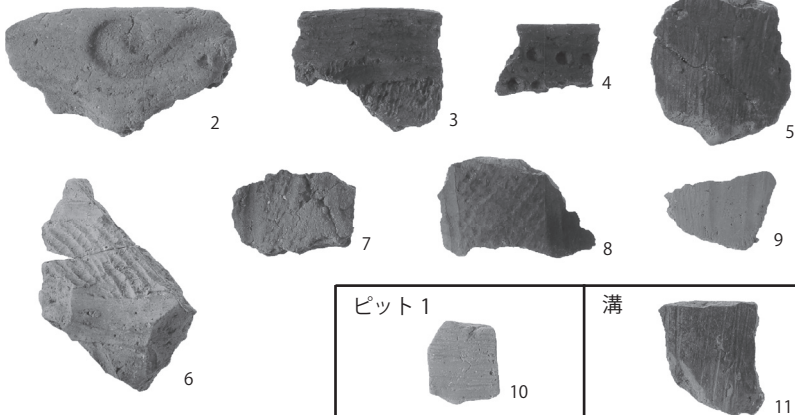


東久保南遺跡第 43 地点調査風景

J3 号住居跡



1



ピット 1

溝

遺構外



12

東久保南遺跡第 43 地点出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡完掘



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡遺物出土状況 1



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡遺物出土状況 2



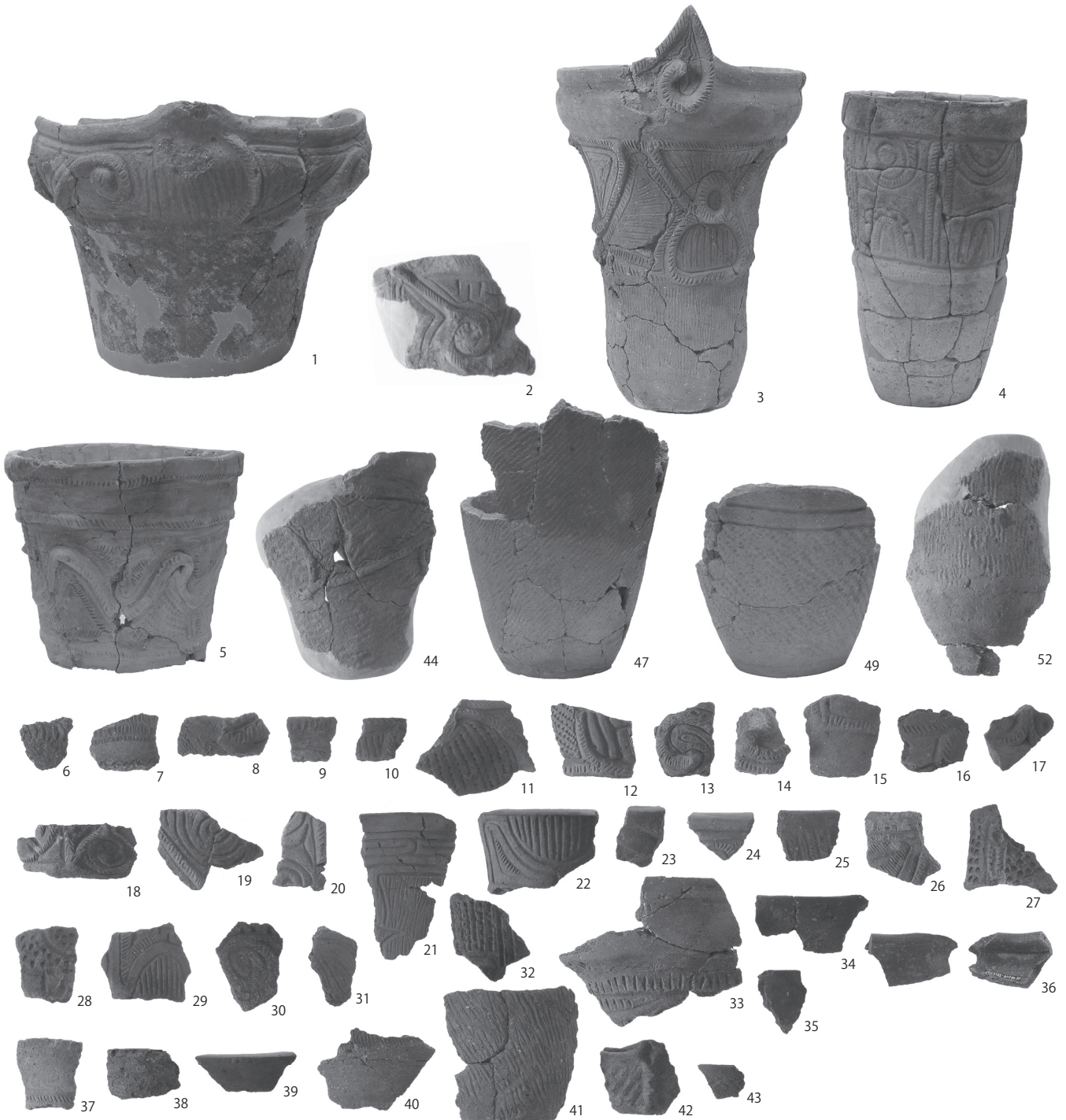
西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡調査風景



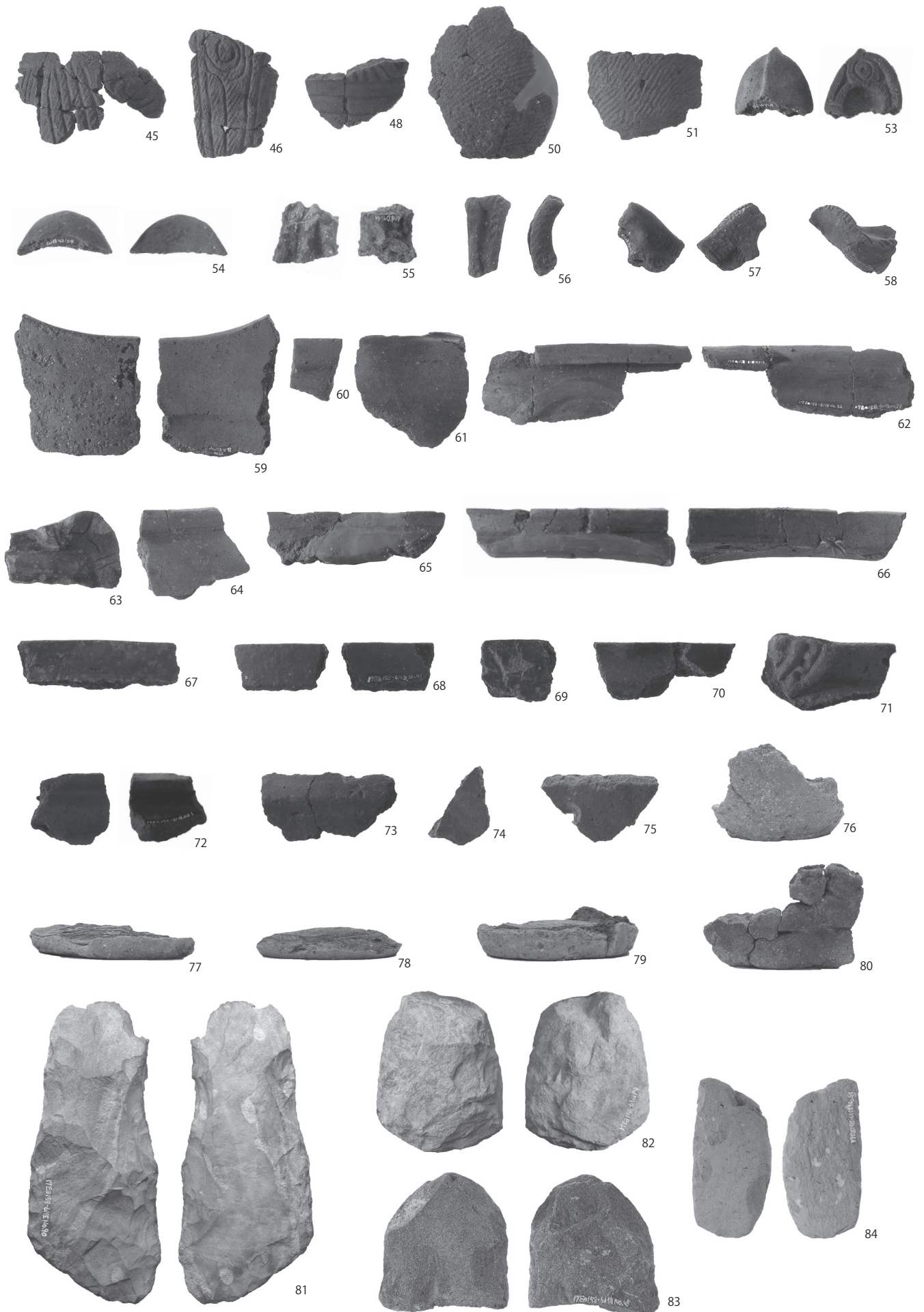
西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡完掘 (1991 年調査時)



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土状況 (1991 年調査時)



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土遺物



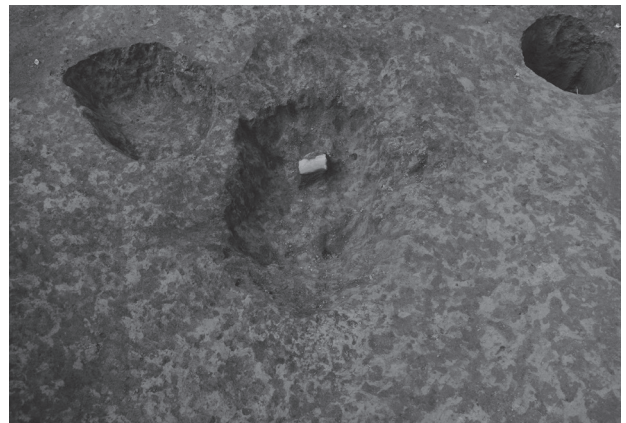
西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土遺物



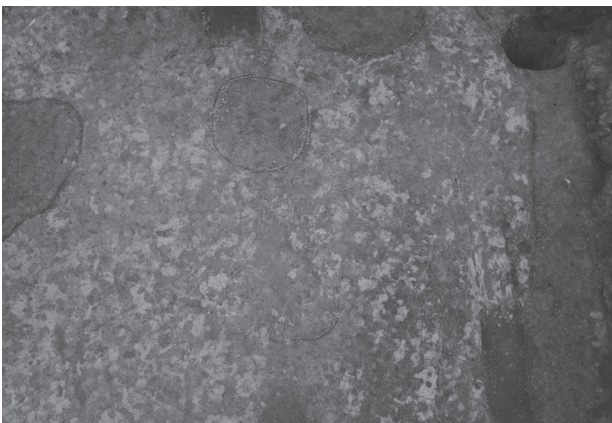
西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡完掘 1



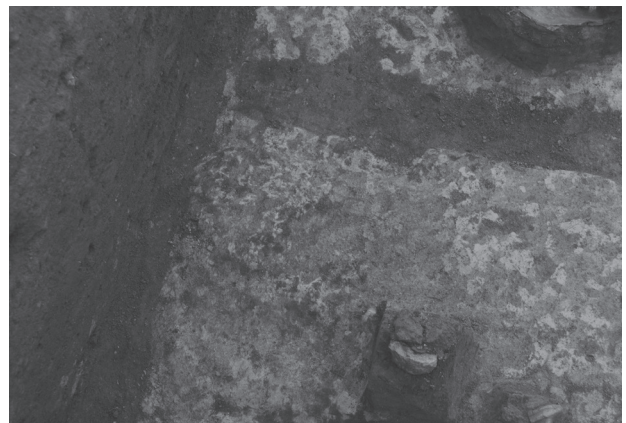
西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡完掘 2



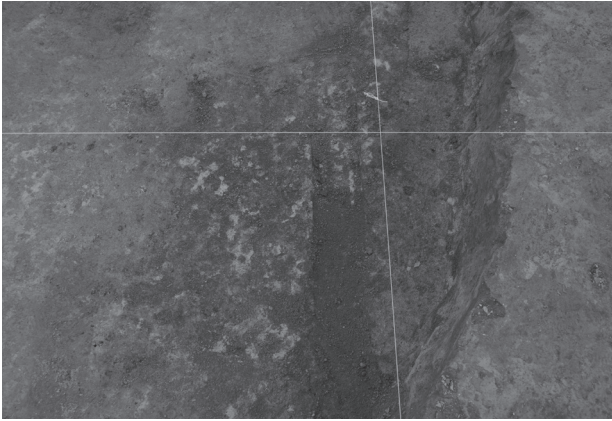
西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡炉完掘



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡焼土 1



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡焼土 2



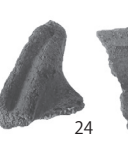
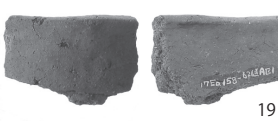
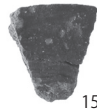
西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡炭化物範囲



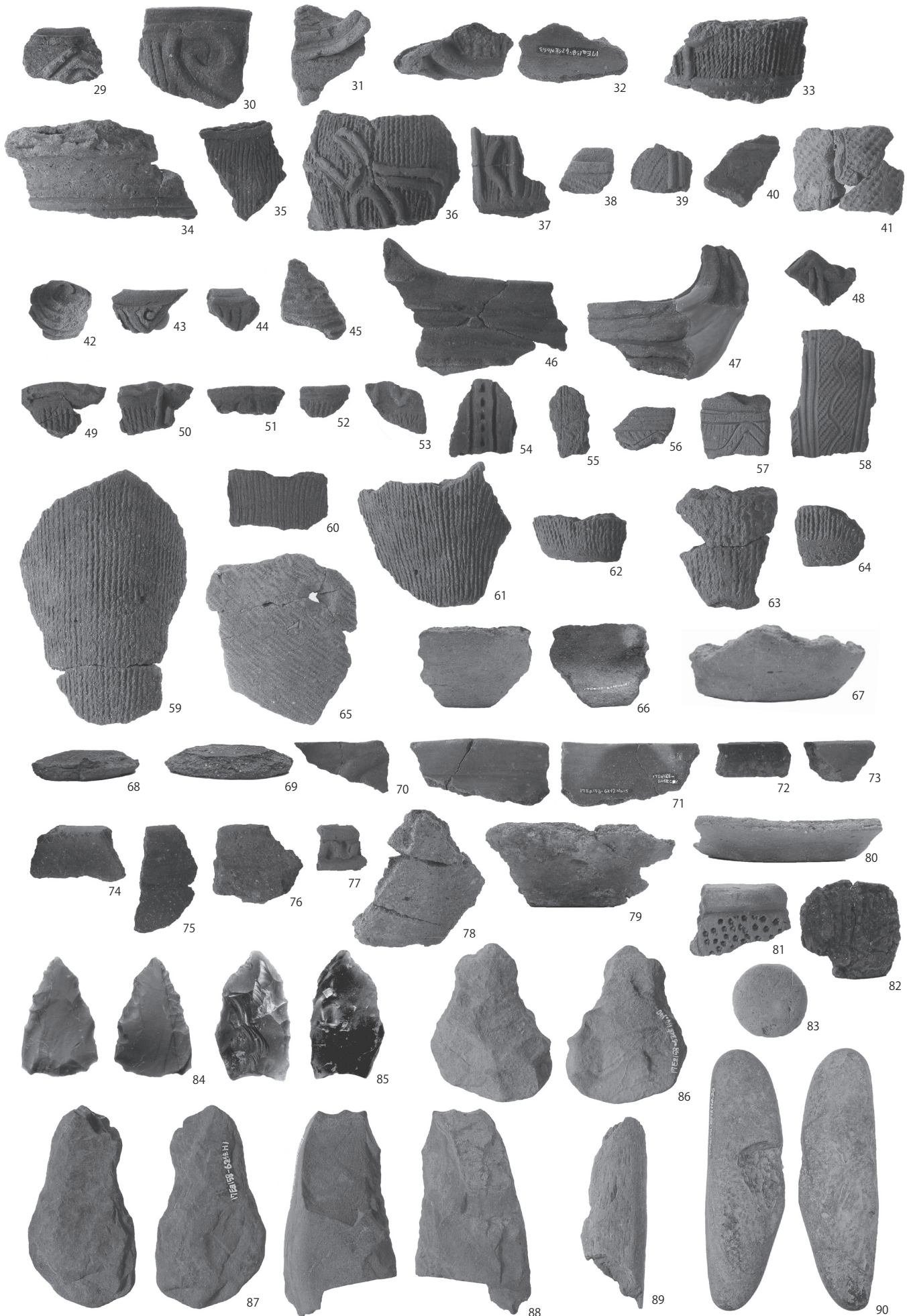
西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡遺物出土状況 1



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡遺物出土状況 2



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡出土遺物①



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡出土遺物②



西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡完掘 1



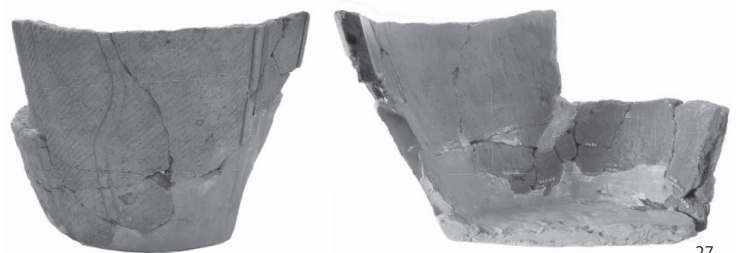
西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡完掘 2



西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡炉 1



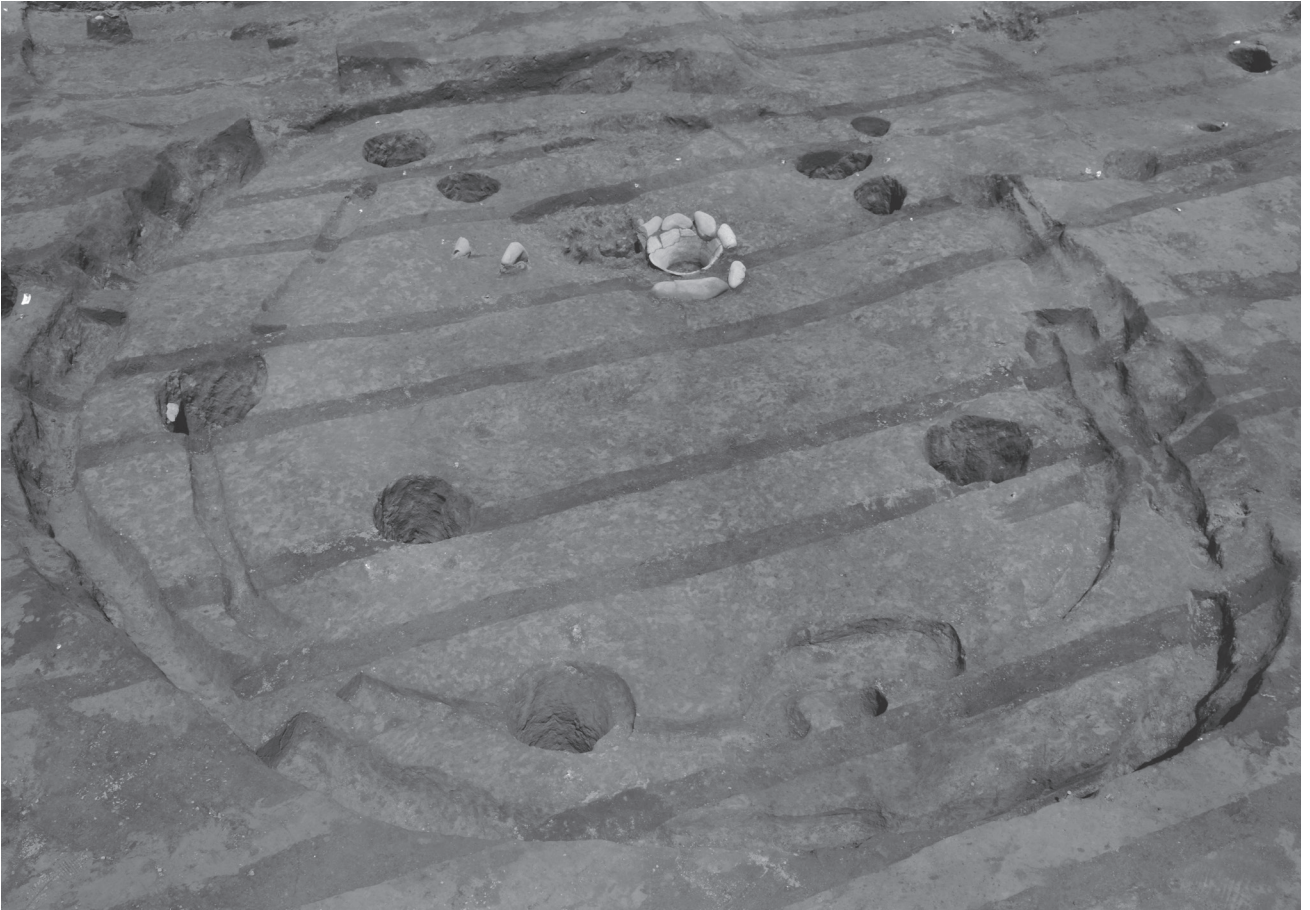
西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡炉 2



西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡出土遺物



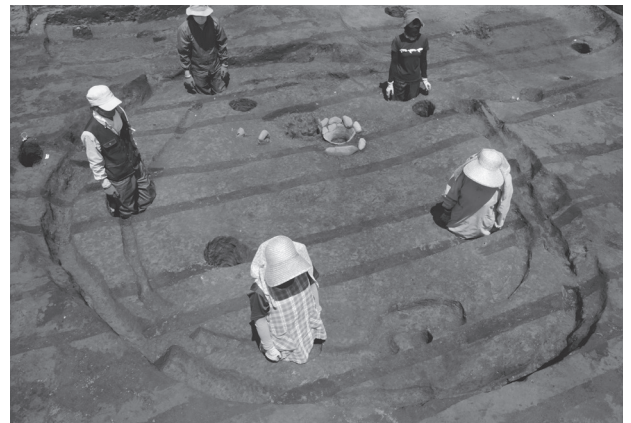
西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡完掘 1



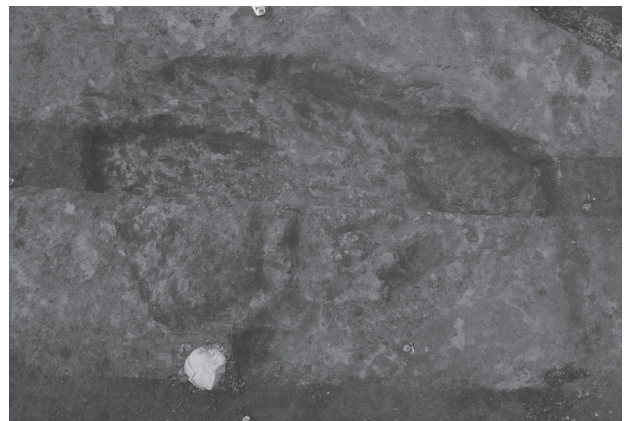
西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡完掘 2



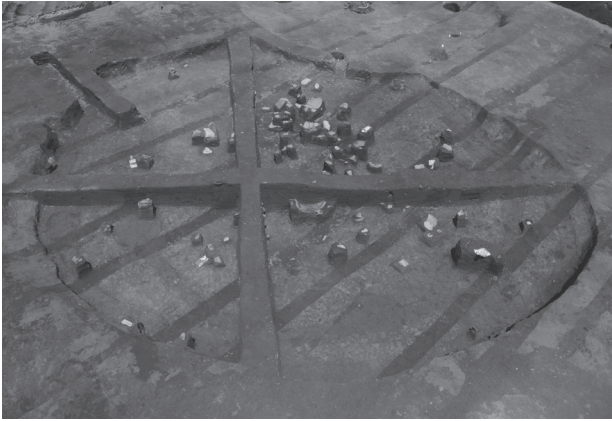
西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡完掘 3



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡炉 1



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡炉 2



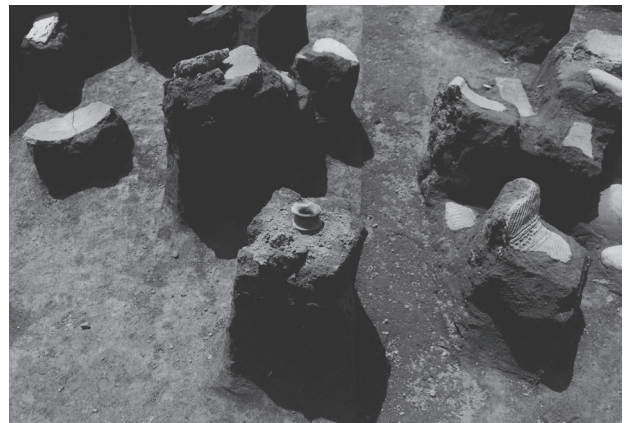
西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡遺物出土状況 1



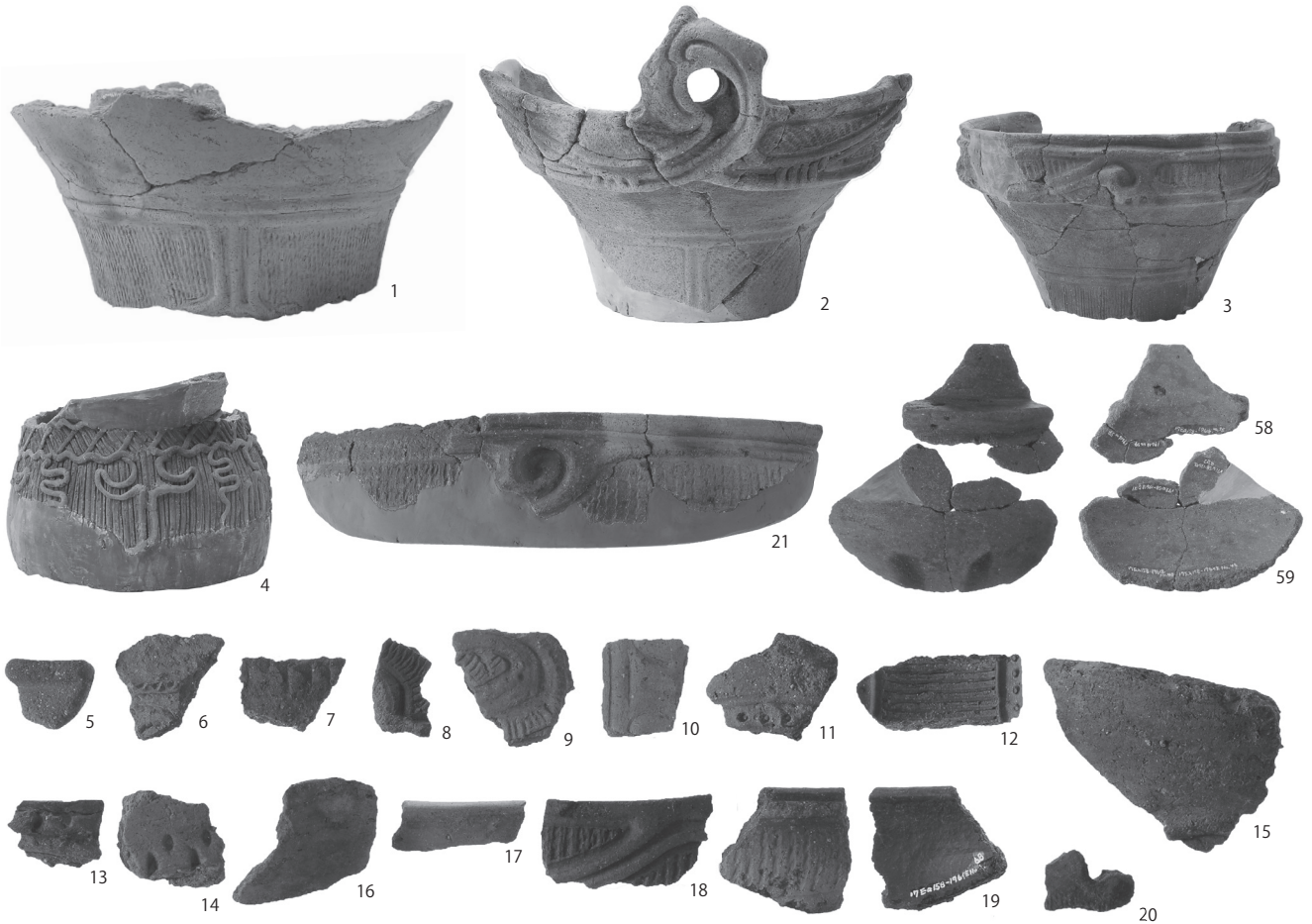
西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡遺物出土状況 2



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡遺物出土状況 3



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡耳栓出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡出土遺物①



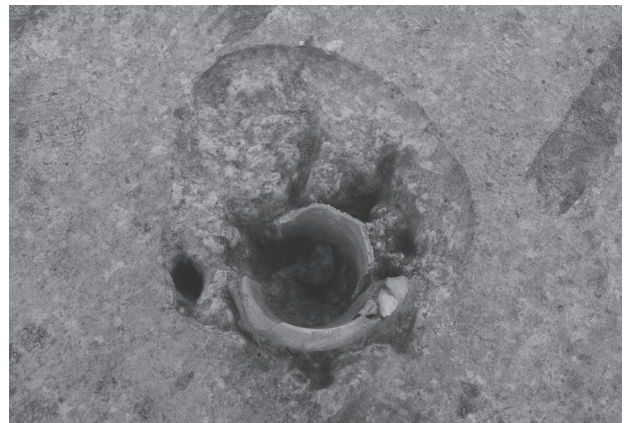
西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡出土遺物②



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡完掘 2



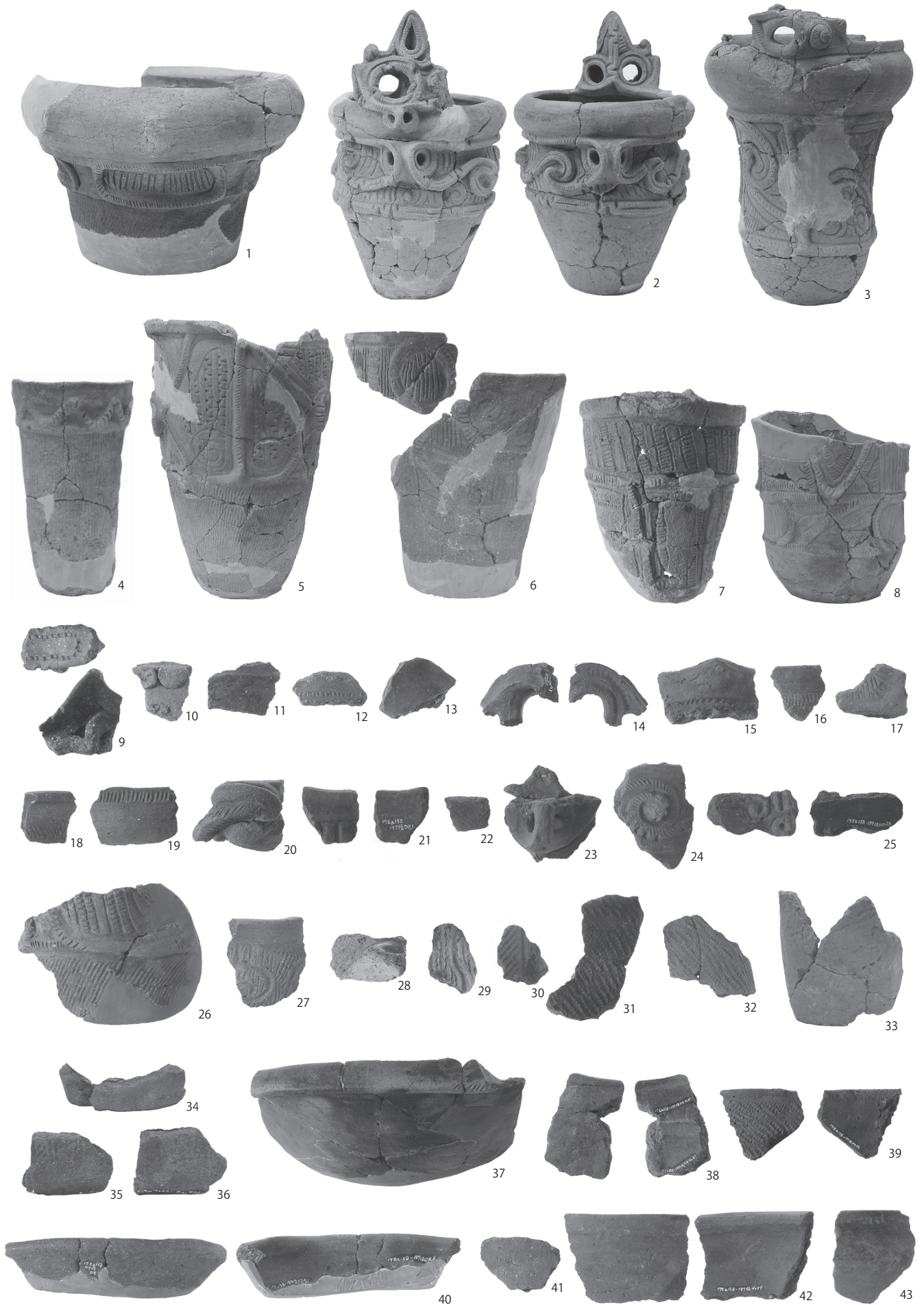
西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡炉掘方



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡出土遺物



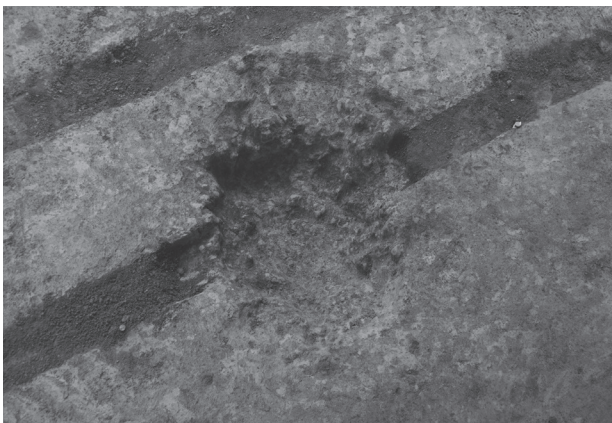
西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡完掘 2



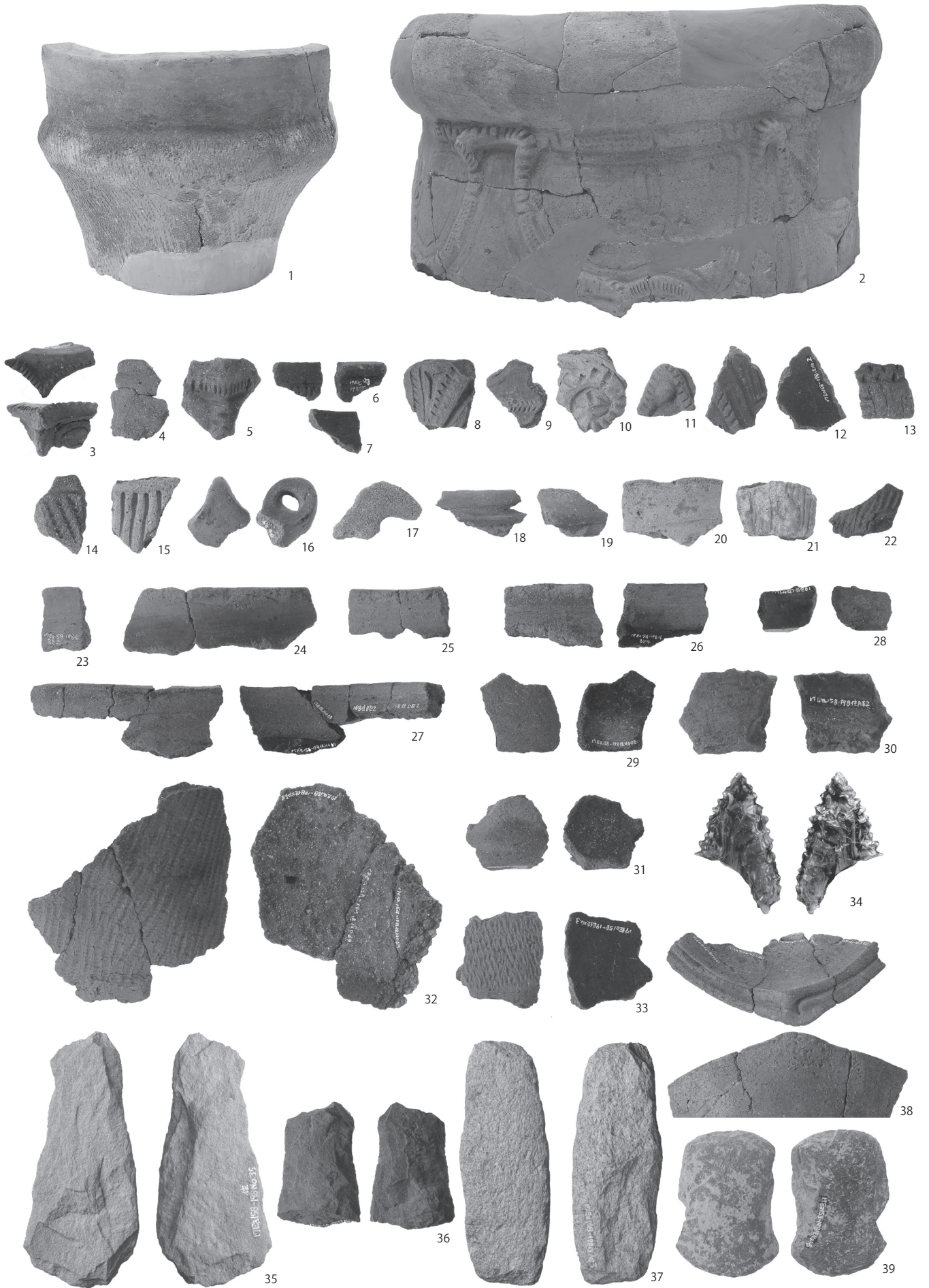
西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡炉



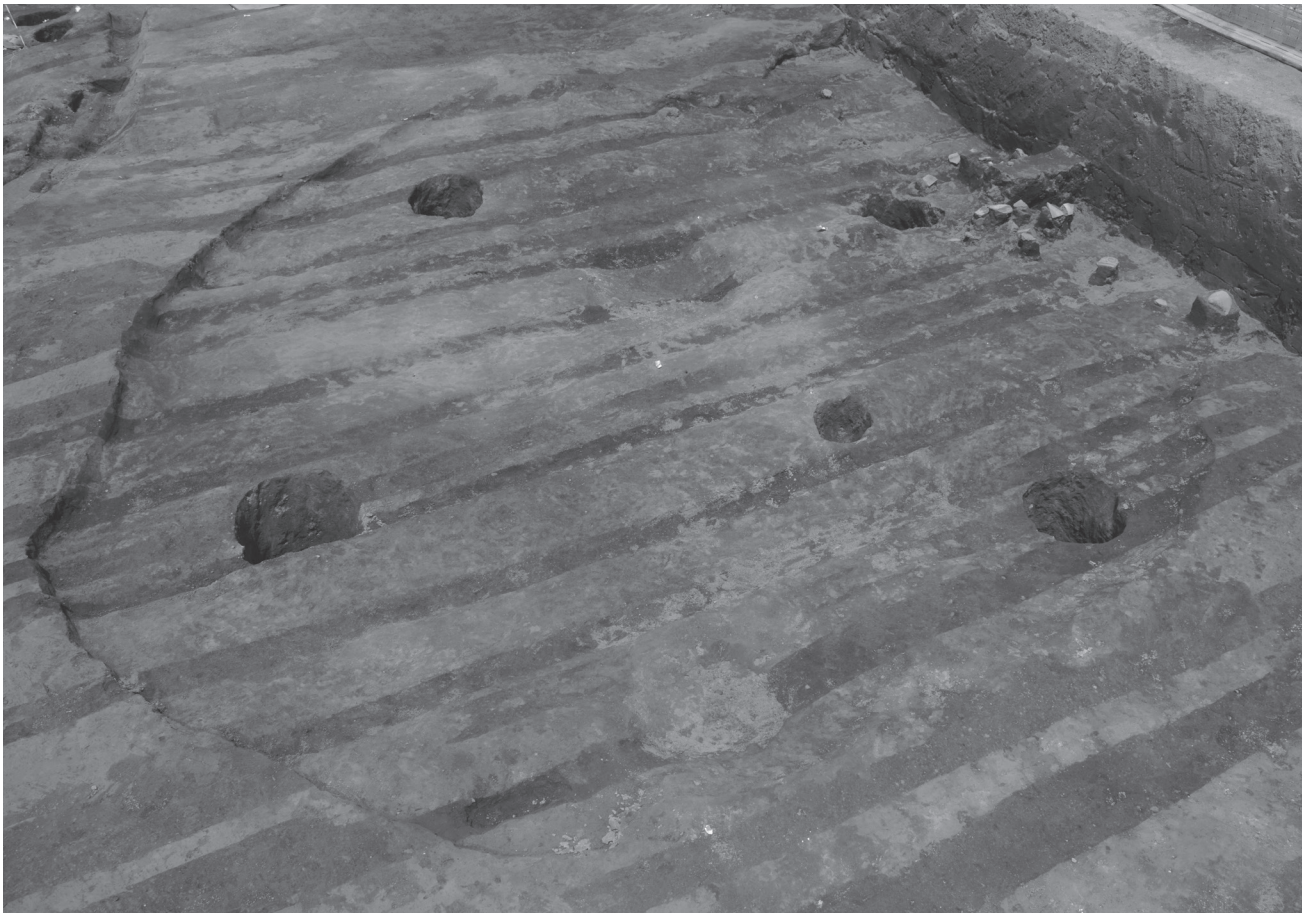
西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡炉掘方



西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡出土遺物



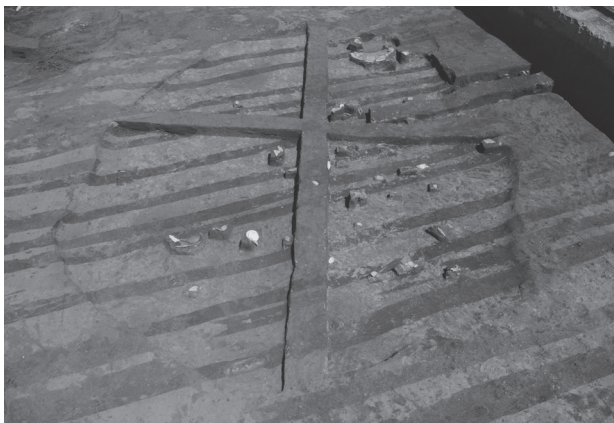
西ノ原遺跡第 158 地点 199・204 号住居跡完掘 1



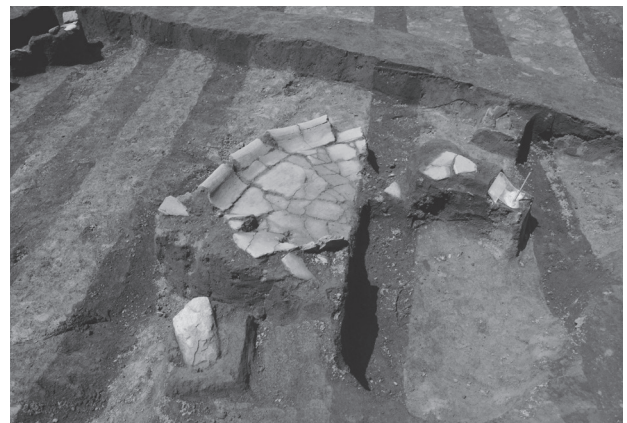
西ノ原遺跡第 158 地点 199・204 号住居跡完掘 2



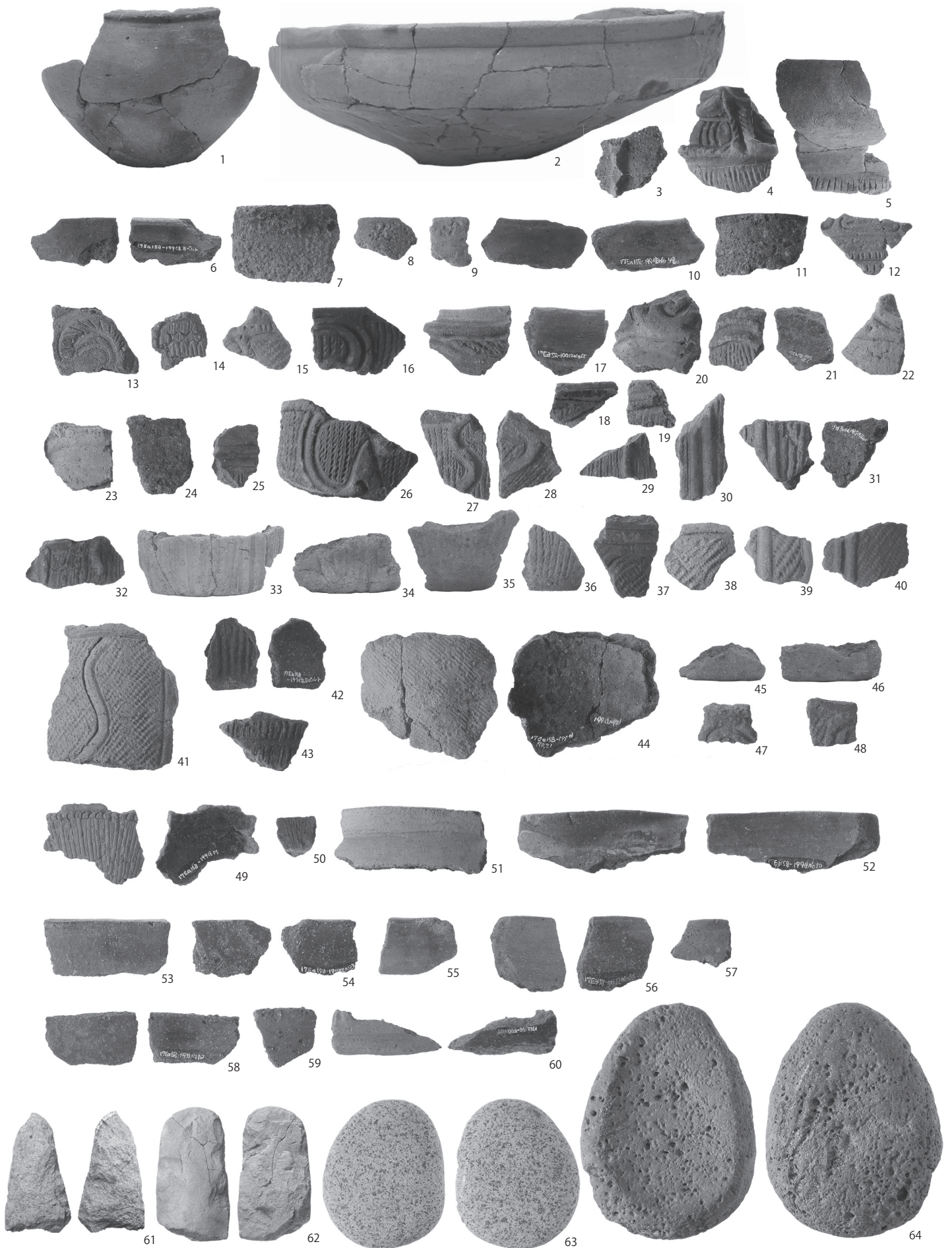
西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡炉



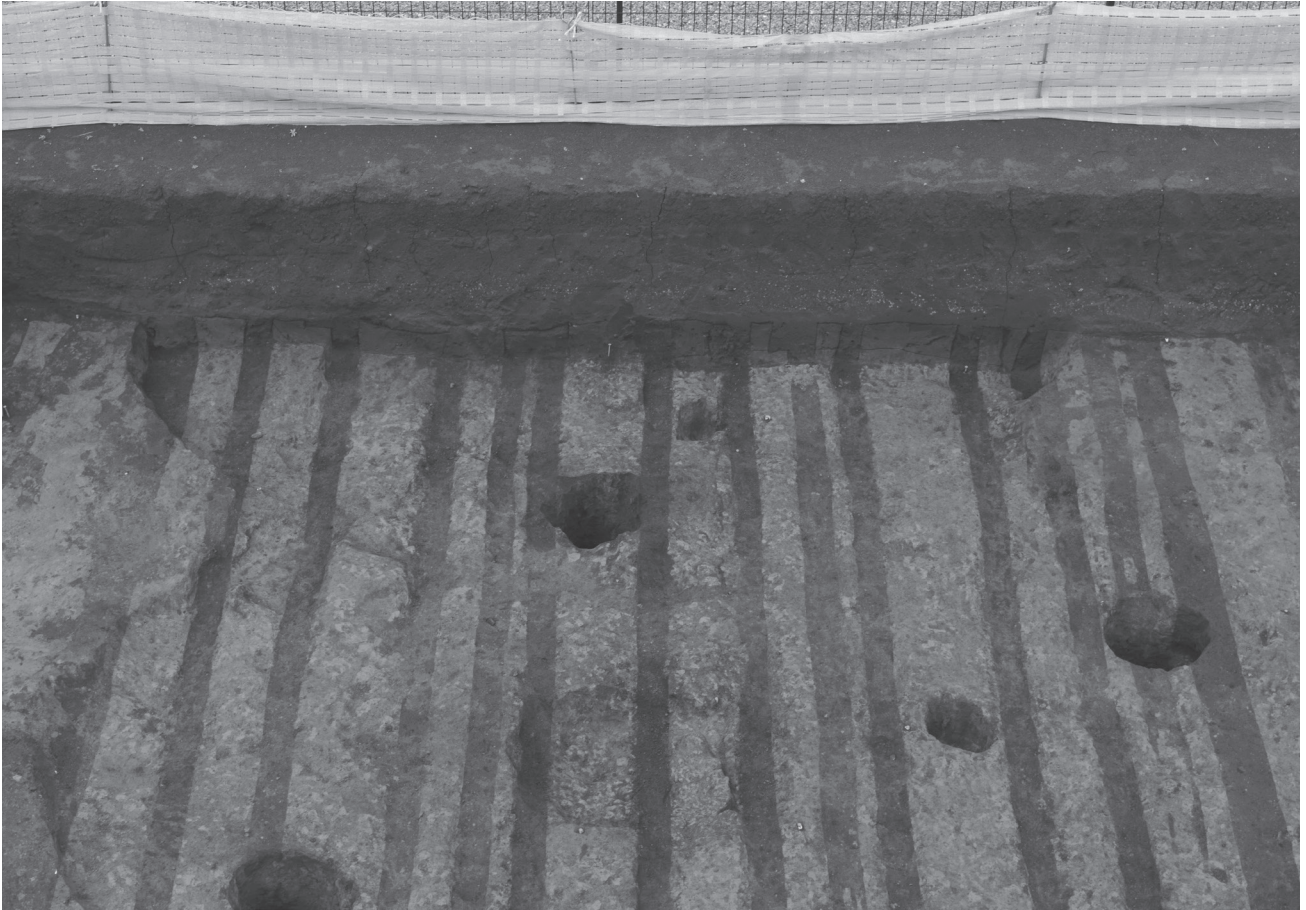
西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡遺物出土状況 1



西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡遺物出土状況 2



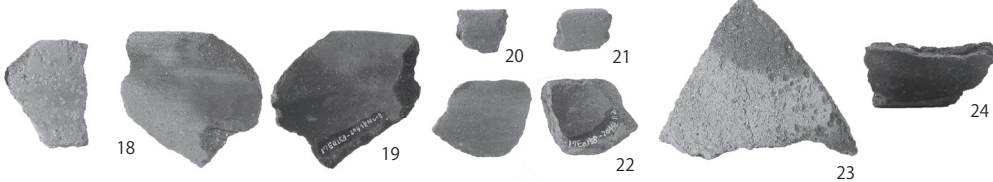
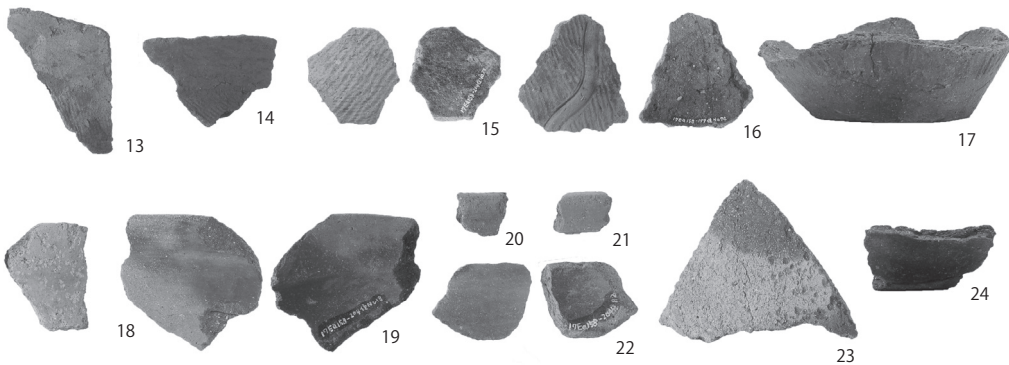
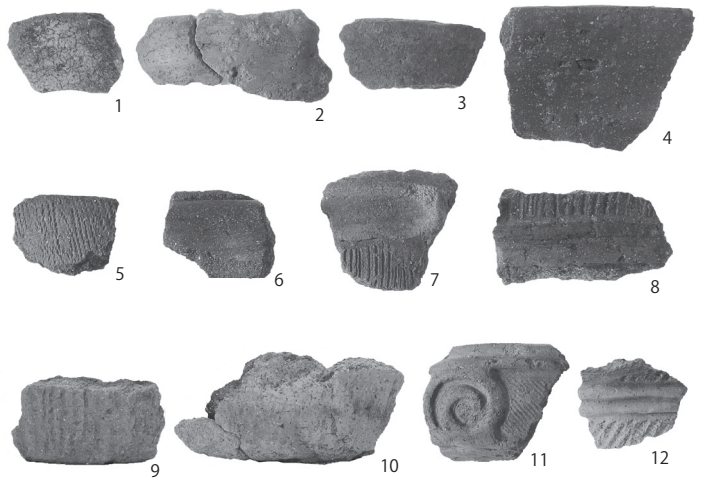
西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 204 号住居跡完掘



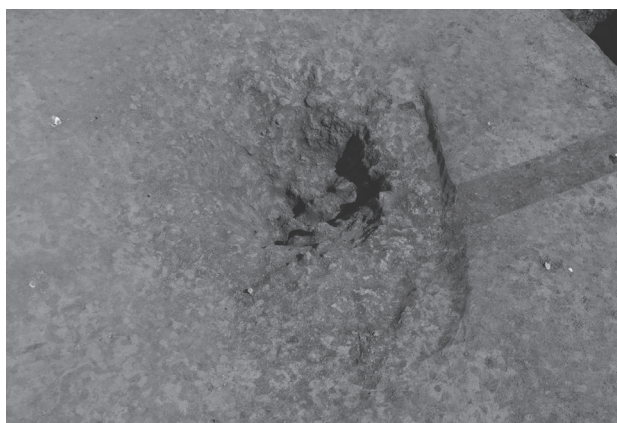
西ノ原遺跡 158 地点 204 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 204 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡炉 1



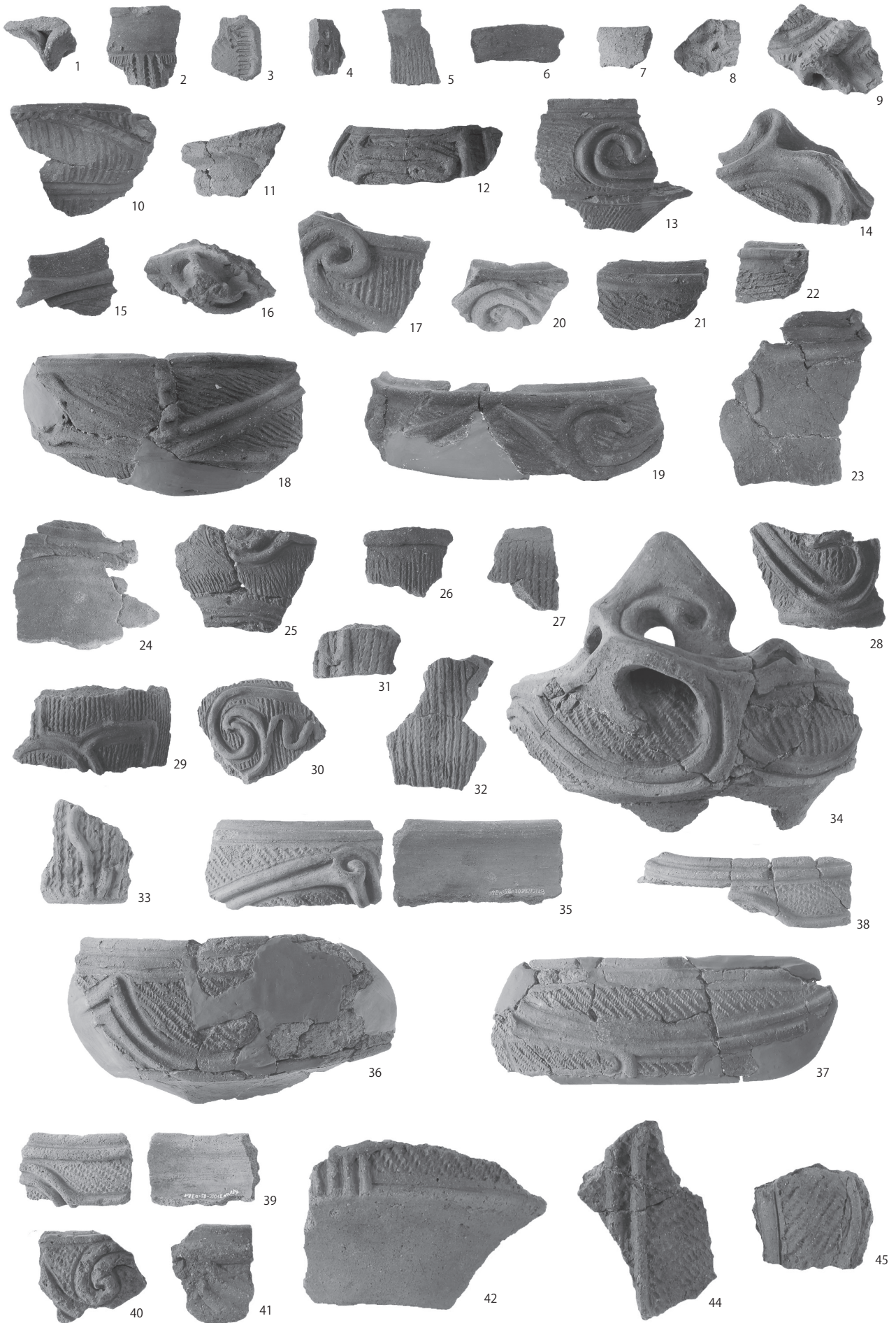
西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡炉 2



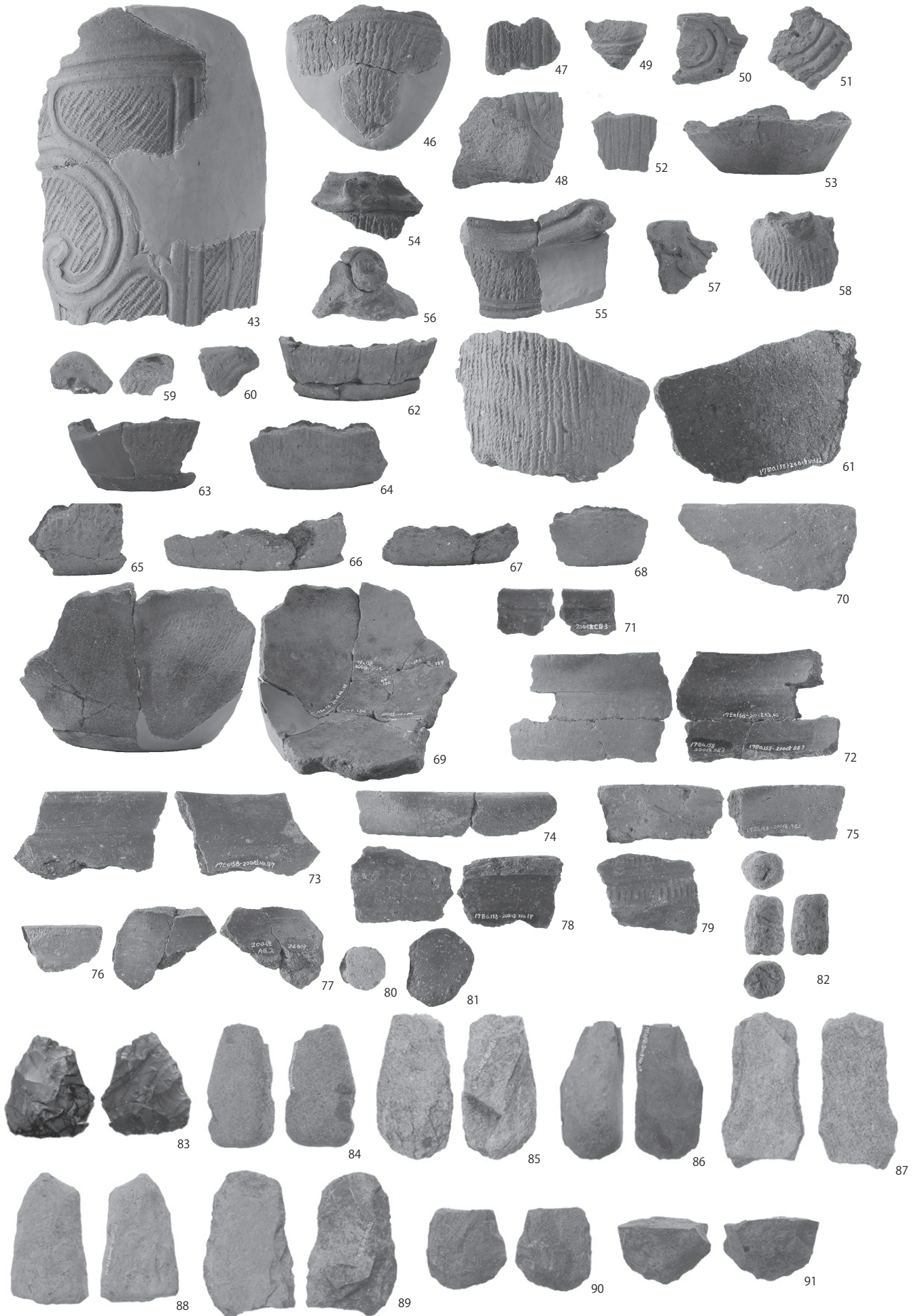
西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡調査風景



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡出土遺物①



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡出土遺物②



西ノ原遺跡第 158 地点 201 号住居跡完掘



西ノ原遺跡第 158 地点 201 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 201 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡完掘 2



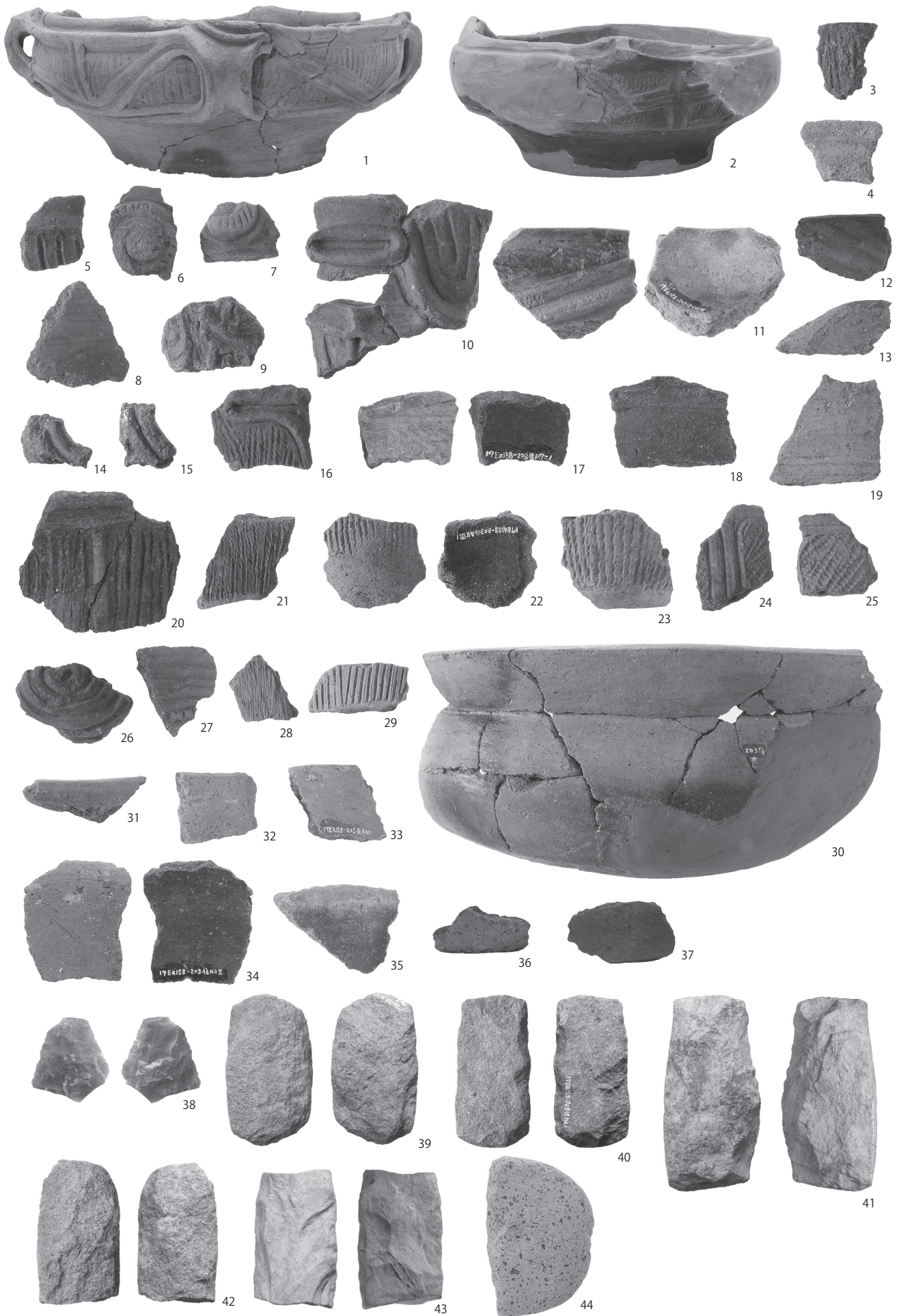
西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡完掘 3



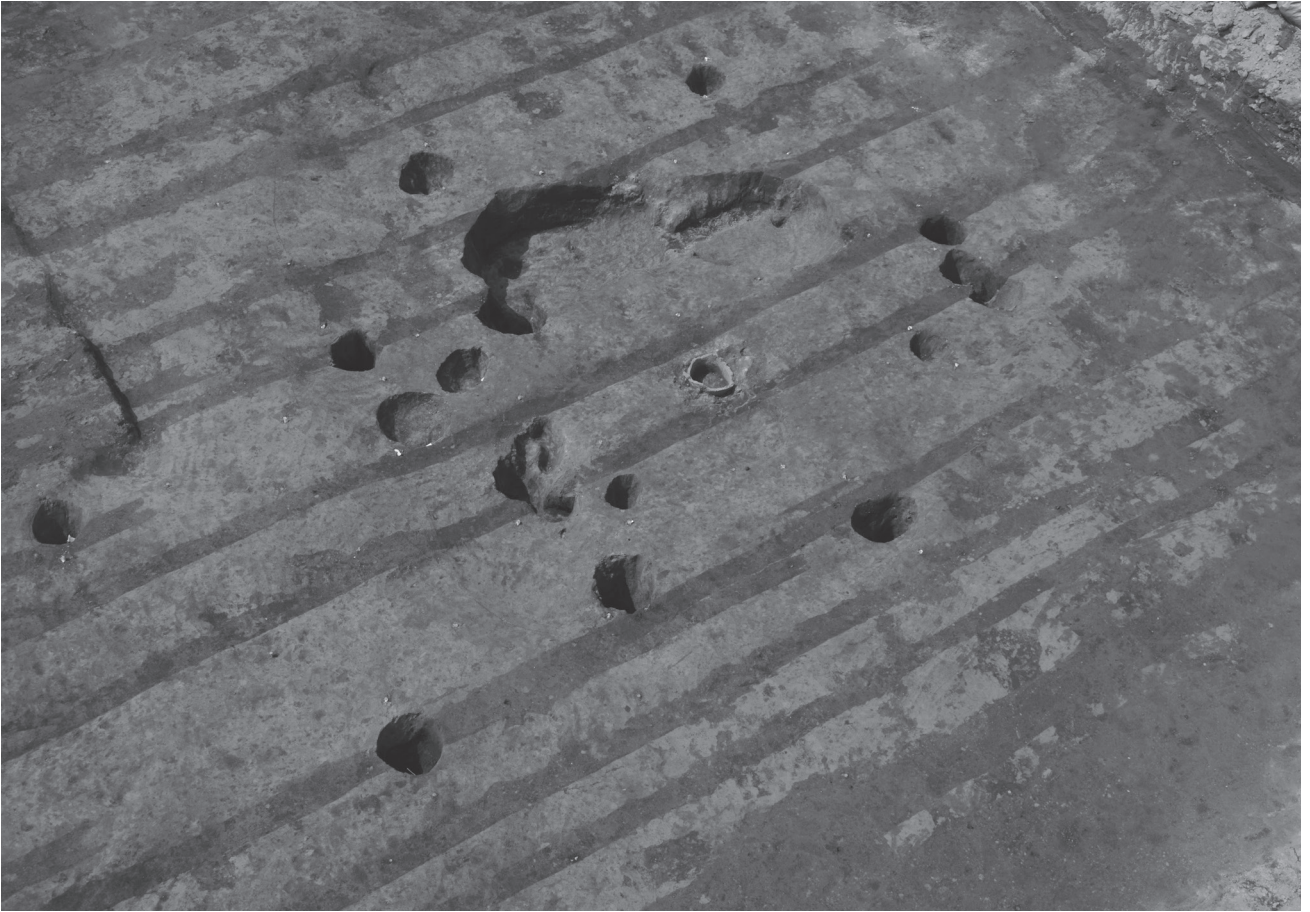
西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡作業風景



西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡出土遺物



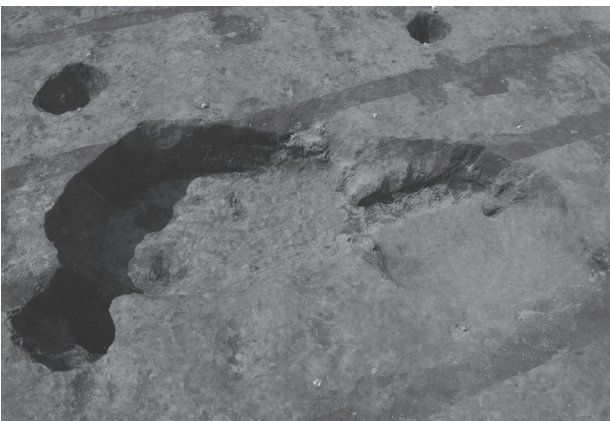
西ノ原遺跡 158 地点 216 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡完掘 2



西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡炉 A

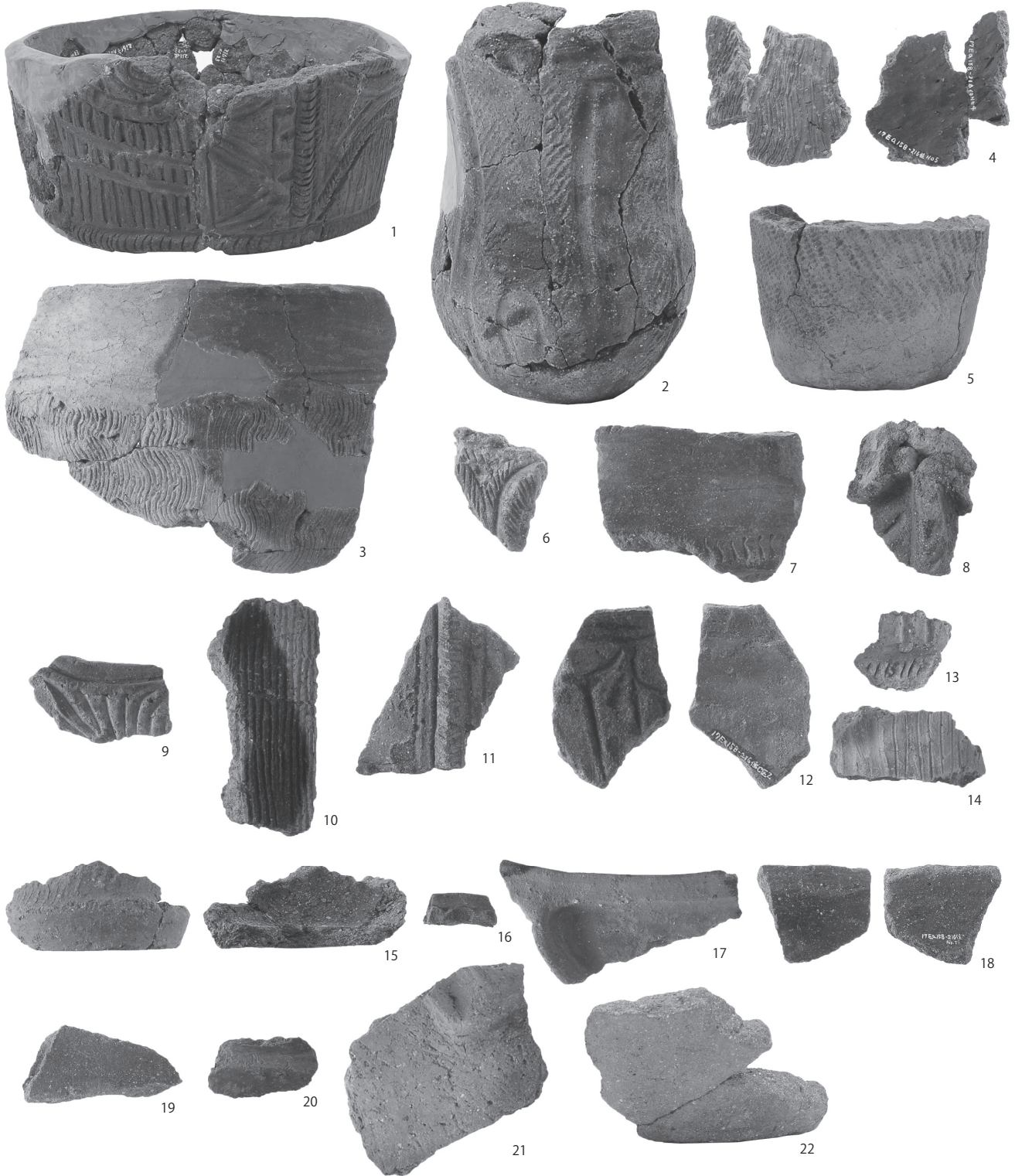


西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡炉 B 掘方

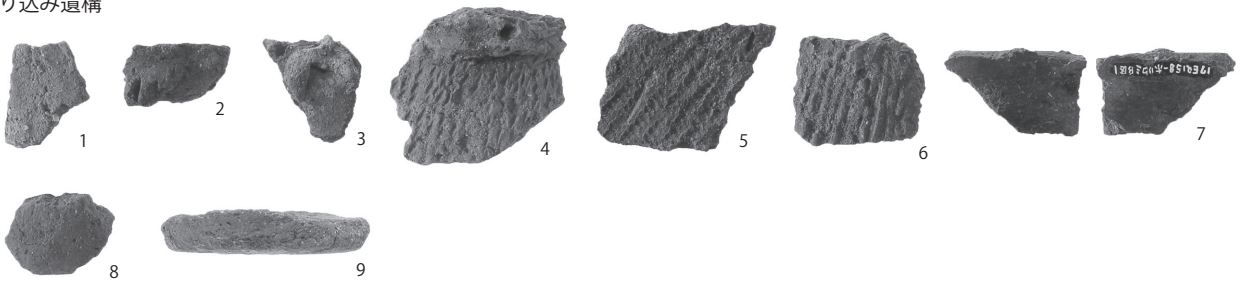


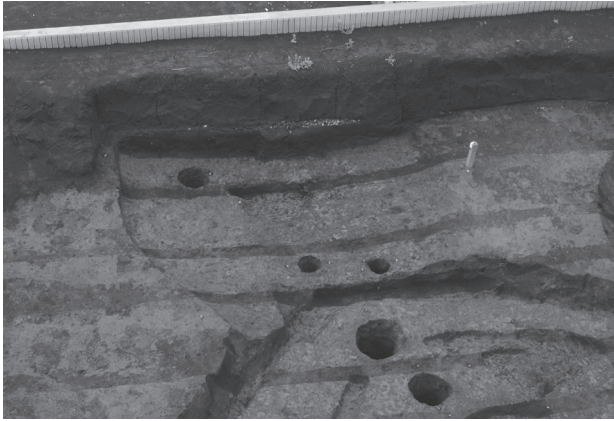
西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡炉 B 完掘

216 号住居跡



掘り込み遺構

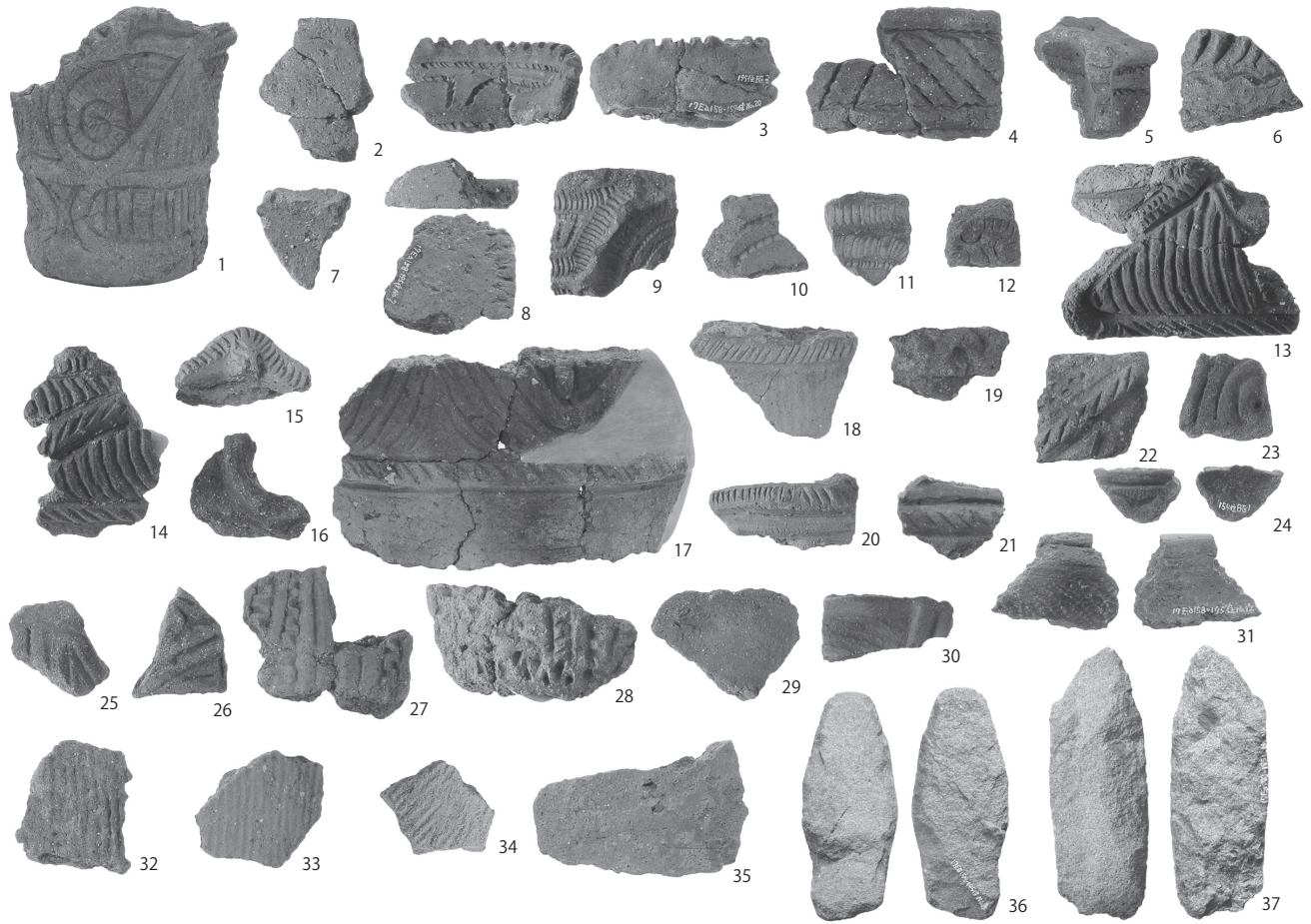




西ノ原遺跡第 158 地点 竖穴遺構完掘



西ノ原遺跡第 158 地点 竖穴遺構遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 竖穴遺構出土遺物



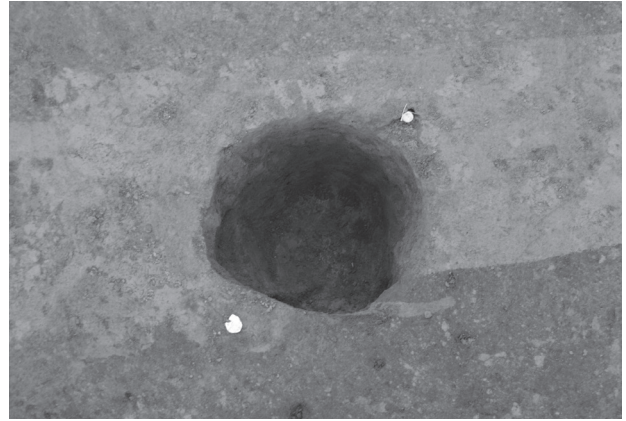
西ノ原遺跡第 158 地点 土坑 1



西ノ原遺跡第 158 地点 土坑 3



西ノ原遺跡第 158 地点土坑 4



西ノ原遺跡第 158 地点ピット 1



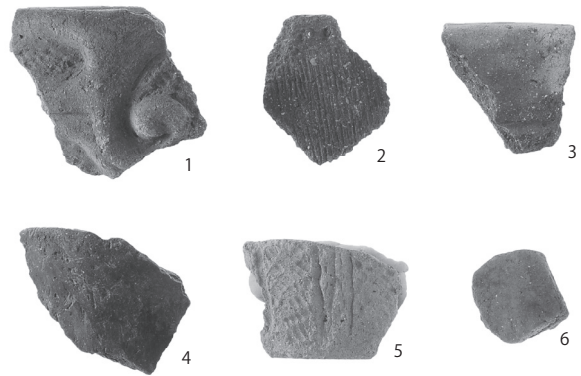
西ノ原遺跡第 158 地点ピット 2～5



西ノ原遺跡第 158 地点ピット 6



西ノ原遺跡第 158 地点ピット 7



西ノ原遺跡第 158 地点遺構外出土遺物

報告書抄録

書名	市内遺跡群23	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第24集			
編集者	岡崎裕子	著者	岡崎裕子、鎌田翔、長谷川義行、坪田幹男			
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒356-8501 ふじみ野市福岡一丁目1番1号 TEL 049 (261) 2611			
発行日	2019年(平成31年)3月29日					
所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積 ㎡	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了		調査担当者
種別/主な時代/主な遺構/主な遺物						
特記事項						
ハケ遺跡第24地点	埼玉県ふじみ野市福岡三丁目 1178-1、1179-1、1180-1、 1181-1、2066-2、2067	112453	35° 53' 03"	20170719	63.75	宅地造成
		25-005	139° 31' 21"	20170807		岡崎裕子・鎌田翔
集落跡/縄文時代/縄文時代住居跡1軒・集石土坑1基・竪穴遺構1基・土坑2基・ピット14基/近代/集石土坑1基/縄文土器・須恵器・陶磁器						
確認された縄文時代住居跡は、当地域の縄文時代の集落形成を考える上で貴重である。						
松山遺跡第99地点	埼玉県ふじみ野市仲二丁目4-2	112453	35° 52' 20"	20190111	33.8	分譲住宅
		25-010	139° 32' 02"	20190122		岡崎裕子・坪田幹男
集落跡/中近世以降/掘状遺構1本・ピット5基/陶磁器・ガラス瓶						
中近世とみられる掘状遺構は、当地域の中世集落の有り方を考える上で貴重である。						
駒林遺跡第35地点	埼玉県ふじみ野市新駒林三丁目 709-1～4、710-1・2	112453	35° 52' 11"	20170727	294	宅地造成
		25-013	139° 31' 37"	20170904		岡崎裕子・鎌田翔
集落跡/中近世/堀跡1本・土坑2基・溝4条/縄文土器・砥石・凹石・播鉢						
中世とみられる堀跡は、当地域における中世集落を考える上で貴重である。						
駒林遺跡第37地点	埼玉県ふじみ野市新駒林二丁目 216-1、217-1	112453	35° 52' 08"	20180305	180	店舗
		25-013	139° 31' 41"	20180316		岡崎裕子・鎌田翔
集落跡/中近世/堀跡1本・堀内ピット47基/瓦質土器・陶磁器・縄文土器・泥面子・砥石						
中世とみられる堀跡は、当地域における中世集落を考える上で貴重である。						
東久保南遺跡第43地点	埼玉県ふじみ野市ふじみ野四丁目 11-2・7	112453	35° 51' 29"	20171101	22.5	共同住宅
		30-032	139° 31' 03"	20171115		岡崎裕子・鎌田翔
集落跡/縄文時代/縄文時代住居跡1軒・ピット/近代/溝/縄文土器						
確認された縄文時代住居跡は、当地域の集落範囲を知る上で貴重である。						
西ノ原遺跡第158地点	埼玉県ふじみ野市旭一丁目15-6 の一部	112453	35° 50' 57"	20170404	700	共同住宅
		30-001	139° 31' 05"	20140718		岡崎裕子・鎌田翔
集落跡/縄文時代/縄文時代住居跡12軒・竪穴遺構1基・掘り込み遺構1基・土坑4基・ピット8基/縄文土器・石器・耳栓						
確認された縄文時代住居跡は、当地域の集落範囲及び集落形成を知る上で貴重である。						

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第24集

埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 23

2019年3月20日印刷

2019年3月29日発行

発 行 ふ じ み 野 市 教 育 委 員 会

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡一丁目1番1号

TEL 049-261-2611

FAX 049-261-5100

印 刷 関 東 図 書 株 式 会 社
